

びわ湖東北部地域における学術文化教育基盤形成を目的と
した大学・短期大学・地域連携プラットフォーム事業

成 果 報 告 書

(2023 年度)

びわ湖東北部地域連携協議会

目 次

1. はじめに（協議会長挨拶）	・ ・ ・ ・ P. 1
2. びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業概要	・ ・ ・ ・ P. 2
3. 2023 年度 活動概要	・ ・ ・ ・ P. 6
4. ワーキンググループの取組	・ ・ ・ ・ P. 17
(1) ワーキンググループ A	
① 活動概要	・ ・ ・ ・ P. 17
② 具体的な取組状況・成果・課題	・ ・ ・ ・ P. 19
③ 総評	・ ・ ・ ・ P. 32
(2) ワーキンググループ B	
① 活動概要	・ ・ ・ ・ P. 34
② 具体的な取組状況・成果・課題	・ ・ ・ ・ P. 36
③ 総評	・ ・ ・ ・ P. 84
(3) ワーキンググループ C	
① 活動概要	・ ・ ・ ・ P. 87
② 具体的な取組状況・成果・課題	・ ・ ・ ・ P. 90
③ 総評	・ ・ ・ ・ P. 132
(4) ワーキンググループ D	
① 活動概要	・ ・ ・ ・ P. 134
② 具体的な取組状況・成果・課題	・ ・ ・ ・ P. 135
③ 総評	・ ・ ・ ・ P. 138
(5) 協議会	
① 活動概要	・ ・ ・ ・ P. 139
5. まとめ	
(1) 2023 年度 全体総括	・ ・ ・ ・ P. 140
(2) コーディネーターからの提言	・ ・ ・ ・ P. 147
(3) 外部評価委員からの提言	・ ・ ・ ・ P. 150

1. はじめに

協議会長挨拶

基本理念 “SDGs を活用した豊かに働き生活できるびわ湖東北部地域の創出”

現在、少子高齢化が進む日本においては、地方の活性化が大きな課題となっています。ここ、びわ湖東北部地域においても、地域社会を活性化し、豊かに働き生活できる住みよい魅力と活気のある地域社会を創出するという大きな課題への取組は避けて通ることができません。特に大学にとりましては、これからの 18 歳人口の急速な減少により、各大学の理想とする教育・研究を行うことが難しくなるだけでなく、その存続自体も危ぶまれており、地域の皆様との協業を通じてこれに対応していくことが喫緊の課題となっています。

このような背景の中、2020 年度より多くの皆様のご協力を得て、びわ湖東北部地域にある 5 大学（滋賀大学・滋賀県立大学・聖泉大学・長浜バイオ大学・滋賀文教短期大学）・4 自治体（滋賀県・彦根市・米原市・長浜市）・2 つの経済団体（彦根商工会議所・長浜商工会議所）が、力を合わせて地域課題に取り組むためのプラットフォーム「びわ湖東北部地域における学術文化教育基盤形成を目的とした大学・短期大学・地域連携プラットフォーム」を形成することができました。これにより職住学近接を生かした、地域にお住いの皆様が日常的に行き来しているびわ湖東北部の 3 市（彦根市・米原市・長浜市）を、本プラットフォームの中核活動地域に位置付け、大学、短期大学、自治体、経済産業界等が持続可能な開発目標である SDGs を活用し、力を合わせてそれぞれの得意分野で協働して取り組み、有能な人材を養成し地域で活躍してもらうことで、豊かに働き生活できる、魅力と活気ある地域社会を創出すること実現しようとしています。

2023 年度は、2019 年度から継続・発展させてきた事業活動を中心に、地域課題の解決に資する事業活動を本プラットフォーム連携機関が力を合わせ充実した事業を展開して参りました。また、本年度は更なる産官学連携を通じた地域連携活動を発展させる目的で、積極的に産官学連携活動を展開している他の地域に視察に行き、今後の地域連携の発展の知見を得る活動も行いました。

本プラットフォームでは、地域課題の解決に必要な事業領域と事業活動に対する数値目標等を設定した、2019 年度から 6 年間にわたる中長期計画を策定しております。この中長期計画に基づき、プラットフォームで取り組んだ本年度の成果を記したものが今回の報告書です。今後とも、地域の皆様方のご理解とご協力を頂ければ幸いに存じます。

びわ湖東北部地域における学術文化教育基盤形成を目的とした
大学・短期大学・地域連携プラットフォーム事業
連携協議会長 蔡 晃植

2. びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業概要

(1) びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業の設立

滋賀県のびわ湖東北部地域においては、個々の大学・短期大学と自治体・経済産業界等との間で様々な連携・協働が試みられ成果を上げてきた。今後さらなるびわ湖東北部地域の活性化のためには、これまでの連携・協働を発展させ、社会の持続可能な開発目標である SDGs「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」を活用しながら、自治体や経済産業界等との緊密な協働と情報共有のもと、各校の特徴と強みを発揮し、総合的かつ多面的な取組を展開することが必要と考えられた。そこで、2018 年 9 月に SDGs を活用することで豊かに働き生活できる彦根・長浜地域を創出することを目標とする、彦根・長浜地域の滋賀大学・滋賀県立大学・滋賀文教短期大学・聖泉大学・長浜バイオ大学・滋賀県・彦根市・彦根商工会議所・長浜市・長浜商工会議所の 10 機関による彦根・長浜地域連携協議会が組織された。協議会として協働事業を行うにあたり、「彦根・長浜地域における学術文化教育基盤形成を目的とした大学・短期大学・地域連携プラットフォーム事業(以下、「プラットフォーム事業」という)」における中長期計画を策定し、文部科学省「2018 年度 私立大学等改革総合支援事業・タイプ 5」に申請したところ、本プラットフォーム事業が採択された。

2018 年度から開始した本プラットフォーム事業は、協議会に属する大学の改革を推進するとともに、地域における知の基盤としての役割を果たし、大学の特徴や強みを生かした地域貢献や地域社会で活躍する人材の育成及び豊かな地域社会の構築に産官学が連携して戦略的に取り組むことを柱にしている。

2020 年度より地域内の就職活動および採用支援活動を中心に、地域の活性化に資する活動に協力していただいている米原市を新たな連携機関に迎えた。協議会を構成する連携機関が 11 機関になったことに伴い、2020 年 9 月にプラットフォーム名称を、「びわ湖東北部地域における学術文化教育基盤形成を目的とした大学・短期大学・地域連携プラットフォーム」(以下、協議会)とした。そして、協議会の事業活動を継続・発展させ、これまでに約 200 件の具体的な活動を行っている。

こうした活動取組に対して、産官学の代表者で構成される外部評価委員会からは、「彦根長浜地域の 5 大学および行政、産業界でスタートした協議会は当初から想像以上に多彩な活動を繰り広げている。」「大学が事業の核となることにより、初年度より、各大学の自由で先見性のある学問研究の特色・専門性、『大学力』を活かした多様且つ、ユニークな事業が展開されている。」「取組事業が年々レベルアップしていることを高く評価する。」「生涯学習に関して、地域でこれだけ多くの地域住民が参加されているセミナーは珍しく、充実した内容、講師を起用されていると感じ高く評価できる。」との評価を得ている。」

外部評価委員会からの助言やコロナ禍での活動で得た知見を活かし、多くの事業活動を継続・発展させ、本年度は 80 件の活動を実施することができた。これは協議会に加盟する連携機関が、コロナ禍後の地域社会に必要とするものを考え、それぞれの特徴や強みを生かした豊かな地域社会の構築を目指す地域貢献活動及び地域社会で活躍する人材の育成に向けて取り組んでいる証である。

（２）びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業の特色

① 目指すべき将来像の設定

プラットフォーム事業では、びわ湖東北部地域の課題を共有した上で、以下の４つの将来像を中長期計画の根幹に置き、SDGs を活用することで、豊かに働き生活できるびわ湖東北部地域の創出を目指している。

- １）自治体・地域経済界に開かれた高等教育環境のある地域
- ２）誰もが安心・安全に住み続けることができる地域
- ３）地域住民・観光客等を引き付ける地域資源のある地域
- ４）若年層が魅力を感じる豊かな産業基盤のある地域

これらはそれぞれ別個の独立したものでなく、本事業が設定する課題分野の個々の取組が、総合的かつ有機的に連携することで実現される将来像と捉えている。

② 運営体制

プラットフォーム事業を円滑に進めるにあたり、協議会を運営する事務局を置き、中長期計画の根幹に据えている４つの将来像の実現にむけ、以下３つの事業に対応したワーキンググループ（以下「WG」という。）を設置している。

- １）ワーキンググループ A（WG-A）：産業振興に向けた産官学連携事業
- ２）ワーキンググループ B（WG-B）：地域コミュニティの活性化事業
- ３）ワーキンググループ C（WG-C）：地域を担う次世代人材の育成事業

以上の３つの事業の進捗状況を事務局が管理し、さらに、事業活動の情報発信を行う WG-D「広報・ホームページ（HP）管理」を設置している。

（３）具体的な目標設定

プラットフォーム事業で行う WG の活動に対して、事業最終年度までに達成を目指す「達成目標」（KGI：Key Goal Indicator）及び KGI を達成するために年度ごとの取組成果として目指すべき「活動指標」（KPI：Key Performance Indicator）を定め、年度単位での活動の進捗状況を評価している。具体的な達成目標（KGI）及び活動指標（KPI）は以下の通りとなる。

① 【WG-A：産業振興に向けた産官学連携事業】

＜ 取組事業 ＞

- １）産官学連携事業
- ２）インターンシップ・採用活動支援事業
- ３）UIJ ターン推進事業

＜ 達成目標（KGI）＞

- 1) 産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化。
- 2) 就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。

＜ 活動指標（KPI）＞

- 1) 産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。
- 2) インターンシップ・採用活動支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生数(延べ数)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。
- 3) UIJ ターン推奨事業として、滋賀県外居住者の滋賀県内企業や事業所へのプラットフォーム連携機関を通じた雇用について、最終年度までに年間 20 名以上を実現する。

②【WG-B：地域コミュニティの活性化事業】

＜ 取組事業＞

- 1) 生涯学習拠点整備事業
- 2) 地域住民に向けた健康増進支援事業
- 3) 国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業
- 4) ネットワーク推進事業

＜ 達成目標（KGI）＞

- 1) 地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年度比で 40%増加させる。
- 2) 地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。

＜ 活動指標（KPI）＞

- 1) 地域住民向けの公開講座を毎年 10 講座以上開講する。
- 2) 最終年度以降も継続可能な地域住民向けの健康イベントを 5 件以上定着させる。
- 3) 産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
- 4) 地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年 2 回以上開催し、活動の満足度等を測定する。

③【WG-C：地域を担う次世代人材の育成】

＜ 取組事業＞

- 1) SDGs をテーマとした共同講義事業
- 2) 単位互換事業
- 3) 幼・小・中・高校生への学習支援事業
- 4) 地域内進学促進事業
- 5) 地域人材活性化支援事業
- 6) 共同 FD・SD 事業

＜ 達成目標（KGI）＞

- 1) 地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年度比で 20%増加する。

- 2) びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上増加させる。

＜ 活動指標 (KPI) ＞

- 1) SDGs をテーマにした共通科目を 1 科目以上開発する。
- 2) 単位互換科目受講生を 2018 年度比で 30 名以上増加させる。
- 3) 幼小中高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。
- 4) プラットフォーム事業参加校合同で高校生向けの大学説明会を年 1 回以上開催する。
- 5) 社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。
- 6) 共同 FD・SD 研修を年 1 回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。

④ SDGs の活用

SDGs の枠組みをプラットフォーム事業で活用する意義を以下のように考えている。

まず、次世代の社会を担う大学生を抱える高等教育機関において、SDGs の枠組みを念頭に置いて取り組むことは、地域課題を解決するために、複眼的な視野を持つ『人材育成』の機会創出であり、産官学連携を推進する中での『新しいモノサシ』となりうる。

また、SDGs に関連する取組において、異なる課題の解決を目指した複数の取組が、実際はどちらも同じ 1 つの目標に関わっていることがしばしばあることから、一見すると別々に解決すればよいと考えられてきた課題の中に、実は共通する課題が存在していることに気付くきっかけになる。根本的な課題が同じであれば、複数の取組間で解決策を共有することで、課題解決に向けた取組をスピードアップできる可能性が出てくる。そのため、これまで特色ある教育・研究を行い、強みを活かしながら地域課題に取り組んできた各大学が地域課題に対する解決策を共有することで、『課題解決のスピードアップ』が期待でき、地域課題の解決の可能性を高めることができる。

さらに、SDGs は理解し易く、多くの人の参画を促し易いため、地域課題の解決に取り組む団体が、類似の課題解決を目指す仲間を容易に見つけ出す目印とすることを可能にする。地域課題を解決するために SDGs を活用することで、産官学連携に携わる人々を増やし、関係者との結び付きを強くする『磁石』の役割が期待できる。

以上のことから、プラットフォーム事業において SDGs を活用することは、1) 地域課題の解決を担う『複眼的な視野を持つ人材育成』、2) 産官学連携を推進する中での『新しいモノサシ』、3) 地域課題の解決に向けた『課題解決のスピードアップ』、4) 産官学連携基盤を強化する『磁石』としての効果が期待でき、プラットフォーム事業が掲げる「豊かに働き生活できるびわ湖東北部地域の創出」に向けたエンジンとなりうるのである。

⑤ 評価体制及び広報活動

プラットフォーム事業の評価については、各 WG が取り組む事業の成果が活動指標 (KPI) を達成できているかを自己評価するだけでなく、大学・自治体・産業界などで活躍されている方々による外部評価を行い、次年度の取組に反映するようになっている。

また、プラットフォーム事業の取組については、協議会 HP 及び各機関の HP から情報発

信を適時行うとともに、年1回、地域住民向けの成果発表会を実施することで地域とのコミュニケーションをとることとなっている。

3. 2023年度 活動概要

(1) 全体の活動概要

本年度は、前年度の取組状況及び外部評価委員会での各委員からの助言を参考に、中長期計画を推進するための具体的な事業計画を各WGで決定し、協議会での承認後、事業活動を行った。

各WGの事業計画は、地域課題の解決に向けた具体的な活動を設定しており、SDGsを活用しながら高等教育機関・地方自治体・産業界等が連携し、びわ湖東北部地域の発展に寄与する活動となっている。

各WGの活動がスムーズに進むよう加盟する3私立大学がWGの責任者となり、WG内での情報共有を図りながら事業活動を行ってきた。WG間の枠組みを超えて調整が必要な事案に対処する場合には定期的に事務局会議を開催し、協議会での承認を得た上で活動を行った。

WG-A から WG-C のすべての活動は、事業最終年度までに達成を目指す具体的な達成目標（KGI）及び本年度の事業取組で目指すべき活動指標（KPI）を定めている。本年度行った事業活動が活動指標（KPI）を達成できているかどうかの自己評価を各WGで行った。WG-D では、各WGの活動状況を把握しながら、広報活動として主に協議会HPを運営し、地域住民に向けた成果発表会の開催準備等を行っている。また、外部評価委員会では、取組事業の質の向上に努めるために、外部評価委員からの意見を取り入れ、事業に関する検証を実施した。本年度は80件の具体的な活動を行うことができた。

(2) 協議会、事務局、WG等の活動概要

① 【協議会】

びわ湖東北部地域連携協議会は、中長期計画で実施する取組事業の円滑な運営を支援するために、協議会を構成する連携機関の代表が集まり、事業連携協力、基本方針の策定及び中長期計画の立案・実施、相互連携機関の交流などについて協議する連携協議会を定期的に開催する他、会計監査などを行う。

1) 連携協議会の開催

本年度は7回開催したが、新型コロナウイルス感染症対策としてZoomを活用したオンライン会議が中心となった。協議会では、2023年度事業計画・予算計画、事業計画に係るKGI・KPIの改定、外部評価委員及び監事の選定などを承認した。

2) 会計監査

連携協議会監査規程に基づき、取組事業の適切な業務の執行及び予算執行が行われていたかを確認するため、2021年度の事業活動及び会計処理に関する監査を監事によって業務監査及び会計監査が行われた。

3) 視察研修

本年度は、協議会事業終了後の産官学連携を基にした中長期的な地域連携の継続・発展のために他の地域における産官学連携を活かした地域連携の取組を視察し、今後の本地域での地域連携の在り方についての研修視察を行った。

② 【事務局】

プラットフォーム事業を円滑に進めるため、協議会等の全体調整、会計処理等の経理の他、外部評価委員会を運営するなど、事業運営に関して必要な事務処理を行った。

1) 事務局会議の開催

2) 成果報告会及び外部評価委員会の運営

2023 年度に実施した事業毎の自己評価を含めた成果報告書にもとづき、自治体・産業界などから選定された委員による外部評価委員会を開催し、事業評価を受けた。

③ 【WG-A：産業振興に向けた産官学連携事業】

ワーキンググループ A は「産業振興に向けた産官学連携事業」を担当しており、3 つの取組事業「産官学連携事業」、「インターンシップ・採用活動支援事業」、「UIJ ターン推進事業」に関する活動を行った。

具体的な活動として「産官学連携事業」において 2 件の活動、「インターンシップ・採用活動支援事業」において 6 件の活動、「UIJ ターン推進事業」において 1 件の活動の計 9 件の活動を行った。

④ 【WG-B：地域コミュニティの活性化事業】

ワーキンググループ B は「地域コミュニティの活性化事業」を担当しており、4 つの取組事業「生涯学習拠点整備事業」、「地域住民に向けた健康増進支援事業」、「国際交流促進事業・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業」、「ネットワーク推進事業」を通してびわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実を目指している。

具体的な活動として、「生涯学習拠点整備事業」において 4 事業 22 件の活動（講座）、「地域住民に向けた健康増進支援事業」において 2 事業 7 件の活動、「国際交流促進・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業」において 12 事業 18 件、また、「ネットワーク推進事業」においては、キャンパス SDGs びわ湖大会、市民活動団体交流プロジェクト 3 件を開催し、2 事業計 4 件の産官学・地域連携活動を推進することができた。

⑤ 【WG-C：地域を担う次世代人材の育成】

ワーキンググループ C は「地域を担う次世代人材の育成」を担当しており、6 つの取組事業「SDGs をテーマにした共同講義事業」、「単位互換事業」「幼、小、中、高校生への学習支援事業」、「地域内進学促進事業」、「地域人材活性化支援事業」、「共同 FD・SD 事業」を通してびわ湖東北部地域における魅力的な人材の育成の実現を目指している。そのために、評価年度である最終年度（2023 年度）の前年までに 2 つの最終目標を達成することを掲げた。
ワーキンググループ C の達成目標

- ・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価)
- ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加 (2023 年度評価)

本年度は、上の 6 つの取組事業に対して以下の活動指標 (KPI) をそれぞれ定め、事業に取り組んできた。

【取組 1】「SDGs をテーマにした共同講義事業」における活動指標 (KPI)

SDGs をテーマにした共通科目を 1 科目以上開発する。

【取組 2】単位互換事業 (KPI)

単位互換科目受講生を最終年度までに 2018 年度比で 30 名以上増加させる。

【取組 3】幼、小、中、高校生への学習支援事業 (KPI)

幼小中高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。

【取組 4】地域内進学促進事業 (KPI)

プラットフォーム事業参加校合同で高生向けの大学説明会を年 1 回以上開催する。

【取組 5】地域人材活性化支援事業 (KPI)

社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。

【取組 6】共同 FD・SD 事業 (KPI)

共同 FD・SD 研修を年 1 回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。

ワーキンググループ C においては「地域を担う次世代人材の育成」を目標に様々な事業に取り組んだ。

【取組 1】SDGs をテーマにした共同講義事業

本協議会における大テーマである「SDGs を活用した豊かに働き生活できるびわ湖東北部地域の創出」の「SDGs」の知識や意識づけをすることを念頭に、事業の運営・構成に努めた。特に、令和 2 年度に開発した SDGs の理解や本協議会の位置する湖北地域と SDGs を関連させた講義を毎年度実施し、年々履修登録者も増加している。グループワークでは積極的な意見交換がなされ、各回充実した授業となった。併せて SDGs の単位互換科目においては、近江のくらしとなりわいの現場における様々な営みを事例として、SDGs 達成に取り組む県内企業や SDGs 推進に関わる外部講師を招いた講義を提供し、持続可能な共生社会の実現に必要な知見を導き出すことが出来た。

【取組 2】単位互換事業

単位互換事業においては、環びわ湖大学・地域コンソーシアムの枠組みを利用して、滋賀県が持つ独自の風土や歴史文化および地域の個性を生かした地域づくりに関する取組みや実践についての科目の開講を支援した。受講者は 33 名となり、滋賀県や琵琶湖を題材にしたグループワークやフィールドワークを通じて学生同士の交流もあり、それぞれの立場から地域の歴史文化について学ぶ機会となった。

【取組 3】幼、小、中、高校生への学習支援事業

年々減少傾向にある中学生、高校生、大学生世代の読書量・図書館利用の増進のために、連携大学の学生と協働で、図書館を活用した読書を促す機会を創出する事業や、教員や教材、図書資料等の本学の教育資源を活用し、子育て世代及び、子どもの読書にかかわる人たちに向けた、子育て支援・子どもの読書支援事業、本を紹介するPOPまたは本の帯を募集するコンクールを行った。

びわ湖東北部地域にある小学校で、小編成のオーケストラコンサートを実施し、普段なかなかコンサートホールに出向くことが難しい学校の子どもたちに質の高い音楽教育プログラムを提供した。

また、不登校や引きこもりの現状や背景を理解し、自分たちの今後の学びや進路について改めて考える事業、中学校運動部活動の外部・地域移行に向けた現状、諸課題の共有を行う事業、統計データやプログラミングに親しみながらSDGsやMLGsについて学ぶこと中心としたワークショップの開催、参加者全員作品を執筆し、電子書籍の形にする事業、それぞれの実施の支援を行った。

【取組 4】地域内進学促進事業

地域活性化のために、若者世代の地域外流出の一つの方策として、地域内進学の促進を目指す事業として、びわ湖東北部地域合同大学説明会を4回実施した。びわ湖東北部地域連携協議会に参画する5大学の説明会ブースを「びわ湖東北部地域連携協議会」の枠組みで設け、各大学の担当者がそれぞれの大学の枠組みにとらわれることなく、それぞれの学部学科等の分野の説明を高校生等に行い、びわ湖東北部地域への進学を促した。

【取組 5】地域人材活性化支援事業

地域人材の活性化支援のために、びわ湖東北部地域の学生、教職員、小中学校や企業関係者、地域活動の実践者等を対象に本協議会の大テーマである「SDGs」の普及や実践促進の支援を行った。

小中学校のICT教育推進に向け、高度な技術と見識かつ中長期的なビジョンを持って推進できる教員の育成のための講座、地域の保育・教育者人材の育成のため、小児と乳児、および成人のためのCPR（心肺蘇生法）、AED（自動体外式除細動）とその他の応急手当（ファーストエイド）」を学ぶ事業をそれぞれ実施した。

びわ湖東北部地域保健医療福祉の人材育成事業支援、ジェンダー平等ユースリーダー育成事業、びわ湖東北部地域に関連する看護職者の看護の質の向上を目指す事業、それぞれの支援を行い地域人材の育成に努めた。

【取組 6】共同FD・SD事業

大学設置基準において義務化されたSDや、また各大学で取り組んできたFDを、それぞれの大学の枠を超えて、プラットフォーム参画機関在籍の教職員を対象として実施し、プラットフォーム参加校の教育の質向上を図るための機会となった。併せて、地域を担う次世代人材の育成に向けた共同IR事業を引続き支援し、2020年度から蓄積してきた調査データをまとめ、大学教育と人材育成・就業の関係性に一定の解答を得ることを目指した。また、若者の地域定着に必要なことや、ベンチマークとなる要素の探索プロセスと同時に、本事業に

関わるメンバーが大学 IR に関する専門性を高め、質向上を図るための機会の側面を持ち合わせることで、教育改善・研究活動等を促進し、次世代を担う人材育成に寄与することも目指した。

各事業において、SDGs の開発目標を意識し各開発目標に紐づけし、豊かに働き生活できるびわ湖東北部地域の創出に寄与することが出来るように事業展開を図った。それぞれの事業においては地域を担う次世代人材の育成を念頭に、与えられた課題に真摯に取り組み、地域の活性化につながるような結果を得ることが出来ている。

(3) 活動指標(KPI)に対する成果

①【WG-A：産業振興に向けた産官学連携事業】

＜活動指標（KPI）＞

- 1) 産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。
- 2) インターンシップ、採用活動支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生数(延べ数)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。
- 3) UIJ ターン推奨事業として、滋賀県外居住者の滋賀県内企業や事業所への本プラットフォーム連携機関を通じた雇用について、最終年度までに年間 20 名以上を実現する。

＜活動成果＞

- 1) 産官学連携による共同研究もしくは共同事業のきっかけづくりのために、連携大学が取り組む研究や教育を平易な表現で紹介をする「びわ湖東北部地域の産官学連携ハンドブック Vo1.5」を作成し、紙媒体及び協議会ホームページを通じた電子媒体として各連携機関を通して情報発信した。

びわ湖東北部地域での産官学共同事業を推進する助成を実施し、公募の結果、2 組の共同事業に取り組むグループを支援し、2 組のグループから“伝承野菜尾上菜の新品種「さいさい」”と“大学で採れたハチミツ「n-bio HONEY」”の商品化と販売にまで至った。2019 年度からの累積で 8 件の産官学共同研究を実現した。

- 2) インターンシップ・採用活動支援事業として、地域内の連携大学学生への就職活動に対する支援及び地域内企業への採用活動に対する支援に取り組んだ。具体的には、地域内企業の採用活動の強化を目的にした産官学連携によるネットワークの強化、情報発信用プラットフォームの構築、学生に対する就職ガイダンス、及びパネルディスカッション&合同説明会などのイベントを実施した。本年度の新たな取り組みとして、びわ湖東北部地域の自治体・産業界が中心となり就職フェア支援事業、インターンシップ促進事業を実施した。

KPI でもある参加実績は、参加企業数延べ 111 社(2019 年度比+9.9%)、参加学生数延べ 276 人(2019 年度比+110.7%)となった。

- 3) びわ湖東北部地域内への UIJ ターンを促進するため、地域内の大学生や滋賀県内外の企業を志す方を対象に、事業の展開に役立つ時流に即した先端的分野の学習セミナー

を中心に計画・実施した。事業単体として目標としていた新規起業数2者を達成した。

UIJ ターン推進事業として、活動指標（KPI）を調査し、「滋賀県外居住者」の「滋賀県内企業や事業所」への雇用を42名確認できた。そのうち、新規学卒予定は9名で、中途採用等は33名であった。

②【WG-B：地域コミュニティの活性化事業】

＜活動指標（KPI）＞

- 1) 地域住民向けの公開講座を毎年10講座以上開講する。
- 2) 最終年度以降も継続可能な地域住民向けの健康イベントを5件以上定着させる。
- 3) 産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年5件以上実施する。
- 4) 地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年2回以上開催し、活動の満足度等を測定する。

＜活動成果＞

- 1) 「生涯学習拠点整備事業」として、公開講座教養コース1事業10講座、専門コース3事業12講座の合計4事業22講座を開講した。参加者は対面662名（前年度695名）であった。
- 2) 「地域住民に向けた健康増進支援事業」として2事業において7件の取組みを実施した。「中高年の健康ウォーキング」においては4件の取組みで参加者104名、「光と色でつながるびわ湖東北部地域の健康づくり」3件の取組みで参加者108名であった。
- 3) 「国際交流促進事業・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業」では、「災害に強いまちづくりプロジェクト」1事業4件、「自然と歴史とくらしを次代につなぐプロジェクト」3事業4件、「地域課題解決に取り組む学生プロジェクト」3事業8件、「まちの魅力発信プロジェクト」5事業11件であった。
- 4) 「ネットワーク推進事業」では、地域課題に取り組む活動を行う団体等の交流会として、「キャンパスSDGsびわ湖大会」1事業6件、「市民活動団体交流プロジェクト」1事業3件、合計2事業9件の学生・地域団体・自治体等が交流を持つイベントを行い、合計2,300名を超える参加者があった。

③【WG-C：地域を担う次世代人材の育成】

＜活動指標（KPI）＞

- 1) SDGsをテーマにした共通科目を1科目以上開発する。
- 2) 単位互換科目受講生を最終年度までに新たに5件以上行う。
- 3) 幼小中高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに5件以上行う。
- 4) プラットフォーム事業参加校合同で高校生向けの大学説明会を年1回以上開催する。
- 5) 社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに5講座以上実施する。
- 6) 共同FD・SD研修を年1回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。

＜ 活動成果 ＞

- 1) SDGs をテーマとした新規科目「近江で実践 SDGs」を令和 3 年度より開講し、それぞれの講義を主に 5 大学の教員が担当した。プラットフォーム内の 3 つの大学より 59 名の学生の受講登録があり、前年度に比べ受講者数が非常に増加した。また、本年度単位互換科目、提供科目の受講生については合計 63 名の参加があった。
- 2) 幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を 7 件実施した。前年度と比較して 1 件の増加となった。また、プラットフォーム事業参加校合同で高校生向けの大学説明会を、対面で年 4 回開催した。
- 3) 地域人材活性化支援事業として 5 つの事業を実施した。特に社会人等向けの教育講座について、15 講座を実施した。また、連続講座を 1 講座（計 3 回）、出前講座を 1 講座実施するなど、KPI の達成に加え多彩な取組を実施する事が出来た。
- 4) 共同 FD・SD 研修を 5 回実施した。また、共同 IR 事業を 1 回実施し、大学教育の FD・SD に資するデータを最終報告書とし作成し、分析結果の共有と事業成果の公表を行った。

以上の活動成果から、活動指標(KPI)に対する自己評価を各ワーキンググループでは次ページ以下の表のように評価している。なお、自己評価の基準は、「A 評価…目標達成できた」、「B 評価…目標達成に向けての課題がある」、「C 評価…目標達成は困難である」である。

KPI 自己評価表

WG-A

取組事業	活動指標 (KPI)	事業活動状況	自己評価
産官学連携事業	産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。	産官学連携による共同研究もしくは共同事業のきっかけづくりのために、連携大学が取り組む研究や教育を平易な表現で紹介をする「びわ湖東北部地域の産官学連携ハンドブック Vol.5」を作成し、紙媒体及び協議会ホームページを通じた電子媒体として各連携機関を通して情報発信した。 本年度の実施事業による成果として、びわ湖東北部地域で新たに2組の産学間の共同研究・共同事業に取り組むグループを支援し、2019 年度より累計で 8 件の共同研究を実現することができた。10 件以上の実現に至らないものの、KGI である事業化・商品化に大きく貢献し、これまでに累計で5件の達成を果たすことができた。 以上のことから、自己評価をAとする。	A
インターンシップ・採用活動支援事業	・インターンシップ・採用活動支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生数(延べ数)を 2019 年度の参加実績を基準に10%以上の増加を毎年維持する。	インターンシップ・採用活動支援事業として、地域内の連携大学学生への就職活動に対する支援及び地域内企業への採用活動に対する支援に取り組んだ。具体的には、地域内企業の採用活動の強化を目的にした産官学連携によるネットワークの強化、情報発信用プラットフォームの構築、学生に対する就職ガイダンス、及びパネルディスカッション&合同説明会などのイベントを実施した。 KPI でもある参加実績は、参加企業数延べ 111 社(2019 年度比+9.9%)、参加学生数延べ 276 人(2019 年度比+110.7%)となった。参加企業数は 0.1 ポイント届かなかったが、参加学生数を大きく上回る成果が得られたため、自己評価を A とする。	A

UIJ ターン推進事業	UIJ ターン推奨事業として、滋賀県外居住者の滋賀県内企業や事業所への本プラットフォーム連携機関を通じた雇用について、最終年度までに年間 20 名以上を実現する。	びわ湖東北部地域内へのUIJ ターンを促進するため、地域内の大学生や滋賀県内外の企業を志す方を対象に、事業の展開に役立つ時流に即した先端的分野の学習セミナーを中心に計画・実施した。事業単体として目標としていた新規起業数 2 者を達成した。 UIJ ターン推進事業として、活動指標（KPI）を調査し、「滋賀県外居住者」の「滋賀県内企業や事業所」への雇用を 42 名確認できた。このうち、新規学卒予定は 9 名で、中途採用等は 33 名であった。 地域内への流入に大きく寄与できていることから自己評価は「A」とする。	A
-------------	---	---	---

WG-B

取組事業	活動指標（KPI）	事業活動状況	自己評価
生涯学習拠点整備事業	地域住民向けの公開講座を毎年 10 講座以上開講する。	活動指標（KPI）は達成している。 公開講座教養コース 1 事業 10 講座、専門コース 3 事業 12 講座の合計 4 事業 22 講座を開講した。参加者は 662 名（前年度 695 名）となり全講座対面で実施することができた。目標とする 10 講座以上開講できたため自己評価を「A」とした。	A
地域住民に向けた健康増進支援事業	最終年度以降も継続可能な地域住民向けの健康イベントを 5 件以上定着させる。	活動指標（KPI）は達成している。 「地域住民に向けた健康増進支援事業」として 1 事業において 7 件の取組みを実施した（「中高年の健康ウォーキング」4 件参加者 104 名、「光と色でつながるびわ湖東北部地域の健康づくり」3 件参加者 108 名）。目標の 5 件以上の実施となったため自己評価を「A」とした。	A
国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。	活動指標（KPI）は達成している。 本年度は、「災害に強いまちづくりプロジェクト」1 事業 4 件、「自然と歴史とくらしを次代につなぐプロジェクト」3 事業 4 件、「地域課題解決に取り組む学	A

		生プロジェクト」3事業7件、「まちの魅力発信プロジェクト」5事業5件、計12事業18件の活動を実施出来た。その中で学生が関わるまちづくり活動は12件であった。目標の5件以上になったため自己評価を「A」とした。	
ネットワーク推進事業	地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年2回以上開催し、活動の満足度等を測定する。	活動指標（KPI）は達成している。 本年度は、「キャンパスSDGsびわ湖大会」1事業、「市民活動団体交流プロジェクト」1事業3件、合計4件の取組みを行った。キャンパスSDGsびわ湖大会は、学生・地域団体・自治体等が交流を持つイベントとなった。「市民活動団体交流プロジェクト」は域内3市（3会場）で開催し、約2,300名の参加を得た。交流会としては2回以上開催できたことから自己評価を「A」とした。	A

WG-C

取組事業	活動指標（KPI）	事業活動状況	自己評価
SDGsをテーマとした共同講義事業および単位互換事業	SDGsをテーマにした共通科目を1科目以上開発する。 単位互換科目受講生を最終年度までに2018年度比で30名以上増加させる。	SDGsをテーマとした新規科目「近江で実践SDGs」を令和3年度より開講し、それぞれの講義を主に5大学の教員が担当した。プラットフォーム内の3つの大学より59名の学生の受講登録があり、前年度に比べ受講者数が非常に増加した。また、本年度単位互換科目、提供科目の受講生については合計63名の参加があった。このため、自己評価は「A」とする。	A
幼・小・中・高校生への学習支援事業 地域内進学促進事業	幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに5件以上行う。 プラットフォーム事業参加校合同で	幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を7件実施した。前年度と比較して1件の増加となった。また、プラットフォーム事業参加校合同で高校生向けの大学説明会を、対面で年4回開催した。これらにより、活動指標（KPI）を達成したため、自己評価は「A」とする。	A

	高校生向けの大学説明会を年 1 回以上開催する。		
地域人材活性化支援事業	社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。	地域人材活性化支援事業として 5 つの事業を実施した。特に社会人等向けの教育講座について、15 講座を実施した。また、連続講座を 1 講座（計 3 回）、出前講座を 1 講座実施した。また 5 つの事業には各ワークショップ、講演会、例会の実施も含まれる。活動指標（KPI）の達成に加え多彩な取組を実施する事が出来たため、自己評価を「A」とする。	A
共同 FD・SD 事業	共同 FD/SD 研修を年 1 回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。	共同 FD・SD 研修を 5 回実施した。また、共同 IR 事業を 1 回実施し、大学教育の FD・SD に資するデータを最終報告書とし作成し、分析結果の共有と事業成果の公表を行った。これにより活動指標（KPI）を達成したため、自己評価を「A」とする。	A

各 WG の自己評価の判断につながった具体的な活動状況については、次ページからの「4. ワーキンググループの取組」において詳細に記載してあるため、個別活動の活動状況についてはそちらを確認していただきたい。

4. ワーキンググループの取組

(1) ワーキンググループ A

① 活動概要

ワーキンググループ A は「産業振興に向けた産官学連携事業」を担当しており、3つの取組事業「産官学連携事業」、「インターンシップ・採用活動支援事業」、「UIJ ターン推進事業」を通して、びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現を目指している。そのため、最終年度（2023 年度）までに2つの最終目標を達成することを掲げている。

ワーキンググループ A の達成目標（KGI）

- ・産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化。（2023 年度評価）
- ・就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。（2023 年度評価）

KGI の達成に向け、上の 3 つの取組事業に対して以下の活動指標（KPI）をそれぞれ定め、事業に取り組んでいる。

【取組 1】「産官学連携事業」における活動指標（KPI）

産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。

【取組 2】「インターンシップ・採用活動支援事業」における活動指標（KPI）

インターンシップ・採用活動支援事業への参加企業数(延べ数)と参加学生数(延べ数)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。

参考：2019 年度参加実績（延べ数）：企業数 101 社、学生数 131 名

【取組 3】「UIJ ターン推進事業」における活動指標（KPI）

UIJ ターン推奨事業として、滋賀県外居住者の滋賀県内企業や事業所への本プラットフォーム連携機関を通じた雇用について、最終年度までに年間 20 名以上を実現する。

上記の活動指標に加え、協議会としての連携を強化した事業計画の立案をすすめるために、ワーキンググループ A では以下の基本方針を定めた。

【取組 1】「産官学連携事業」の基本方針

ワーキンググループ A は、びわ湖東北部地域の共同研究を推進するために、その実現を推進する事業及びその障壁を取り除く事業を実施する。

【取組 2】「インターンシップ・採用活動支援事業」の基本方針

ワーキンググループ A は、びわ湖東北部地域の企業と学生の双方が成長するような就職・採用活動を支援する。

【取組 3】「UIJ ターン推進事業」の基本方針

ワーキンググループ A は、びわ湖東北部地域への UIJ ターンを促進するために、プラットフォームとして地域の職場と居住の魅力を発信する。

この基本方針に基づき、3つの取組事業を次のように実施した。

【取組1】産官学連携事業

産官学連携による共同研究・共同事業のきっかけづくりとして、加盟大学が取り組む研究や教育を平易な表現で紹介をするハンドブック Vol.5 を作成し、各加盟機関を通じて地域や産業界へ紙媒体で配布するとともに、協議会ホームページ (<https://www.hn-rcc.jp/>) を通じて電子媒体でも発信した。

共同研究・共同事業を推進するため、地域への貢献や課題解決に向けた共同研究・共同事業に取り組むグループを支援する助成を実施した。公募の結果、新たに共同事業・研究に取り組もうとするグループを2件支援し、2019年度より累計で8件のグループを支援することができた。助成を受けたグループの研究成果は、年度末以降に報告書としてまとめる。

【取組2】インターンシップ・採用活動支援事業

地域内企業への採用活動を支援する取組として、大学と企業との情報交換会を実施した。また、地域内の企業の働き方などの魅力を発信するプラットフォームとなるホームページの作成と、本年度の新たな取り組みとして企画された、学生と企業との接点となる就職フェア支援事業、インターンシップ促進事業を実施した。もう1つは、地域内の学生に対する就職活動を支援する取組として、留学生を対象に地域内への就職を促進するキャリアガイダンスを開催した。加えて、地方での就職を希望する学生を支援するために、びわ湖東北部で働く魅力を伝えるパネルディスカッション&合同説明会イベントを実施した。

【取組3】UIJ ターン推進事業

びわ湖東北部地域内へのUIJ ターンを促進するため、地域内の大学生や滋賀県内で起業を志す方を対象に、びわ湖東北部地域の課題解決を目指す社会起業家の育成を図る事業を展開した。本事業では、時流に即した先端的分野の学修セミナーや地域の課題解決を目指したワークショップを開催し、継続した起業支援のために、湖北地域に窓口を設けて専門家による相談支援を実施した。

② 具体的な取組状況・成果・課題

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	- 産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化 - 就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 1 (産官学連携事業)
取組事業概要	産官学連携事業を推進するために、プラットフォーム参加校における研究課題の共有及び研究施設設備に関するネットワーク網を整備し、更に産業界・自治体への人的及び設備的なネットワークを拡大することにより、プラットフォーム参加校が持つ研究ノウハウや施設設備を活用した受託研究、地域課題解決型の産官学共同研究を実施する。
活動指標 (KPI)	産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。
対応 SDGs 番号	9
取組事業 No.	A-1-1 地域産業界に向けた研究紹介
具体的な活動 (実施報告)	産官学の共同研究・共同事業のきっかけづくりを目的に、プラットフォーム加盟大学が取り組む研究や教育を平易な表現を用いて紹介する「びわ湖東北部地域の産官学連携ハンドブック Vol.5」を発行し、地域や産業界等へ配布した。
実績 (成果)	産官学連携ハンドブック Vol.5 を発行することができ、本協議会のイベントや自治体・商工会議所等を通じて地域内に配布することができた。また、発行したハンドブックは本協議会ホームページに電子媒体 (PDF) として公開した。 発行時期：2023 年 11 月 16 日 発行部数：1,500 部
活動指標 (KPI) への貢献度	ハンドブックは、産業界向けに広く配布されるとともに、ビジネスマッチングイベントなどでも活用され、参加者との交流や相談対応が行われたと報告を受けている。 なお、現段階ではハンドブックをきっかけに直接的な産官学による共同研究・共同事業が報告されていないが、次年度以降、協議会で支援した共同研究・共同事業化から発生した成果物の掲載をすることで、よりハンドブックを活用した産官学連携の機会を拡大し、地域内外の企業や機関と連携を深め、新たな連携プロジェクトや共同研究の可能性を広げていきたい。

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	・産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化 ・就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 1 (産官学連携事業)
取組事業概要	産官学連携事業を推進するために、プラットフォーム参加校における研究課題の共有及び研究施設設備に関するネットワーク網を整備し、更に産業界・自治体への人的及び設備的なネットワークを拡大することにより、プラットフォーム参加校が持つ研究ノウハウや施設設備を活用した受託研究、地域課題解決型の産官学共同研究を実施する。
活動指標 (KPI)	産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。
対応 SDGs 番号	9
取組事業 No.	A-1-2 産官学共同事業推進助成
具体的な活動 (実施報告)	びわ湖東北部地域における産官学共同事業を推進することを目的にしたプラットフォーム連携事業推進助成による共同事業・研究グループに対する支援を行った。
実績 (成果)	2023 年 5 月に助成内容に関する打合せを実施し、6 月より申請の受け付けを開始した。申請された 2 件のグループに対する審査を 7 月に実施し、8 月より助成を開始した。
活動指標 (KPI) への貢献度	2023 年度において、新たに 2 件の共同研究グループを支援し、2019 年から継続的に推進してきた助成活動により、累計で 8 件の共同研究・共同事業を実現した。新たに支援した 2 件の共同研究グループからは KGI である商品化へと繋がったと報告を受けている。この成功事例は、協議会の取り組みが産業界との連携を促進し、実用的な成果を生み出す力を持っていることを示している。 これらの実績を踏まえ、KGI/KPI の両面で大きな成果を上げ、地域経済の振興やイノベーションの推進に寄与している。

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	・産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化 ・就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (インターンシップ・採用活動支援事業)
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標 (KPI)	インターンシップ・採用活動支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生(延べ数)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。
対応 SDGs 番号	8
取組事業 No.	A-2-1① インターンシップ促進事業
具体的な活動 (実施報告)	湖北地域雇用対策協議会と米原市・長浜市において、インターンシップに挑む学生の事前準備支援を行うことで、学生に対して社会人としての基礎スキルの習得および、びわ湖東北部地域内企業の情報収集を支援するとともに、同地域内の受入企業側のインターンシップ受入体制づくりに向けた支援を実施。 1 日目：2 月 16 日 オリエンテーション、ビジネスマナー研修 2 日目：2 月 20 日 企業見学ツアー(3 社)、振り返りワークショップ、地元企業の経営者と交流会 (3 社) 3 日目：2 月 21 日 企業見学ツアー(3 社)、振り返りワークショップ 4 日目：3 月 8 日 自己分析ワークショップ、合同企業説明会に参加 5 日目：3 月 15 日 プレゼンテーション、企業学生交流会
実績 (成果)	参加学生は、びわ湖東北部地域内企業への見学ツアーや合同企業説明会への参加を通じて、地域内企業の情報収集を行い、同地域ならではの魅力を確認した。参加企業は、学生が魅力に感じる視点の理解を深めたことで、インターンシップ受入等の採用活動の場面において、効果的な情報発信の方法を確認できた。 参加学生：4 人 (本事業による内定獲得者：1 名) 参加企業：9 社
活動指標 (KPI) への貢献度	学生獲得の主戦場が「合同企業説明会」から「インターンシップ」へと変わってきており、今年度から「合同企業説明会の開催」から「インターンシップ促進事業」へと方向転換を実施した。実績としては、上記のとおりで、本 WG 達成目標の実現に貢献した。

	また、参加学生からは、複数の地域内企業を視察できたことで、より広い視点で地域内企業の魅力を認識できたと反応が返ってきており、参加者の中には本事業で得た情報を基に地域内企業への就職活動を開始する動きを見せている。学生に地域内企業の魅力が届かず、地域外企業への就職が増加する課題に対し、本事業の有効性は高いと判断し、次年度の開催についても検討したい。
--	--

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	・産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化 ・就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (インターンシップ・採用活動支援事業)
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標 (KPI)	インターンシップ・採用活動支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生(延べ数)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。
対応 SDGs 番号	8
取組事業 No.	A-2-1② 大学と企業のネットワークの強化
具体的な活動 (実施報告)	湖北地域雇用対策協議会と米原市・長浜市において、1 月 31 日に、大学の就職支援担当者と企業の採用担当者による情報交換会を開催した。
実績 (成果)	大学の就職支援担当者と企業の採用担当者との情報交換会を開催し、最近の学生の就職動向や価値観の変化、企業の採用募集方法などの採用戦略等についての情報交換を行った。 ・参加大学数 5 大学 ・参加企業数 14 社 (17 名)
活動指標 (KPI) への貢献度	学生の就職動向や価値観の変化等を知ることは、雇用の受け皿となる企業が採用戦略を練る上でも重要であり、企業側のニーズも高い。大学側においても、企業担当者との関係構築の機会となり、学生の受入先の開拓に繋がった。 また、本事業の開催に併せて、インターンシップ・採用活動支援事業のイベント情報の周知を行い、本 WG 達成目標の実現に寄与した。

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	・産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化 ・就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (インターンシップ・採用活動支援事業)
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標 (KPI)	インターンシップ・採用活動支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生(延べ数)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。
対応 SDGs 番号	8
取組事業 No.	A-2-1③ プラットフォームの構築
具体的な活動 (実施報告)	湖北地域雇用対策協議会や米原市・長浜市とともに、びわ湖東北部地域の企業と学生のマッチングプラットフォームとなるウェブサイトの改修
実績 (成果)	・ウェブサイトの改修 https://kohoku-job.jp/ ・就活イベント情報の更新 ・企業採用情報の更新 ・掲載企業数：8 社
活動指標 (KPI) への貢献度	びわ湖東北部地域内企業の採用情報およびインターンシップ情報や同地域内の合同企業説明会の情報発信を行ったことで、学生や社会人、求職者等人材と企業とのマッチング機会の充実を図り、本 WG 達成目標の実現に寄与した。

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	・産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化 ・就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (インターンシップ・採用活動支援事業)
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標 (KPI)	インターンシップ・採用活動支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生(延べ数)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。
対応 SDGs 番号	8
取組事業 No.	A-2-1④ 就職フェア支援事業
具体的な活動 (実施報告)	2 月、3 月の実施に向けて、1 月 25 日発行の県内各種地域情報誌等の広報媒体などを活用し、参加学生を募集した。 実施日は以下の通り 就職フェア in 彦根【就職フェア in 彦根】(2/14) 就職フェア in 湖北【ローカルジョブコレクション】(3/8)
実績 (成果)	1 : 就職フェア in 彦根【就職フェア in 彦根】(2/14) 会場：マリアージュ彦根にて企業 25 社・学生等 97 名参加 学生等の参加動機は、知人・友人の紹介が 3 割弱と最多、今回の広報活動は 1 割であるが、知人等が地域情報誌を見て伝えたこともあり、成果はありと評価できる。 2 : 就職フェア in 湖北【ローカルジョブコレクション】 (3/4) オンライン開催 企業 21 社・学生 43 名参加 (3/8) 対面開催 会場：長浜バイオ大学体育館 企業 21 社・学生 63 名参加 学生等の参加動機は、知人・友人の紹介が 4 割弱と最多、今回の広報活動は 1 割弱であるが、知人等が地域情報誌を見て伝えたこともあり、成果はありと評価できる。
活動指標 (KPI) への貢献度	今回の取組によって、彦根会場は、前年度学生参加 27 名から 97 名と 3.5 倍に向上した。長浜会場は、前年対比 10%減少したものの湖北・湖東地域への就職機会を創出することができた。 今回、双方の対面開催において、ノースーツで参加できる気軽さと時間

	を決めて企業の話聞くことができたことによる学生の満足度並びに、企業の満足度も高く評価されている。 今後、本就職フェアをきっかりに当該エリアへの就職が実現した学生数を把握するべく注力していきたい。
--	---

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	・産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化 ・就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (インターンシップ・採用活動支援事業)
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標 (KPI)	インターンシップ・採用活動支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生(延べ数)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。
対応 SDGs 番号	8
取組事業 No.	A-2-2① 留学生・キャリアガイダンス
具体的な活動 (実施報告)	留学生対象就職活動ガイダンスの実施 第 7 回：2023 年 7 月 22 日 (土) 13:00～16:00 対面・オンライン併用 第 8 回：2023 年 12 月 9 日 (土) 13:00～16:00 対面・オンライン併用 ※ 第 1～6 回は、2022 年度までに実施。 【第 7 回】 主に学部 1 年生の留学生を対象に、日本で働くための就職活動の方法、日本企業における就労環境や就職に係る在留手続きなどの情報提供を目的として、以下のプログラムにて開催した。 ・滋賀大学就職支援室教員による講演 「日本で働くための就職活動について」 ・元滋賀大学国際交流機構教員による講演 「安定した在留資格を得るために」 ・就職内定滋賀大学留学生・滋賀大学および滋賀県立大学卒業留学生 「就職活動体験談、就職先での業務や近況など」 ・企業採用担当者 「外国人に求める職種・採用ポイントなど」 ・留学生、卒業生へのインタビュー ・質疑応答 【第 8 回】 日本での就職を目指す留学生を対象に、日本で働くための就職活動の方法や就職に係る在留手続きに関する情報提供を目的として、以下のプログ

	ラムにて開催した。 ・滋賀大学就職支援室教員による講演 「日本で働くための就職活動について」 ・元滋賀大学国際交流機構教員による講演 「安定した在留資格を得るために～就活の戦略と書類作成の実際～」 ・就職内定滋賀大学留学生・滋賀大学卒業留学生 「就職活動体験談、後輩への就活アドバイスなど」 ・留学生、卒業生へのインタビュー ・質疑応答
実績（成果）	【第7回】 参加大学：滋賀大学、ほか県内大学 参加者：10名 【第8回】 参加大学：滋賀大学 参加者：14名
活動指標（KPI）への貢献度	【2023年度実績】 参加学生（延べ数）24名 ※前年度 22名 前年度の参加者数 22名を超え、24名となった。「参加学生（延べ数）を2019年度の参加実績を基準に、10パーセント以上の増加」とする活動指標に貢献できた。 今後も、なるべく早めに日程を確保し、余裕をもって各機関へ開催案内ができるよう進め、参加学生数（延べ数）を増やしていきたい。

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	・産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化 ・就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (インターンシップ・採用活動支援事業)
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標 (KPI)	インターンシップ・採用活動支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生(延べ数)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。
対応 SDGs 番号	8
取組事業 No.	A-2-2② 就職活動支援【パネルディスカッション＋合同企業説明会】
具体的な活動 (実施報告)	【準備】 10、11 月…本事業に関する打ち合わせ、計画、後援名義使用申請（滋賀県、彦根市、米原市、長浜市） 12 月 …チラシ作製、チラシ送付、学生への周知依頼 1 月 …パネリストおよび出展企業の決定、打合せ 【実施】 ○パネルディスカッション＋合同企業説明会 日時：2024 年 1 月 30 日（火） 10:00～11:30 第 1 部 パネルディスカッション 13:00～16:00 第 2 部 オンライン合同企業説明会 場所：オンライン（申込登録） 対象：大学生・短大生（学年不問） ○第 1 部：パネルディスカッション「はたらくぶっちゃけトーク」 ・テーマ：「彦根・米原・長浜で働く魅力って？」 ・パネリスト：若手社員 3 名（卒業後 3 年以内） 株式会社明豊建設（長浜・製造）、利高工業株式会社（長浜・製造）、株式会社アイズケア（彦根・福祉） ・内容：大学卒業後、地元企業で働く社会人 3 名がパネリストとして登壇し、仕事に就いたキッカケ、いい会社とは、滋賀で働く魅力などを語ってもらう。学生に働くことの意義や地元企業の魅力、滋賀の良さを知ってもらう機会とする。 ○第 2 部：オンライン合同企業説明会 ・内容：プレゼンタイム…2 分間で出展企業 8 社が企業紹介する。

	企業説明タイム…企業別ブースへ学生が訪れ説明を受ける。 1 社あたり約 20 分で時間を区切り、ローテーションを行う。学生は 4 社から企業説明を受ける。 ・出展企業：彦根・米原・長浜の企業 8 社 株式会社アイズケア（彦根・福祉）、近江鉄道株式会社（彦根・交通）、株式会社千成亭風土（彦根・サービス）、株式会社 nadeshico（長浜・サービス）、株式会社橋本建設（彦根・建設）、扶桑工業株式会社（長浜・製造）、株式会社明豊建設（長浜・建設）利高工業株式会社（米原・製造）
実績（成果）	申込者数： 40 名 第 1 部：パネルディスカッション パネリスト：県内出身の若手社員 3 名（就労して 1～3 年） ファシリテータ：株式会社いろあわせ 参加学生： 28 名 平均満足度：4.3（5 段階評価） トークの課題が 9 テーマあり、テーマに沿ってトークが進んだため非常にわかりやすかった。また、若手社員のトークであり、学生にとって就活に向け具体的なイメージを持つことができた。参加学生から「求めている質問をトークの中に組み込んでいただけたので興味関心が深まった。実際に滋賀で働く人の貴重な意見を知ることができた。」などの意見があった。 第 2 部：合同企業説明会 参加企業・事業所：8 社 参加学生数： 17 名 平均満足度：4.4（5 段階評価） 自分が参加する企業を選択できない学生に対して事務局が振分けた。その結果、様々な企業の説明を聞く機会となった。参加学生から「説明会を通して知らない企業にお会いすることができた。製造業のイメージが変わった。作るだけではなく管理などもあるのを知った。知らない企業ばかりだったけど楽しく交流できたので良かった。」などの意見があった。
活動指標（KPI）への貢献度	本事業は、地域内企業の採用支援を目的に、継続してびわ湖東北部地域で実施している。2023 年度は、参加企業 8 社、申込学生 40 名であった。参加者アンケート結果から、満足度は第 1 部 4.3、第 2 部 4.4 と好評を得た。アンケート結果から、びわ湖東北部地域での就職促進に寄与していると考えられる。今後は、さらに多くの学生が参加できるよう実施時期や内容を検討し、滋賀県の企業・業界を知る機会を提供したいと考えている。そのためには、多様化する企業および学生のニーズを柔軟に取り入れるとともに、ハローワークや県・市町から協力が得られる体制を構築することが必要である。

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	・産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化 ・就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (UIJ ターン推進事業)
取組事業概要	産官学共同研究の成果や地元産業について、地方雇用創生事業と連携したうえで、プラットフォーム参加校・産業界・自治体の情報網を整備し、自治体が行う UIJ ターン推奨事業の事業活性化をはかることにより滋賀県内企業への就職を支援する。
活動指標 (KPI)	UIJ ターン推奨事業として、滋賀県外居住者の滋賀県内企業や事業所への本プラットフォーム連携機関を通じた雇用について、最終年度までに年間 20 名以上を実現する。
対応 SDGs 番号	8
取組事業 No.	地域の社会課題を解決する起業家創出支援事業
具体的な活動 (実施報告)	(1) 時流に即した先端的分野の学習セミナー 事業の展開に役立つ時流に即した先端的分野の学習セミナーを中心に計画・実施した。 【第 1 回】2023 年 10 月 15 日(日)14:00~16:00 「Chat GPT とどのように付き合い利用するか!？」 (2) 地域の課題解決を目指したワークショップ 実践的な取り組みからの起業家支援を行い、地域への継続的な貢献となることを目指した。 【第 1 回】2023 年 11 月 18 日(土) 11 月 19 日(日) 両日 彦根市銀座町 5-4 expand esports 店舗 (創業支援) (3) リアル起業家創出に向けた個別面談・専門家相談支援 起業家等を対象にした専門家によるビジネス相談の開催 (会場: 米原 SOHO 区画 5 等) 【第 1 回】2023 年 7 月 27 日(木) 知財(特許等) 【第 2 回】2023 年 10 月 16 日(月) 労務(雇用契約書 他) 【第 3 回】2023 年 11 月 8 日(水) 法人化申請 他 【第 4 回】2023 年 11 月 18 日(土), 19 日(日) 前述のワークショップ開催時に専門家支援としての事業支援 【第 5 回】2024 年 1 月 10 日(水) 営業・契約・広報関連 【第 6 回】税理士相談

実績（成果）	(1) セミナー 【第1回】参加者 6名 (2) ワークショップ 【第1回】参加者 6名 (3) 専門家相談 専門知識の習得や実際の手続き方法・ビジネスに必要な内容の相談を実施。事業初心者の起業・開業の手助けができた。
活動指標（KPI）への貢献度	・新規起業数2者の目標を達成。当該事業によるワークショップや専門家相談を活用された。 ・起業者の事業内容は以下のとおり。 ① 「学生と企業との間を繋ぐ就職支援アプリ」の開発 ② esports 関係 ・セミナーは、新たな事業へのヒントやビジネスの選択肢としての先取り情報を提供した有意義な内容であった。 ・ワークショップは、店舗運営支援の実施により、実際の事業化に繋がる活動となった。 ・今後は、継続した取組と県や市町など含むネットワークを上手く活用した仕組み作りが必要と考える。

③ 総評

ワーキンググループAの達成目標（KGI）である「産官学連携研究をきっかけとした、3件以上の事業化または商品化（2023年度評価）」について、2023年度には、「大学での養蜂活動を通しての地域活性化事業」および「新規に開発した尾上菜F1 ハイブリッド種「さいさい」を用いた6次産業化事業モデルの構築」から2件の商品化ができたと報告を受けている。

事業化または商品化については、2019年度から2023年度までの累計で5件の商品化を実現できており、KGIを達成することができた。

これらの実績を踏まえ、地域経済の振興やイノベーションの推進に寄与している。

もう1つのKGIである「就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を2019年度比で10%以上改善する（2023年度評価）」について、2019年度の採用充足率74.8%に対して、2020年度は+11.3%（採用充足率86.1%）、2021年度は-2.3%（採用充足率72.5%）、2022年度は-4.3%（採用充足率70.5%）となった。

採用充足率においては、2020年度（2021年4月入社）の調査では10%以上の改善は見られたが、少子高齢化に伴う労働人口の減少や若年者が都市部に集中する傾向など、環境要因が重なり、2022年度（2023年4月入社）の調査時点では10%以上の改善に至っていない。

これまでに取り組んできている企業と求職者との接点創出に加えて、地元出身者への優遇制度や地域社会との連携を強化して、地域に残りやすい魅力をアピールすることや、若年者の志向に合わせた快適なオフィス環境や福利厚生の向上、働きやすい環境の整備の推進をサポートすることなどの取組も必要だと考える。

本年度のワーキンググループAの各取組における活動指標（KPI）の達成状況および具体的な内容は次のとおりである。

取組 1「産官学連携事業」における KPI の実績は、「産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。」を目指している。本年度の実施事業による成果として、新たに 2 組の産学間の共同研究・共同事業に取り組むグループを支援し、2019 年度より累計で 8 件の共同研究を実現することができた。10 件以上の実現に至らないものの、KGI である事業化・商品化に大きく貢献し、これまでに累計で 5 件の達成を果たすことができた。

取組 2「インターンシップ・採用活動支援事業」において、KPI でもある参加実績は、参加企業数延べ 111 社(2019 年度比+9.9%)、参加学生数延べ 276 人(2019 年度比+110.7%)となった。参加企業数は 0.1 ポイント届かなかったが、参加学生数を大きく上回る成果が得られた。

KPI として全体の参加学生数は大きく達成できているが、事業個々に見ると参加学生の募集に課題が見られる。募集広報において、オンラインチャネルの活用は推進されており一定の成果が見られるものの、事業個々では大幅な増加には至っていないものもある。コロナ感染症の影響が第 5 類となった中、対面とオンラインのメリットを生かした学生に魅力ある事業内容への改善を図りつつ、各大学における学生個別への案内などのオフラインチャネルによる募集広報においても、各加盟機関の連携を強めていく必要がある。

取組 3「UIJ ターン推進事業」では、前年度から取り組んでいるびわ湖東北部地域内への UIJ ターンを促進するための起業家の育成事業で、目標としていた新規起業者 2 名を実現できた。UIJ ターン推進事業としての活動指標 (KPI) では、「滋賀県外居住者」の「滋賀県内企業や事業所」への雇用を 42 名確認でき、そのうち新規学卒予定は 9 名、中途採用等は 33 名であった。同時に、「滋賀県外居住者」の「びわ湖東北部地域内の企業や事業所」への雇用も 35 件あり、地域内への流入に大きく寄与している。

今後、びわ湖東北部地域内への流入を増加し、地域外への流出を低下していくためにも、地域内での生活や雇用の魅力を上げることと加盟大学学生たちへ地域内への愛着を高めていくことが必要となる。そのため、WG-A、WG-B、WG-C の取組につながりを持たせていけるように検討を進めていきたい。

(2) ワーキンググループ B

① 活動概要

ワーキンググループ B は「地域コミュニティの活性化事業」を担当しており、4 つの取組【取組 1】「生涯学習拠点整備事業」、【取組 2】「地域住民に向けた健康増進支援事業」、【取組 3】「国際交流促進事業・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業」、【取組 4】「ネットワーク推進事業」を通してびわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実を目指している。そのために、最終年度（2023 年度）までに 2 つの最終目標を達成することを掲げた。

ワーキンググループ B の達成目標（KGI）

- ・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比で 40%増加させる。
(2023 年度評価)
- ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。
(2023 年度評価)

本年度は、上の 4 つの取組事業に対して以下の活動指標（KPI）をそれぞれ定め、事業に取り組んできた。

【取組 1】生涯学習拠点整備事業における活動指標（KPI）

地域住民向けの公開講座を毎年 10 講座以上開講する

【取組 2】「地域住民に向けた健康増進支援事業における活動指標（KPI）

最終年度以降も継続可能な地域住民向け健康イベントを 5 件以上定着させる。

【取組 3】国際交流促進事業・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業における活動指標（KPI）

産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。

【取組 4】ネットワーク推進事業における活動指標（KPI）

地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年 2 回以上開催し活動の満足度等を測定する。

各取組の具体的な内容は、次のとおりである。

【取組 1】生涯学習支援事業

幼児から高齢者まで各世代のニーズに対応した公開講座の実施として、本年度は、教養コースと専門コースに分け、多様な 4 事業 22 講座を開講した。

教養コースでは各大学の教員 2 名が講師となり「市民教養講座」10 講座を実施した。専門コースでは各大学の特長ある講座として「子育て応援講座」4 講座（対面）、「リフレッシュ講座」5 講座（対面）、「次世代へ伝える地元先生育成プロジェクト」3 講座（対面）、を実施した。

【取組 2】地域住民に向けた健康増進支援事業

本年度は、人生 100 年時代健康いきいきプロジェクトとして、2 分野で 5 つの事業を推進

した。「中高年の健康増進ウォーキング」では、『ぶらり地元ウォーキング 3.0 地域の魅力再発見「びわ湖東北部三杜物語」と冠したウォーキング 3 コース（彦根コース、長浜コース・米原コース）を実施。『大学ツアー！心と体をリフレッシュ「肥田城・稲部遺跡歴史ウォーク」と冠したウォーキング 1 コースを実施した。「光と色でつながるびわ湖東北部地域の健康づくり」では、「認知症予防」、「乳がん患者支援」、「糖尿病予防」の取組みを展開した。

【取組 3】国際交流促進事業・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業

本年度は、「災害に強いまちづくりプロジェクト（防災士養成講座&防災研修会）」として、4 つの事業において 6 件の取組み（「防災士養成講座」1 件、「学生がつなげる防災活動」1 件、「防災研修会」3 件（講座）、「防砂セミナー」1 件）を実施した。

今年度新しく設けた「自然と歴史と暮らしを次代につなぐプロジェクト」として、3 つの事業において 4 件の取組み（「土倉の森の伝承～散策と観察～」2 件、「地域資源の魅力を発信する冊子の作成」1 件、「郷土食を食す」1 件）を実施した。

「地域課題解決に取り組む学生プロジェクト」として 3 つの事業において 8 つの取組み（「SDGs でつながる学生の地域連携プロジェクト」3 件、「デジタルコミュニティ通貨を通じた地域づくり実験事業」1 件、「福祉と“まちづくり”を考える事業」4 件）を実施した

「まちの魅力発信プロジェクト」として 5 つの事業として 13 件の取組み（「Feel℃Walk で地域の魅力を再発見し、リーフレットを作成しよう」1 件、「音楽を通じた多文化共生まちづくり演奏会」2 件、ユニバーサルスポーツを通じた地域交流）4 件、「やさしい日本語普及活動」5 件、「若者ならではの地域魅力発信事業」1 件）を実施した。

【取組 4】ネットワーク推進事業

本年度は、2 事業 9 件の取組み（びわ湖東北部地域「キャンパス SDGs 大会」6 件、「市民活動団体交流プロジェクト」3 件）の取組みを実施した。

② 具体的な取組状況・成果・課題

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 1 (生涯学習拠点整備事業)
取組事業概要	幼児から高齢者まで各世代のニーズに対応した公開講座を実施する。
活動指標 (KPI)	地域住民向けの公開講座を毎年 10 講座以上開講する。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	B-1-① びわ湖東北部地域生涯学習講座 市民教養講座
具体的な活動 (実施報告)	連携大学の知的資源を活用し、多様なテーマの公開講座を 5 大学各 2 名の教員が担当、8 月～12 月にかけて合計 10 講座を対面にて開講した。 【講座一覧】 第 1 回「私とパートナーの健康づくり～プレコンセプションケアって知ってますか?～」 聖泉大学看護学部看護学科 小倉由紀子 教授 第 2 回「健やかに老いるための生き方とは」 滋賀県立大学人間看護学部人間看護学科 岡崎瑞樹 講師 第 3 回「ICT (情報通信技術) で多様な教育を！」 滋賀県立大学工学部電子システム工学科 服部峻 准教授 第 4 回「暗い気分を防ぐには」 聖泉大学人間学部人間心理学科 池田龍也 講師 第 5 回「Z 世代の考えていることは」 滋賀大学産学公連携推進機構 柴田雅美 特命教授 経済学部 3 回生 大内咲耶 第 6 回「都市生活文化としての散歩」 滋賀大学データサイエンス・AI イノベーション研究推進センター 近藤紀章 講師 第 7 回「バイオ医薬品が切り開く新しい医療」 長浜バイオ大学バイオサイエンス学部フロンティアバイオサイエンス学科 長谷川慎 教授 第 8 回「こどもをまんやかにみんなでつくる幸せ社会」 滋賀文教短期大学子ども学科 藤本明美 講師 第 9 回「『モーリス・センダック』の魅力に迫る」

	滋賀文教短期大学国文学科 有山裕美子 講師 第 10 回「サイエンスイノベーションを知り新しい社会を楽しもう」 長浜バイオ大学バイオサイエンス学部フロンティアバイオサイエンス学科 蔡晃植 教授		
実績（成果）	受講申込者数		
	第 1 回	7 名	合計 248 名
	第 2 回	50 名	
	第 3 回	17 名	
	第 4 回	41 名	
	第 5 回	17 名	
	第 6 回	20 名	
	第 7 回	21 名	
	第 8 回	8 名	
	第 9 回	24 名	
	第 10 回	43 名	
	アンケート結果から ・大変良かった、先生のお話が聞けて気持ちも少し明るくなりました。くよくよしている自分はいかんなと思いました。 ・本日はありがとうございました。また、今後も色々な教養講座をお願いします。マスク越しで聞こえにくかったです。 ・文学系の講義はあまり聴講する機会がなく自分には未知の世界であった。世の中は様々で広いと改めて感じた。 ・興味深いお話をありがとうございました。大学時代に英文学を専攻していましたがそのころからセンダックファンです。こちらでは、そういった講座がなかったので今日はとても嬉しかったです。私のお気に入りは何ですか？ ・資料の字が小さかったのが残念でした。		
活動指標（KPI）への貢献度	本事業は地域住民の学習ニーズに応えるべく、2020 年度から現在の枠組みにおいて 10 講座をびわ湖東北部地域で実施しており、活動指標（KPI）の達成を継続している。 受講申込者数は 2020 年度 609 名（オンデマンド実績）、2021 年度 3,532 回（オンデマンド実績）、2022 年度対面 212 名・オンデマンド実績 79 名、2023 年度対面 243 名となっている。 地域住民の学習ニーズはますます高まっていくことが予測され、また、地域が抱える課題の解決についても参加大学が有する知的資源は重要な役割を果たすものと考えられる。各大学の取組みと併せて本講座を継続することにより引き続き地域貢献に努めていきたい。		

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 1 (生涯学習拠点整備事業)
取組事業概要	幼児から高齢者まで各世代のニーズに対応した公開講座を実施する。
活動指標 (KPI)	地域住民向けの公開講座を毎年 10 講座以上開講する。
対応 SDGs 番号	3, 4
取組事業 No.	B-1 びわ湖東北部地域生涯学習講座②(専門コース) 子育て応援講座
具体的な活動 (実施報告)	1. オレンジリボン運動(別科助産専攻担当) 5 月 28 日(土) 妊婦 17 名、パートナー、子ども、その他祖父母等 計 152 名参加 多賀大社において、安産祈願に来場された妊婦さんとそのご家族を対象とした帯祝いの会を開催した。来場者には、子どもの虐待防止に関する資料を掲示し、赤ちゃんの泣き・乳幼児揺さぶられ症候群とその対処法について説明し虐待予防の啓発を行った。また、希望者には腹帯体験として、岩田帯のいわれなどを説明しながら実際に帯を巻いてさしあげ、インスタントカメラでの記念撮影をして写真をプレゼントした。さらに、妊婦さんとそのご家族にはメッセージカードに産まれてくる赤ちゃんへのメッセージを記入していただき、子育て経験のある方や祖父母世代には、これから赤ちゃんを迎えるパパ・ママへ向けてのメッセージを記入していただき展示した。妊婦さんとそのご家族以外の子どもたちにも、新生児の実物大の人形を使用し、赤ちゃんの抱っこを体験してもらった。 2. 妊婦のためのマインドフルネス体験会・交流会(母性看護学領域担当) 7 月 3 日(月) 13 時~15 時 参加者: 妊婦 1 名 学生 1 名 マインドフルネス瞑想体験を行い、瞑想体験のシェアを行った。その後、前年度と同様にわが子への手作り写真立てを工作し、助産師である講師との交流会を行った。 3. パパママ講座(定員 8 組 予約制)(別科助産専攻担当) 8 月 26 日(土) 13:30~15:30 3 組 6 名参加 市町の広報への掲載依頼、市町の保健センター、子育て支援ひろば、図書館などにリーフレットを配布し参加者の募集を行った。プログラム

	は「産後の生活に向けてのおはなし」と「沐浴体験」とした。内容は、まず最初にカップルで家事・育児見える化シートを記入することにより現在の家事・育児協力の現状を再確認した。その上で講義により産後の生活や利用可能な社会資源について説明した。また沐浴体験では、パパに赤ちゃん人形による沐浴を行ってもらい、実際の育児のイメージづくりを行った。 4. 産後ママのためのベビー&ママヨガ（別科助産専攻担当） [講師：聖泉大学別科助産専攻 中井恭子] 11月23日（祝）10：00～11：00、10組22名参加（上の子ども2名含む） 市町の広報への掲載、保健センター、子育て支援ひろば、図書館などにリーフレットを配布し、生後2か月～1歳までの乳児とその保護者の参加者の募集を行った。参加者の乳児は生後3～10か月、母親は20～30代であった。児の発育・発達を促す身体を使ったプログラムと、母親の身体のリラックスや産後の回復を目的としたヨガを取り入れたプログラムを行った。
実績（成果）	1. オレンジリボン運動 安産祈願に来られていた妊婦さんご家族だけでなく、その他の参拝されていた方々にも足を止めていただいた。妊婦さんからは、これからの育児を頑張ろうと思ったという声や、祖父母世代の参加者には自自身の育児を懐かしむ声が聞かれ、子育ての体験談やアドバイスから安心感を持った妊婦さんもおられ、目標は概ね達成できたと考える。 2. 妊婦のためのマインドフルネス体験会・交流会 マインドフルネス瞑想と赤ちゃんへの手作り写真立ての満足度は高かった。妊婦はリラックスでき、妊娠・出産についての思いを自由に語り目的が達成できた。PR期間と予定日時が短期間であったため、次回は、十分な申込期間を設ける必要がある。 3. パパママクラス アンケート結果より、産後の家事育児分担のイメージづくりや赤ちゃんの沐浴について参加者全員から理解が深まったとの回答が得られた。また産後にたくさん話し合いながら子育てを乗り越えていきたいとの回答も得られ、パパママクラスの目的を達成することができた。 4. 産後ママのためのベビー&ママヨガ アンケート結果より、親子で楽しく遊べた、家でも試したいという声が聞かれた。また開催して欲しいという回答もあり、好評であった。

活動指標（KPI）への貢献度	本事業は、2021 年度から継続して、妊娠期から育児期、更年期、老年期までの女性とその家族のライフサイクルのニーズに応じた公開講座を実施している。本年度の 4 講座は昨年、一昨年から継続して行っており、参加者からの継続して欲しいとの声や、オレンジリボン運動では開催場所をお借りした多賀大社さんからも好評をいただいていることから、次年度以降も継続していきたい。また、本年度は上記活動指標（KPI）の 10 講座までは達成できなかったが、さらに幅広い世代や、女性だけでなく男性に向けた講座も企画していきたい。また、参加者のリクルート方法について、各事業とも、市町の広報や新聞の地域欄への掲載、公共施設でのチラシの配布などを行っているが、参加者が少ない講座もあり、今後も改善していきたい。
----------------	--

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40 %増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65 %以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 1 (生涯学習拠点整備事業)
取組事業概要	幼児から高齢者まで各世代のニーズに対応した公開講座を実施する。
活動指標 (KPI)	地域住民向けの公開講座を毎年10講座以上開講する。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	B-1-③ びわ湖東北部地域生涯学習講座リフレッシュ講座
具体的な活動 (実施報告)	本学の資源を生かした幅広い層に関心をもって参加してもらえる内容を設定し、全 5 講座を開催した。 1) <u>絵本作家 近藤薫美子さん講演会「自然の中の生命 絵本の中のいのち」</u> ・2023 年 10 月 21 日 (土) 14 : 00～16 : 00 ・参加者 28 名 ・講師：絵本作家 近藤薫美子氏 ・会場：滋賀文教短期大学 松翠館 3 階 大講義室 2) <u>世界のおもちゃで遊ぼう 2023～大人も楽しめるボードゲームもいっぱい～</u> ・2023 年 11 月 21 日 (火) 14 : 00～15 : 30 ・参加者 22 名 (大人 13 名、子ども 9 名) ・講師：絵本と木のおもちゃキッズいわき・ぱふ 代表取締役 岩城敏之氏 ・会場：滋賀文教短期大学 翠湖館 あすなろホール 3) <u>淡海文学講座① 『詩人・のろさかん 自作詩を語る』</u> ・2023 年 11 月 26 日 (日) 14 : 00～15 : 00 ・参加者 3 名 ・講師：詩人、児童文学作家 のろ さかん氏 ・会場：滋賀文教短期大学 松翠館 3 階 大講義室 4) <u>淡海文学講座② 『近江の伝承を訪ねて』</u> ・2023 年 12 月 3 日 (日) 14 : 00～16 : 00 ・参加者 6 名 ・講師：昔話研究家 黄色百合子氏

	・会場：滋賀文教短期大学 松翠館 3 階 大講義室 5) <u>高校生・大人のための絵本を楽しむ講座</u> ・2023 年 12 月 17 日（日）14：00～15：30 （絵の本ひろば：同日 13：00～16：30） ・参加者：33 名（大人(高校生含む)31 名、子ども 2 名） ・講師：絵本専門士 朝日仁美氏／滋賀文教短期大学 認定絵本土養成 講座ゲストスピーカー 西前智子氏・中村やよい氏 ・会場：米原市役所 本庁舎 3 階会議室
実績（成果）	1) <u>絵本作家 近藤薫美子さん講演会「自然の中の生命 絵本の中のいのち」</u> 滋賀県在住の絵本作家 近藤薫美子氏を迎えて実施した。近藤氏は、自然界の生の営みと死をきちんと見つめて、それを数多くの、ユーモアあふれる絵本として出版されている。当日は絵本に興味のある方、子どもたちに読み聞かせをなさっておられる方など、幅広い層の方の参加があった。参加者は、自然界の厳しい内容でありながら、ユーモアあふれる近藤氏のお話を熱心に聞いてくださり、笑顔の絶えない講演会となった。 *アンケート集計結果（満足度のみ抜粋）は、以下のとおり。 アンケート回答者数（28 人）、回収率（100％） 【受講者の満足度】 満足（85.7％）普通（0％）、不満（0.0％）、未回答等（14.3％） 2) <u>世界のおもちゃで遊ぼう 2023～大人も楽しめるボードゲームもいっぱい～</u> 「絵本と木のおもちゃキッズいわき ばふ」代表取締役の岩城敏之氏を迎えて、絵本とおもちゃと子育ての講座を実施した。昨年に引き続き開講した人気の講座である。参加者は赤ちゃんから高齢者まで幅広く、お一人での参加もあった。赤ちゃんからおばあさんまで一家族 4 世代での参加もあった。当日は、子どもも大人も会場いっぱいに広げられたおもちゃで遊びながら、岩城氏の絵本と子育てのお話を聞き、また、参加者が個人的に子育てやおもちゃの与え方などについて聞くこともでき、にぎやかな講座となった。 *アンケート集計結果（満足度のみ抜粋）は、以下のとおり。 アンケート回答者数（12 人）、回収率（92.3％） 【受講者の満足度】 満足（100％）普通（0.0％）不満（0.0％）未回答等（0.0％） 3) <u>淡海文学講座① 『詩人・のろさかん 自作詩を語る』</u>

	子どもむけの童話や詩をお書きになっており、小学校の教科書にも作品が採用されている、のろ さかん氏による講座を開催した。実際に詩を取り上げ、作詩にいたった過程などを具体的にお話いただいた。講座の対象を小学生以上に設定し、大人のみならず、小学生も参加しやすい時間の長さで内容で実施した。当日の小学生の参加は無かったこと、参加者が少数ではあったが参加者には熱心に講座を聞いていただけた。 * アンケート集計結果（満足度のみ抜粋）は、以下のとおり。 アンケート回答者数（3 人）、回収率（100%） 【受講者の満足度】 満足（100%） 普通（0.0%） 不満（0.0%） 未回答等（0.0%） 4) <u>淡海文学講座② 『近江の伝承を訪ねて』</u> 昔話研究家の黄地百合子氏による講座を開催した。滋賀県東部から北部に伝わる伝承について、黄地氏が積み重ねてこられた現地調査や丹念に聞き取られてきたこと、先人の残した記録等との比較検討などに基づく研究成果を具体的な例を交えてお話いただいた。参加者には、熱心に講座を聞いていただけた。 * アンケート集計結果（満足度のみ抜粋）は、以下のとおり。 アンケート回答者数（6 人）、回収率（100%） 【受講者の満足度】 満足（66.7%） 普通（0.0%） 不満（0.0%） 未回答等（33.3%） 5) <u>高校生・大人のための絵本を楽しむ講座</u> 絵本を高校生・大人自身が楽しむ、ということを目的として講座を開催した。特に読書離れが問題となっている高校生が絵本を楽しむことで、改めて本の魅力を感じてほしいという意図も込めて開講した。内容は絵本専門士の朝日仁氏による SDG s をテーマとした大人のためのブックトークと SDGs に関連する絵本の展示、長浜市の園・学校を中心に読書ボランティアをされている西前智子氏、中村やよい氏による「おはなし会」を行った。更に当日は、会場に 200 冊以上の絵本を並べた「絵の本ひろば」も開催した。残念ながら高校生の参加は少なかったが、参加者には十分に絵本を楽しんでもらえ、SDG s への理解も深めることのできた講座となった。 * アンケート集計結果（満足度のみ抜粋）は、以下のとおり。 アンケート回答者数（30 人）、回収率（96.8%） 【受講者の満足度】 満足（83.3%） 普通（6.7%） 不満（0.0%）、未回答等（10.0%）
--	--

活動指標（KPI） への貢献度	幅広い世代にニーズのある講座や講演会を複数回開催し、幼児から高齢者まで幅広い年代の参加につなげることができた。前年度から継続して開講した1講座は定員以上の集客ができた。一方で、思うように集客できなかった講座や講演会もあった。開催するそれぞれの講座等のニーズに合わせて、ターゲットを絞った広報活動の強化を検討し、参加につながるよう広報の方法を考えていく必要がある。スケジュール調整の段階から余裕をもって様々な方法で広報を行っていきけるよう改善する。また、口コミやこれまでの講座の参加者が積極的に参加していただいている様子も伺える。開催する講座の情報を求めておられる地域の方に情報が伝わるように工夫も行いたい。
--------------------	---

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・ 地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を2018 年比40%増加させる。 ・ 地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度65%以上を達成する。（2023 年度評価）
取組事業名	取組 1（生涯学習拠点整備事業）
取組事業概要	幼児から高齢者まで各世代のニーズに対応した公開講座を実施する。
活動指標 (KPI)	地域住民向けの公開講座を毎年 10 講座以上開講する。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	B-1-④ びわ湖東北部地域生涯学習講座 次世代へ伝える地元先生育成プロジェクト
具体的な活動 (実施報告)	大学等の高等教育機関や地域で活躍している方から、身近な地域資源についての専門的な知識を愉しみながら学び、次世代へ伝えられる人材育成を目的として、令和5年度においては長浜開町450年であることから歴史に焦点を当てた3講座を実施。 【講座内容】 ・ 第1回 「家紋から学ぶ～歴史と紋切～」 日時：令和5年11月5日 日曜日 講師：滋賀県立長浜北高等学校教諭：宮本与司浩 内容：地域に根差した家紋という視点から、地域の歴史を学び、実際に紋切で家紋を作るワークショップ講座。 ・ 第2回 「長浜城下町を歩く～ブラヒロシ～」 日時：令和6年1月21日 日曜日 講師：淡海歴史文化研究所所長：太田浩司 アシスタント：劇団プラネットカンパニー：北澤あさこ 内容：羽柴秀吉が築いた長浜城下町の魅力を再発見するため、その成り立ちや特徴を講師が解説した映像を作成。講座当日は、講師の補足とともに映像を見る。 ・ 第3回 「お城談義～小谷城から長浜城へ～」 日時：令和6年2月10日 土曜日 講師：滋賀県立大学名誉教授・城郭研究家：中井均 内容：戦国時代の湖北地域の重要な拠点であった小谷城と長浜城について

	て、その遷移をお城談義形式で学ぶ講座。
実績（成果）	地域内で教育機関（大学）や地域で活躍している方と連携し、身近な地域資源である歴史についての専門的な知識を愉しみながら学び、次世代へ伝えられる人材育成を目的とした学びの機会の提供を行うことができた。 【受講人数】 ・第1回 「家紋から学ぶ～歴史と紋切～」 26名 ・第2回 「長浜城下町を歩く～ブラヒロシ～」 65名 ・第3回 「お城談義～小谷城から長浜城へ～」 39名 受講者合計 125 名 【アンケート】 各回ともにアンケートを実施したところ、概ね好評であった。
活動指標（KPI）への貢献度	本事業は、身近な地域資源について学び、次世代へ伝えられる人材育成を目的に、2020 年度から継続して実施している。2023 年度実績は、地域住民の関心が高い歴史に関する講座を 3 講座開催し、参加者 140 名と活動指標の達成に貢献している。 各世代のニーズに対応した生涯学習の機会を提供することで、地域の魅力を再発見することや、参加者のつながりを深めることができている。今後も引き続き、次世代へ伝えたい魅力ある地域資源を学ぶ機会の提供により、地域人材育成につながる事業を実施していきたい。

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (地域住民に向けた健康増進支援)
取組事業概要	自治体とプラットフォーム参加校が連携し、地域住民の生活習慣の改善や心身の健全を支援する健康教育プログラムや子育て支援を意識した活動を実施する。
活動指標 (KPI)	最終年度以降も継続可能な地域住民向けの健康イベントを 5 件以上定着させる。
対応 SDGs 番号	3、15
取組事業 No.	B-2-① 人生 100 年時代健康いきいきプロジェクト 中高年の健康増進分野
具体的な活動 (実施報告)	① 『ぶらり地元ウォーキング 3.0』地域の魅力を再発見「びわ湖東北部三杜（長浜・米原・彦根）秋物語」 i) 長浜「小谷城跡」山上の絶景に思いを馳せて“山道”を歩く 令和 5 年 11 月 16 日（木） JR 河毛駅・小谷城本丸跡間ウォーキング ii) 米原「醒井溪谷」もみじの絶景に思いを馳せて“峡谷”を歩く 令和 5 年 11 月 21 日（火） JR 醒ヶ井駅醒井養鱒場間ウォーキング iii) 彦根「佐和山城跡」大河ドラマに思いを馳せて“城下”を歩く 令和 5 年 11 月 29 日（水） JR 彦根駅・佐和山城址間ウォーキング ② 大学ツアー！心と体をリフレッシュ「肥田城・稲部遺跡歴史ウォーク」 令和 5 年 11 月 26 日（日） 聖泉大学・肥田城・稲部遺跡ウォーキング
実績（成果）	参加者数 ① i) 長浜「小谷城跡」山上の絶景に思いを馳せて“山道”を歩く → 24 名【内訳】一般 19 名、ガイド 2 名、看護師 1 名、スタッフ 2 名 ii) 米原「醒井溪谷」もみじの絶景に思いを馳せて“峡谷”を歩く → 30 名【内訳】一般 25 名、ガイド 2 名、看護師 1 名、スタッフ 2 名 iii) 彦根「佐和山城跡」大河ドラマに思いを馳せて“城下”を歩く → 30 名【内訳】一般 25 名、ガイド 2 名、看護師 1 名、スタッフ 2 名 ② 大学ツアー！心と体をリフレッシュ「肥田城・稲部遺跡歴史ウォーク」 → 27 名【内訳】一般 24 名、ガイド 1 名、スタッフ 2 名

	アンケート結果から ・大変良かったです ・同様のイベント計画をお願いします ・初めての参加で、次のイベントもチェックして参加したいと思います ・定期的に開催してほしい ・いつも楽しい企画をありがとうございます ・協議会が何を行っているかわかりませんが、ともあれご苦労様でした
活動指標（KPI）への貢献度	本事業における「健康ウォーキング」は 2020 年度から継続して実施しており、地域住民の健康増進とともに活動指標達成のための取り組みとして重要な役割を果たしている。 事後アンケートからも引き続きウォーキング機会の提供を望む声は多く寄せられており、本事業を継続実施することにより地域住民とりわけ中高年層の健康の維持増進に努めていきたい。

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (地域住民に向けた健康増進支援)
取組事業概要	地域住民の健康増進のために、自治体と連携し、健康への意識向上、取組継続、将来的には地域の担い手育成を目指す。
活動指標 (KPI)	最終年度以降も継続可能な地域住民向けの健康イベントを 5 件以上定着させる。
対応 SDGs 番号	3・4
取組事業 No.	B-2-② 光と色でつながるびわ湖東北部地域の健康づくり
具体的な活動 (実施報告)	学生を含む地域住民に対して、健康への脅威となる「認知症」「がん（悪性新生物）」「生活習慣病」についての情報提供を、連携する団体や専門職、支援者、学生が行った。 ① 彦根市高齢福祉課と連携し彦根市認知症キャラバンメイトによる認知症予防の「認知症サポーター養成講座」と「オレンジライトアップ」 ② ピンクリボンひこねと連携した乳がん患者支援の「帽子づくりワークショップ」と「ピンクライトアップ」 ③ 彦根市民に向けて健康づくり活動を行う講師（沢田喜久）と連携した糖尿病予防の「ヨガ体験」と「ブルーライトアップ」 *全てのライトアップは彦根市の企業工房 JINTA と連携して行った。
実績 (成果)	① 2023 年 11 月 2 日（木）に実施した「認知症サポーター養成講座」の講師（認知症キャラバンメイト）は 5 名、参加者は学生 71 名で、認知症サポーター 71 名が誕生した。オレンジライトアップは 2023 年 9 月 28 日（木）から 10 月 1 日（月）の日没から 21:00 に行った。 ② 2023 年 11 月 5 日（日）に実施した「帽子づくりワークショップ」の参加者は 13 名で、帽子は 30 着が作成できた。ピンクライトアップは 2023 年 10 月 18 日（水）から 10 月 22 日（日）の日没から 21:00 に行った。 ③ 2023 年 11 月 26 日（日）に実施した「体とところをととのえるヨガ体験」の参加者は 19 名であった。ブルーライトアップは 2023 年 11 月 9 日（木）から 11 月 12 日（日）の日没から 21:00 に行った。 ① ②③において、その内容をホームページ、Facebook、Instagram に掲載することで地域住民に対して広く情報発信を行った。

活動指標（KPI）への貢献度	本事業は、2022 年度から継続してびわ湖東北部地域で実施しています。2023 年度の実績として、連携先は自治体（彦根市）、団体（ピンクリボンひこね）、健康づくり支援者個人（講師：沢田喜久）と幅広く、参加者 108 名（学生、地域住民、専門職、運営支援者）、ライトアップやホームページ掲載を見た住民はそれ以上のものと考えます。参加者は「自分の健康を見直すきっかけとなった」「講座で聞いた内容は新しい発見だった」「健康づくりに取り組んでみたい」などと話しており、地域住民の生活習慣の改善や健康づくりを意識できることに寄与していることがわかる。今後も連携先を変更または拡大しながら、正しい情報の提供と住民が自主的に健康づくりに取り組むような支援を行っていきたい。
----------------	--

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。
活動指標 (KPI)	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	4、11、13
取組事業 No.	B-3-1 びわ湖東北部地域「災害に強いまちづくりプロジェクト」
具体的な活動 (実施報告)	① 防災士養成講座 (通信レポート+2 日間講義+防災士試験) ◇10 月 28 日 (土) 聖泉大学 ・オリエンテーション びわ湖東北部地域連携協議会 ・避難所開設訓練 (演習) - 日本防災士会滋賀県支部 副支部長 笠原恒夫 氏 ・風水害・土砂災害への備え - 立命館大学理工学部 教授 里深好文 氏 ・地震・津波への備え - 滋賀県立大学環境科学部 教授 大堀道広 氏 ・復旧・復興と被災者支援 - NPO 政策研究所 専務理事 相川康子 氏 ・耐震診断と補強 - 滋賀県立大学環境科学部 教授 高田豊文 氏 ・災害関連情報と予報・警報 - 彦根地方気象台 次長 山崎誠導 氏 ◇10 月 29 日 (日) 聖泉大学 ・災害医療とこころのケア - 京都橘大学健康科学部 助手 金澤豊 氏 ・自主防災活動と地区防災計画 ・地域防災と多様性への配慮 ・災害ボランティア活動 - 滋賀大学大学院教育学研究科 教授 藤岡達也 氏

	・土砂災害 立命館大学理工学部 特命教授 深川良一 氏 ・防災士に期待される活動 日本防災士会滋賀県支部 副支部長 笠原恒夫 氏 ・防災士資格取得試験 日本防災士機構
②	びわ湖の大学生がつなげる防災活動 i) びわ湖の大学生がつなげる防災活動 [概要] びわ湖東北部地域 5 大学の防災士有資格学生が主体となり、小学生向け防災キャンプ（宿泊なし）を開催する。防災キャンプでは、かまどベンチ炊き出し体験や避難所生活に必要な物品の準備など、避難所生活を忠実に再現し災害に対する準備意識、防災意識の向上を目指す。 [会場] 聖泉大学 [定員] 20 名程度 [予定] 5～6 月 学生・地域防災士募集開始 7 月 内容決定 8 月 事前学習会開催 9 月 参加者募集開始 10 月 イベント開催 10 月 アンケート回収・反省会 12 月 次年度検討
③	防災研修会（一般市民向け） i) 講座「地震災害に備えて」&実践「ロープワーク」 日時 9 月 30 日（土）10 時から 会場 聖泉大学 講師 笠原恒夫（滋賀県地域防災アドバイザー） ii) 講座「気候変動と防災」&実践「防災グッズ作り」 日時 10 月 7 日（土）10 時から 会場 伊吹の里 旬彩の森 講師 笠原恒夫（滋賀県地域防災アドバイザー） iii) 講座「災害対応から生まれた日本独自の助け合い文化と地域防災」&知識深耕「クロスロード」 会場 プロシードアリーナ HIKONE 講師 笠原恒夫（滋賀県地域防災アドバイザー）
④	防災セミナー「阪神・淡路大震災に学び、南海トラフ地震に備える」 月日 令和 6 年 2 月 27 日（火）

	会場 北淡震災記念公園 研修 「阪神・淡路大震災語り部に聴く」「他人ごとから自分ごとへ！！」 「北淡震災記念館見学」
実績（成果）	① 防災士養成講座（通信レポート+2 日間講義+防災士試験） 受講者数 110 名（内協議会推薦者 24 名） 事後アンケートから ・有名な講師の方が、講義されているととても分かりやすく役立ちました。 ・防災士について知っている人は 20 代では少ないと思います。このような形で 10～20 代の学生が講座やワークに参加できる機会を頂けることは、若年層の防災意識向上に重要であると思います。 ・老若男女問わず防災に意識する町にできる様、楽しい講習会などがあれば良いと思います。（家族で参画できるものなど） ・各市町村や自治会にあてに「住民が知っておいて役立つ防災知識をまとめた冊子」等を配布する。自治会としての取組課題、家庭ですべき事が明確になると自治会として動きやすいし住民の意識が変わると思う。 ・市民が防災の意識を持っているまちづくりが必須。自助は分かっているが、共助の意識が低いので皆が助け合えるきっかけとなる会合やつどいを子育て世代から参加できるようにしてほしい。 ・広い分野の講師陣と内容は大変参考となり重要性を感じました。リーダーも大切ですがなにより地域や個々の意識が大事と感じましたので、広くこれからの内容を一般の方々にも展開されることを望みます。 ② 大学生がつなげる防災活動 i) びわ湖の大学生がつなげる防災活動 (1) 日時 令和 5 年 11 月 11 日（土） 会場 聖泉大学（学園祭） 来場者数 約 30 名 活動概要 当初計画よりは規模を縮小しての実施となったが、彦根市消防本部の協力のもと、かまどベンチ炊き出し、防災グッズ制作、防災に関するクイズ大会等、学園祭来場者に対し実施した。 (2) 肥田地区での防災グッズ作成について 日時 令和 6 年 2 月 24 日（土）

	実施場所 西肥田町自治会館 対象者 17 名 活動概要 聖泉大学地域連携交流委員防災チームの学生 5 名の学生が、大学近隣の西肥田町サロンに出向き、新聞紙や牛乳パックを用いて防災グッズを地域の方とともに作成した。また、参加された地域の方々と防災に関わる会話をすることで、地域の実情を知る機会となった。 ③ 防災研修会（一般市民向け） 受講申込者数 i) 講座「地震災害に備えて」&実践「ロープワーク」 6 名 ii) 講座「気候変動と防災」&実践「防災グッズ作り」 3 名 iii) 講座「災害対応から生まれた日本独自の助け合い文化と地域防災」 8 名 アンケート結果から ・自治会により、かなり温度差があると思いますが、将来のことを考えたら炊き出しとか、生き残れたとしたら、その後の訓練もしておかないといけないなと思いました。 ・今後も、このような研修会を開催してください。 ④ 防災セミナー「阪神・淡路大震災に学び、南海トラフ地震に備える」 参加者数 20 名 アンケート結果から ・これからの現場に沿った研修会をお願いします ・すばらしいセミナーにもかかわらず参加者が少ないことが残念でした。 対策をして自治会などにも声をかけることは可能でしたら声掛けをしてほしい。 ・今回の「防災セミナー」はとても良かった ・令和 6 年度も各種セミナーを企画してほしい ・とても良かったので、他の方にも防災イベントを紹介してほしい ・このようなセミナーにもっと多くの人の参加を呼び掛けると参加者が増えるのではないのでしょうか ・個人ではなかなか来ない所だと思うので参加してお話を聞かせていただきよかったです ・大事なことは「自助」で、家でも防災グッズの備えを十分にする事、時間が経つと忘れてしまう「共助」では、地域コミュニティの活性、自治会が中心になって運営していかなければならないと思う”
--	--

活動指標（KPI）への貢献度	本事業における「防災士養成講座」は 2020 年度から「防災研修会」は 2021 年度から実施しているが、「活動指標」にある「学生が関わるまちづくり」を満たす活動となっていないが 2022 年度の「学生防災士すたーとあっぷアクション」、2023 年度の「大学生がつなげる防災活動」により「活動指標」達成に貢献している。 「防災士養成講座」、「防災研修会」については、昨今の天災や地震災害の状況や日々変化する「公助・自助・共助」の在り方を学ぶ貴重な機会と考えるが、自治体との役割分担を考慮しつつ、事業の見直しを行う。 「学生が関わるまちづくり」については、活動支援の更なる拡充をはかりつつ引き続き地域貢献に努めていきたい。
----------------	---

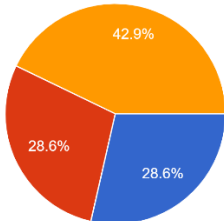
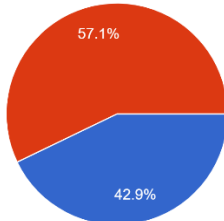
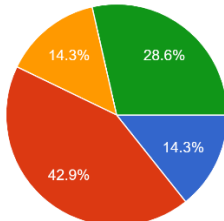
びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

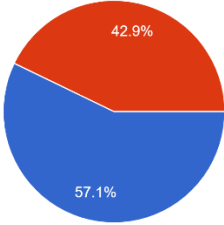
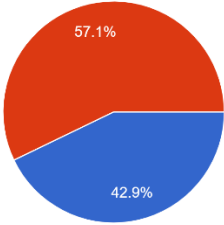
WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (地域住民に向けた健康増進支援)
取組事業概要	自治体とプラットフォーム参加校が連携し、地域住民の生活習慣の改善や心身の健全を支援する健康教育プログラムや子育て支援を意識した活動を実施する。
活動指標 (KPI)	最終年度以降も継続可能な地域住民向けの健康イベントを 5 件以上定着させる。
対応 SDGs 番号	3, 15
取組事業 No.	B-3-2-① 自然と歴史と暮らしを次代につなぐプロジェクト①土倉の森の伝承～散策と観察～
具体的な活動 (実施報告)	I 「土倉の歴史を岩で知る～土倉の森散策と電子顕微鏡観察」(2023 年 8 月 11～13 日実施。8/11 (金), 滋賀県長浜市木之本町金居原の土倉の森にてウォーキングを行い, 旧鉾山付近で鉾石を拾った。8/12, 13 に長浜バイオ大学にて鉾石や植物を電子顕微鏡で観察した。 II 「歴史文化を辿る土倉鉾山跡思い出ウォーキングツアー」(2023 年 11 月 23 日実施。1965 年の鉾山閉山まで土倉に住んでいた白川さんをガイドにお迎えし, 解説付きのウォーキングツアーとなった。鉾山選鉾場跡を見学後, 消えた 1500 人の村跡を散策した。
実績 (成果)	I 参加者 5 名でウォーキング散策事業を行った。電子顕微鏡観察をすることで鉾石に含まれる元素を見出したり, シダの裏面の孢子微細構造を明らかにしたりした。結果, 散策地点の地質やそこに存在する植物を学ぶことができて, 奥行きのあるプロジェクトになった。企画後, インスタグラムを利用し, 良好な参加感想を頂いた。 II 参加者 15 名でウォーキング散策事業を行った。消えた村の痕跡を参加者とともに探ることで, かつての人々の生活に思いを馳せつつウォーキングを行った。1959 年 9 月伊勢湾台風被害となった地点もウォーキングの目玉であり, ダークツーリズムとして当時亡くなった方々を偲んだ。

活動指標（KPI）への貢献度	I 健康とは、心身の働きをよくするための活動であると考え、今回の企画「ウォーキングして、その場所で得たサンプルを解析することで学びにする」は、ウォーキング途中にあったものを謎にしたままにせずに理解を深めることであり、単なる運動にとどまらない。その意味で、全く新しい、次世代的な健康イベントであると考えられる。参加者は少なかったが、散策の場所を変えることで継続可能で定着性の高いイベントとなりうる。 II 一般に、健康ウォーキングは単に歩く企画になりそうであるが、本企画は全く新しいウォーキングである。本企画は、参加者に稼働を完了した鉱山や消えた村をウォーキングし見てもらうことで、今後も長く健康に生きていく糧にしてもらうことを主眼にした。本企画は3年連続で晩秋の時期に行い、紅葉も美しく目にも優しい。アンケート結果でも全ての参加者から高評価となり、意義深い企画となった。ダークツーリズムと融合した本ウォーキングは、次世代的な健康イベントであると考えられる。毎年軽微な改善を行ってきており、今回、完成され洗練された企画となった。以上から、継続可能で定着性の高いイベントとなりうる。
----------------	---

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	● 地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ● 地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	安心安全なまちづくりや地域活性化と交流を促進する活動を毎年 5 件以上実施するために、プラットフォームが連携し、学生の地域活動の推進、多様な交流イベント等を実施する。
活動指標 (KPI)	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	11, 13, 14, 15
取組事業 No.	B-3-2-②びわ湖東北部地域「自然と歴史と暮らしを次代につなぐプロジェクト」 地域資源の魅力を発信するイラスト冊子の作成
具体的な活動 (実施報告)	WG-B の課題である「びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実」に対する解決の一助とするために、学生目線で魅力を発信する成果物の制作に取り組んだ。これにより、達成目標である「地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する」に資することもねらいとした。 1. 事業の進め方 ● 学生の地域への愛着度向上を目指す達成目標を鑑み、各大学の学生を募集したところ、滋賀文教短期大学の学生 9 名が参加した。 ● 冊子を制作するにあたり、エリア、テーマ・コンセプト、取材方法等については、学生間でディスカッションすることで学生に決定させた。 ● エリアの設定が長浜市となったことから、学生と長浜市政策デザイン課及び文化観光課との WEB 会議を開催し、意見交換を行い、上記テーマ・コンセプト等に修正を加えていった。 ● 参加学生を 4 グループに分割し、全体で決定した内容に基づき、各グループが取材と原稿執筆を担当した。 ● 完成した冊子は PR 効果を狙い、まずは長浜市長を訪問し届けることとした。その後、各所へ郵送配付した。 2. 成果物について

	冊子「おくびわぐらし」 ● どのような地域課題に焦点を当てるかという点について、学生ディスカッションしたところ、調査可能な範囲であること、滋賀県が北部振興政策をとっていること、十分に脚光が当たっていない場所であること、外部が興味をもつテーマであること等から、場所をびわ湖東北部の更に東北部である「奥びわ地域」に設定した。 一般の観光冊子にない特色を出すために、そこで暮らす「人」にフォーカスし、人を介することでスポットを紹介するという形式をとった。																												
実績（成果）	● 冊子については完成してから評価する。 ● 「地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する」という目標に対し、学生アンケートでは、5段階評価の4以上（5 大好き、4 好き）が、100%の結果であり、大きな成果があったと評価する。 出身地を教えてください。 7件の回答  <table border="1"> <caption>出身地を教えてください。 7件の回答</caption> <thead> <tr> <th>出身地</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>彦根・長浜・米原市</td> <td>28.6%</td> </tr> <tr> <td>上記以外（滋賀県内）</td> <td>28.6%</td> </tr> <tr> <td>上記以外（滋賀県外）</td> <td>42.9%</td> </tr> </tbody> </table> 活動前の状態について教えてください。彦根・長浜・米原に愛着はありましたか？ 7件の回答  <table border="1"> <caption>活動前の状態について教えてください。彦根・長浜・米原に愛着はありましたか？ 7件の回答</caption> <thead> <tr> <th>状態</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>この地域が好きで愛着をもっていた</td> <td>42.9%</td> </tr> <tr> <td>この地域のことあまり知らないで、愛着は薄かった</td> <td>57.1%</td> </tr> <tr> <td>あまりよいイメージを持っていなかった</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> 活動前の状態について教えてください。彦根・長浜・米原への愛着度を数字で表すと？【5段階】 7件の回答  <table border="1"> <caption>活動前の状態について教えてください。彦根・長浜・米原への愛着度を数字で表すと？【5段階】 7件の回答</caption> <thead> <tr> <th>愛着度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5 大好き</td> <td>14.3%</td> </tr> <tr> <td>4 好き</td> <td>42.9%</td> </tr> <tr> <td>3 どちらでもない</td> <td>14.3%</td> </tr> <tr> <td>2 知らないから評価できない</td> <td>28.6%</td> </tr> <tr> <td>1 よいイメージはなかった</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	出身地	割合	彦根・長浜・米原市	28.6%	上記以外（滋賀県内）	28.6%	上記以外（滋賀県外）	42.9%	状態	割合	この地域が好きで愛着をもっていた	42.9%	この地域のことあまり知らないで、愛着は薄かった	57.1%	あまりよいイメージを持っていなかった	0%	愛着度	割合	5 大好き	14.3%	4 好き	42.9%	3 どちらでもない	14.3%	2 知らないから評価できない	28.6%	1 よいイメージはなかった	0%
出身地	割合																												
彦根・長浜・米原市	28.6%																												
上記以外（滋賀県内）	28.6%																												
上記以外（滋賀県外）	42.9%																												
状態	割合																												
この地域が好きで愛着をもっていた	42.9%																												
この地域のことあまり知らないで、愛着は薄かった	57.1%																												
あまりよいイメージを持っていなかった	0%																												
愛着度	割合																												
5 大好き	14.3%																												
4 好き	42.9%																												
3 どちらでもない	14.3%																												
2 知らないから評価できない	28.6%																												
1 よいイメージはなかった	0%																												

	活動後の状態について教えてください。彦根・長浜・米原への愛着に変化はありましたか？ 7件の回答  ● もともと好きだったが更に好きになった ● もともと愛着は薄かったが、魅力を知ることによって愛着が芽生えた ● もともとあった愛着が、調査することで薄まった 活動後の状態について教えてください。彦根・長浜・米原への愛着度を数字で表すと？【5段階】 7件の回答  ● 5 大好き ● 4 好き ● 3 どちらでもない ● 2 知らないから評価できない ● 1 よいイメージはない
活動指標（KPI）への貢献度	本事業は、長浜市、地域住民、学生による取り組みであり、KPIである「産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年5件以上実施する。」の一助となったと評価する。 課題として、「学生が関わるまちづくり活動」においては、学生の日程調整が困難となっていることが考えられる。正課実施のためのタイトな学年歴のなか、地域のまちづくり活動のために、いかに時間を作り、いかに関わっているかということは、昨今の学生と大学にとって大きな課題であろう。特に、各大学の連携や参加を推奨する本協議会においては、個々の大学の学生を特定の日に参加させるために多大な調整が必要となる。 これらの課題に対し、本事業のように一つのテーマ・目的に対し、それぞれの大学の学生が個別に取り組み、成果として取りまとめるという手法も、一つの解決策となり得ると考える。

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40 %増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65 %以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	安心安全なまちづくりや地域活性化と交流を促進する活動を毎年 5 件以上実施するために、プラットフォームが連携し、学生の地域活動の推進、多様な交流イベント等を実施する。
活動指標 (KPI)	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	3
取組事業 No.	B-3-2-③びわ湖東北部地域「自然と歴史と暮らしを次代につなぐプロジェクト」郷土食を見直す
具体的な活動 (実施報告)	講演会の開催。 地域における郷土食の見直しを課題設定した講演会を実施した。
実績 (成果)	会場の設定、食材の扱い等の問題から、試食も含めた実地による郷土食の体験、見直しは実施できなかったが、湖北地方に伝わる郷土食について、特に、まつりや年中行事のときにふるまわれる料理に焦点をしばり、その特性について、民俗学を専門とし、この地域をフィールドとして長年研究を続けてこられた先生をお招きし、講演会を実施した。 「郷土食を知るー湖北のまつり・行事のハレの食事ー」 講師 中島誠一(滋賀文教短期大学講師・元長浜城歴史博物館長) 実施日 2024 年 2 月 25 日 場所 滋賀文教短期大学 参加者数 13 名
活動指標 (KPI) への貢献度	ユネスコで「和食」が食の無形文化財として認められ、また、「近江のなれずし製造技術」が国の登録無形民俗文化財に登録されるなど、湖国の食が大きくクローズアップされている中、それらの知識の元になることを湖北地域の方に広く知ってもらうことができた。

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業																							
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実																							
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)																							
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)																							
取組事業概要	プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。																							
活動指標 (KPI)	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。																							
対応 SDGs 番号	11																							
取組事業 No.	B-3-3-① SDGs でつながる学生の地域連携プロジェクト																							
具体的な活動 (実施報告)	「SDGs でつながる学生の地域連携プロジェクト」として、申請のあった 3 大学 3 団体の活動を承認し、各団体が地域活性化や地域課題解決に向けた取組を行った。 6 月 9 日 プロジェクト実施決定 (協議会) 6 月 13 日 プロジェクト募集周知 → 15 団体 (各大学 3 団体) 7 月 11 日 プロジェクト応募締切 → 応募数 3 団体 7 月 15 日 プロジェクト審査・結果通知 → 採択数 3 団体 7 月 16 日 プロジェクト開始 各大学のスケジュール・課外活動規程に従って実行 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>プロジェクト名</th><th>SDGs No.</th><th>連携先</th><th>所属</th><th>活動学生数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プロジェクト Nature</td><td>⑪</td><td>(株) 明日葉</td><td>滋賀大学</td><td>8 名</td></tr> <tr> <td>しがのふるさと 支え合いプロジェクト</td><td>⑪⑮</td><td>余呉まちづくり協議会、池原自治会</td><td>滋賀文教短期大学</td><td>19 名</td></tr> <tr> <td>がん患者に対する継続支援 ～ 学生が簡単に制作できる「タオル帽子」～</td><td>③④</td><td>ピンクリボンひこね</td><td>聖泉大学</td><td>7 名</td></tr> </tbody> </table> 1 月 30 日 学生アンケート (愛着度調査) 実施依頼				プロジェクト名	SDGs No.	連携先	所属	活動学生数	プロジェクト Nature	⑪	(株) 明日葉	滋賀大学	8 名	しがのふるさと 支え合いプロジェクト	⑪⑮	余呉まちづくり協議会、池原自治会	滋賀文教短期大学	19 名	がん患者に対する継続支援 ～ 学生が簡単に制作できる「タオル帽子」～	③④	ピンクリボンひこね	聖泉大学	7 名
プロジェクト名	SDGs No.	連携先	所属	活動学生数																				
プロジェクト Nature	⑪	(株) 明日葉	滋賀大学	8 名																				
しがのふるさと 支え合いプロジェクト	⑪⑮	余呉まちづくり協議会、池原自治会	滋賀文教短期大学	19 名																				
がん患者に対する継続支援 ～ 学生が簡単に制作できる「タオル帽子」～	③④	ピンクリボンひこね	聖泉大学	7 名																				

	2月29日 プロジェクト実績報告・会計報告
実績（成果）	今年度3件（前年度7件）のプロジェクト活動が推進された。 滋賀大学学生による取り組みにおいては、琵琶湖をテーマに『大学生よりも長く滋賀県に関わり、吸収力も高い子どもを対象として環境学習を行うという活動計画に対し、地域の子ども270名の参加を得たという大きな成果を残した。 滋賀文教短期大学学生による取り組みにおいては、余呉地域の魅力再発見、地域活性化をテーマに、地域住民約20名、行政担当者2名の参画を得て「地域の魅力を伝える動画」として遺すことができた。 聖泉大学学生による取り組みについては、地域団体（5名）、大学教員（2名）との協働において、「タオル帽子」を制作し、公立甲賀病院、彦根市立病院の協力のもと、患者さんに「タオル帽子」を届けることができた。 取組数は減ったが多くの大学生や年齢を問わず地域住民が参加する取組が実施できた。しかしながら地域への愛着度を測定するアンケート調査時期が遅くなったことにより回答数が少なく愛着度が評価できない事態となった。 取組数増加促進、ならびにアンケート回収の徹底を課題とし次年度以降も継続実施していきたい。
活動指標（KPI）への貢献度	本事業は、2019年度から継続してびわ湖東北部地域で実施しており、活動指標（KPI）の達成だけでなく、本協議会が達成目標として掲げる「地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度65%以上を達成する。」への最重点事業としてブラッシュアップを図り、「実績（成果）」でも述べた課題を是正し継続したい。

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。
活動指標 (KPI)	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	11
取組事業 No.	B-3-3-② デジタルコミュニティ通貨を通じた地域づくり実験事業
具体的な活動 (実施報告)	今回は滋賀県のデジタル地域通貨「ビワコ」の活用を、ユーザー目線とスポット目線の両面から学び、大学の内外で活用実践を行った。このことを通じて、地域で人・モノ・金はどうしたら循環し、活性化につながるのかを考える機会とした。5 月 3 日に彦根市で開催された 3939 マルシェで、デジタル地域通貨「ビワコ」をお試し活用した。また、滋賀県のデジタル地域通貨担当者をゲストに招き、「なぜ滋賀県がビワコを普及させようとしているのか」について学んだ。デジタル地域通貨「ビワコ」は、その地域通貨を利用するユーザーという役割と、地域通貨を流通させるための体験プログラムを提供するスポットという役割があることも学んだ。その後の授業では、ビワコのヘビーユーザーをゲストに、このビワコを日常にどのように活用し、生活に役立てているのかを学んだ。また、県内のスポット実践者もゲストに招き、地域通貨を流通させるためのスポット運用方法について学んだ。その後、参加者たちは実際に一人一人がスポットになり、オンラインでの体験を作った。地域通貨の利活用にはその仕組み自体の普及が必要だが、彦根地域ではなかなか取り組みが進んでいないのが実情である。オンライン体験は地域に限定されることなく、県内外から体験をすることができるのがメリットで、学生のオンライン体験には多くの利用があった。また、ビワコを活用した取組が進んでいる近江八幡市のあきんど道商店街でフィールドワークを行った。7 月には商店街のイベントを開催されたことから、現地を訪問し、ビワコ活用の実例を学んだ。

実績（成果）	ビワコ利用を目的にイベントを開催したり、集客のツールにしたりするにはなかなか難しいと事業を通じて実感した。一方、オンライン体験では滋賀県内をはじめ、県外からも体験の利用があり、その体験者との繋がりを作ることができ、例えば「美味しいお店を教えてください」と言ったような情報を収集することも、デジタル地域通貨「ビワコ」のプラットフォームを利用して行うことができた。 また、事業を通して大学内でデジタル地域通貨のプラットフォームを作りたいと考えている。参加学生は前年度と本年度合わせて約 70 名になり、全員がビワコのアプリをインストールし、大学内の食料配布「みんなの食品庫」でビワコと交換で食料をもらうなどを実践している。このようにビワコの一定の利用は実現した。 デジタル地域通貨を通じて地域経済を考えたり、地域通貨と地域活性化の事例を実際に検証したりして、地域通貨が流通することでこれまでの貨幣経済ではない価値の流通を体感できたと考えたが、現実にはそこまでは至らなかった。アプリを開き、デジタル地域通貨を使い、何らかのサービスを得るということへのハードルはなかなか高いものがあると感じた。しかし、例えば QR コード決済サービスはそのポイントを使って買い物ができ、アプリをインストールすることやアプリを起動して支払うという行為ができていることを考えると、アプリの面倒さというよりも、デジタル地域通貨を使って得られるサービスの種類や数の多い少ないことが、その広がりに影響をしているのだろうと感じる結果となった。 これからの地域やコミュニティを考えると、その繋がりを作り、維持するためには、貨幣では買えないモノのやり取りが大事なことに変わりない。ビワコに限らず、地域での価値の交流を今後も研究していく必要がある。
活動指標（KPI）への貢献度	学生が主体的に参加し、滋賀県のデジタル地域通貨「ビワコ」について知り、その活用方法を学び、まちの活性化に向けた方策を考えることで、上記、活動指標（KPI）を達成することに貢献しており、デジタル地域通貨を活用したこれからの地域活性化方策の策定に寄与している。

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。
活動指標 (KPI)	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	3, 8, 10, 11
取組事業 No.	B-3-3-③ 福祉と“まちづくり”を考える事業
具体的な活動 (実施報告)	本事業で以下 4 プロジェクトの活動を行った。 【「福祉教育を考える」プロジェクト】 長浜市・米原市・彦根市の社会福祉協議会と滋賀大学が連携し、授業と連動して実施。18 名の学生が、社会福祉協議会や関係団体の取り組みを見学し、話を聞き、感じたことを教材に落とし込み成果報告会や意見交換を行った。 【「障害者アート展」プロジェクト】 地域の障害者アート実行委員会との共催で、滋賀大学内でのサステナウィーク（持続可能な社会づくりを考える週間）に合わせて 11 月 21 日～12 月 8 日の間、写真家によるデイサービス ふぁみりい施設の写真展を行った。 また、以下の 2 プロジェクトでは滋賀大学開講授業と連動し、都市デザインと福祉の視点を組み合わせたまちづくりを考える講義を、ゲスト講師を招き実施した。 【福祉から“まちづくり”を考えるプロジェクト】 「地域の社会と経済」 後期・月曜 4 限 受講生 450 名 ・11 月 27 日「居住支援と社会復帰の見える生産性～救護施設ひのたに園の実践から考える～」斉藤誠一氏（社会福祉法人グロー・救護施設ひのたに園） ・1 月 22 日「AI 時代の福祉の思想～福祉の実践と思想から共生社会を考える～」大平眞太郎氏（社会福祉法人グロー） ・1 月 29 日「孤立しない社会の実現に向けて～伴走型支援の実践～」岡

	部浩之氏（社会福祉法人清心会・全国地域生活支援ネットワーク）・下里晴朗（社会福祉法人ほっと未来 SOUZOU 舎・全国地域生活支援ネットワーク） 「地域経済論」 後期・月曜 6 限 受講生 246 名 ・12 月 11 日「暮らしやすい都市とは～ダイバーシティの重要性～」玉木幸則氏（社会福祉士・NHK バリバラコメンテーター） 「アート思考」 後期・木曜 5 限 受講生 58 名 ・11 月 30 日（木）「“ボーダレスな場”を“障害のある人のアート”と“鑑賞”から考える」横井悠氏（ボーダレス・アートミュージアム NO-MA 主任学芸員） ・12 月 7 日（木）「描く・奏でる・つくる④」佐久間新氏（ジャワ舞踊家） 【ウォーカブルなまちなかの可能性を考えるプロジェクト】 「地域の社会と経済」 後期・月曜 4 限 受講生 450 名 ・10 月 16 日「ヒューマン・スケールから人に優しい都市を考える」笹尾和宏氏（京都大学経営管理大学院） ・12 月 18 日「社会とのかかわりと活動の多様性」又吉重太（おお企画室）・竹岡寛文（株式会社タケコマイ）・澤田敦希（滋賀県立大学大学院）
実績（成果）	【「福祉教育を考える」プロジェクト】では、話を聞いて考えて人に伝えていくというプロセスを重視した。夏休みの 4 日間で、高齢化や生きづらさなどの社会的な課題について、集中的に学ぶ機会を設けられた。プログラムを通じて作成した教材は、実際に社会福祉協議会の研修会で活用されたり、子ども向けのイベント時に発表され使用されたりした。【「障害者アート展」プロジェクト】では、校舎棟の廊下を中心に展示を行ったため来場人数等は把握できていないが、学生・教職員が授業の合間に展示をみて会話をはずませていた。 【福祉から “まちづくり” を考えるプロジェクト】では、ゲストによる講義の前段として、糸賀一雄氏らによる実践活動の解説を行なった。そのうえで、現代の滋賀での実践者（斎藤氏・大平氏）と全国での実践者（玉木氏・岡部氏・下里氏）の取り組みを紹介した。この結果、「地域の社会と経済」の受講生のうち、総括した講義「AI 時代の福祉の思想～福祉の実践と思想から共生社会を考える～」について 83.1%の学生が理解できたとの回答を得た。 【ウォーカブルなまちなかの可能性を考えるプロジェクト】では、誰もが歩きやすい、人に優しい都市を目指す都市デザインの潮流について、ヒューマン・スケール（ヤングール）、国内外の事例について解説した。「地域の社会と経済」では、具体的に彦根駅前の空間整備計画について解説を行なった。89.4%の学生が彦根駅前の空間整備計画について初めて知ったとの回答を得た。また、「地域経済論」では、都市政策と交通政策の関係性に

	ついて事例をもとに解説を行なった結果、理解できた学生は 73.4%であった。また、授業「アート思考」にて、実際にまちなかや大学構内を歩き、写真や映像を撮影する課題を実施した（提出者 51 名）。了承を得た学生の課題を作品としてまとめ、「滋賀大学×やまなみ工房アール・ブリュット展 湧き上がる創造性が結実する場とは？」(1 月 31 日(水)～2 月 9 日(金))に出展した。
活動指標 (KPI) への貢献度	【「福祉教育を考える」プロジェクト】では、プログラムの 4 日間だけでなく、その後も地域福祉や福祉教育に寄与している。また、【「障害者アート展」プロジェクト】においても、普段学生が目にするものの少ない障害者支援サービス施設の様子を知る機会となった。これらを通し、学生が関わるまちづくり活動として KPI 達成に貢献している。来学期も社会福祉協議会との連携を継続し、福祉教育のプロジェクトを実施する予定である。 また、【福祉から “まちづくり” を考えるプロジェクト】では、講義前のアンケートでは、生活保護の制度理解がない現状（「地域の社会と経済」では 48.3%、「地域経済論」では 53.1%）にもかかわらず、「生活保護の不正受給に対する罰則を強化すべきだ」との意見が多かった（「地域の社会と経済」では 78.8%、「地域経済論」では 71.6%）。さらに、日本国籍以外の人には助ける必要がない（「地域の社会と経済」では 73.3%、「地域経済論」では 63.5%）、住民票なしの人を助ける必要がない（「地域の社会と経済」では 58.4%、「地域経済論」では 55.8%）と考えていることがわかった。受講生にとって、テーマの受け入れやすさとしては、糸賀一雄らの活動紹介が 40.6%、ついで「AI 時代の福祉の思想～福祉の実践と思想から共生社会を考える～」が 36.1%と高い割合を占めた。これらの結果から、学生が福祉からまちづくりを考えるきっかけとなり、学生が参加するまちづくり活動の KPI 達成に貢献している。糸賀一雄とその流れをくむ現代の福祉の思想を合わせて学ぶ講義を次年度以降も提供することを考えている。 【ウォークアブルなまちなかの可能性を考えるプロジェクト】では、本プロジェクトと連携した講義「地域の社会と経済」で、受講生のうち 64%の学生が大学以外での地域活動に取り組んだことがないと分かった。そのうえで、建築や都市デザイン分野における学生活動を紹介したところ、76.4%の学生が取り組んでみたいとの回答を示した。アンケートには、「普通に滋賀大に通っていては関わる機会がほぼない」、「実際に自分たちと同じ年齢位の方たちも多方面で活動を行っている」、「滋賀大学ではそのような活動がしたくても機会がなくて困っている人がある」などの意見がみられた。建築や都市デザイン分野で活動する学生の具体的な取り組みを紹介できる講義を次年度以降も提供することで、学生参加によるまちづくり活動につなげたいと考えている。

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・ 地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・ 地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3(国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	安心安全なまちづくりや地域活性化と交流を促進する活動を毎年 5 件以上実施するために、プラットフォームが連携し、学生の地域活動の推進、多様な交流イベント等を実施する。
活動指標 (KPI)	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	4、11
取組事業 No.	B-3-4 びわ湖東北部地域「まちの魅力発信プロジェクト」 ① Feel 度 Walk で地域の魅力を再発見し、リーフレットを作成しよう
具体的な活動 (実施報告)	【実施内容】全 4 回 場所:滋賀文教短期大学 いぶきホールおよび、田村山 講師:市川力(一般社団法人みつかる+わかる 代表理事) ・ 第 1 回 9 月 2 日(土)10 時～15 時 午前中は、講師の市川力さんを中心に、田村山を Feel 度 Walk し、見たものをカメラで撮影し、記録していった。午後からは、実際にみたこと、感じたことを「知図」という形で、各々自由に描いた。後半は、それらの成果物を通し、みんなの発見を共有することにより、田村山の良いところを見つけていくという作業を行なった。 ・ 第 2 回 9 月 3 日(日)10 時～12 時 前日に描いた知図や共有した内容を元に、田村山の良さを伝えるためのリーフレットづくりのアイデアを出しあった。また、実際のアウトプット方法を想定し、リーフレットのプロトタイプを作成したりした。 ・ 第 3/4 回 11 月 26 日(日)10 時～12 時/13 時～15 時 リーフレット作成に向けた編集会議を行った。編集会議をとおして、「田村山」の紹介リーフレットの作成ではなく、「まちの魅力発見」の方法の一つとして、今回の取り組みの流れを紹介するリーフレットを作成して

	はどうかということになり、作業内容を分担し、台割の作成までを行なった。 4回目以降は、メール等を活用して原稿の作成を行なった。 幼児から大人までさまざまな世代の方、家族単位の参加が多く、実際に田村山に登り、自然と触れ合うことにより、さまざまな発見や交流があった。また、その魅力を発信していこうと話し合う中で、それぞれがアイデアを出し合うことができた。
実績（成果）	参加者は16名で、そのうち全4回参加した方は10名だった。学生の参加がなかったことは残念である。 また、今回の取り組みの成果を、24ページにまとめ、冊子を500部作成した。冊子は参加者の方の制作物などをふんだんに紹介した楽しい内容になっており、取り組みの概要はもちろん、まちあるきやその魅力発見の手法としての「Feel度Walk」についても紹介している。冊子は市役所や商工会議所、図書館等にも送付し、これからのまちの魅力発見の方法の一助にしていいただければと思う。
活動指標（KPI）への貢献度	市民が気軽にまちづくりに参加できる手法を通し、産官学地域連携に繋げるひとつのアプローチになるのではないかと考える。その一例としての手法をリーフレットにまとめた。

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40 %増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65 %以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	安心安全なまちづくりや地域活性化と交流を促進する活動を毎年 5 件以上実施するために、プラットフォームが連携し、学生の地域活動の推進、多様な交流イベント等を実施する。
活動指標 (KPI)	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	11
取組事業 No.	B-3-4-② びわ湖東北部地域「まちの魅力発信プロジェクト」 音楽を通じた多文化共生のまちづくり演奏会
具体的な活動 (実施報告)	まちなかコンサートの開催 地域における芸術文化の振興を図ること、音楽を通じた国際交流活動を推進することを目的として、国際親善交流音楽会を実施した。
実績 (成果)	今年度後述の通り 2 回の国際親善交流音楽会を実施した。特にまちづくり演奏会という事から、会場は連携自治体である長浜市の神照まちづくりセンターを会場とし、まちの活性化に資するような演奏会とした。また、実施内容を検討するにあたり、国際文化交流ハウス・GEOで実施される市内居住の外国の方が参加される円卓会議に参加し、①長浜市に住んでみて困ったこと、②あったら参加したい交流イベント、をそれぞれ市内居住の外国の方へ意見聴取した。その意見を踏まえ、音楽と食をテーマにしたイベントを計画するに至った。また、今般特に国際交流と言う側面を持つイベントであることから、本学の学生で香港からの留学生である学生と、音楽会のみならず特別対談と言う形式で本音楽会に関わり、特にまちづくりに資する質問と回答を織り交ぜ、市民に対して在日外国人の意見を投げかける機会を得ることも出来た。また、第 1 回の国際交流音楽会については昨年度の動画制作も踏襲し、音楽会の動画を公開する。 第 2 回目の音楽会については、「コンサートホールに出かけての、クラシック音楽のコンサート鑑賞は敷居が高いと躊躇している市民の方に向け、観客が数十二人規模、休憩も含めて、1 時間 30 分程度のプログラム

	で、気軽に本物のクラシック音楽を楽しんでいただける、街なかコンサートを開催する！」を基本コンセプトにして、クリスマスの時期に地元の短大(滋賀文教短期大学)の教室で弦楽四重奏のコンサートを開催した。 【第1回国際親善交流音楽会】 日 時：令和5年12月10日（日）9：30～15：30 場 所：神照まちづくりセンター (〒526-0015 滋賀県長浜市神照町286-1) 出演者：・マルタイン ・Amit Roy ・小室武史 ・福井則之 ・あじくーたー ・橋本雅楽悦・杉江雅楽美・橋本雅翔 アンケート結果（抜粋）： ・めずらしい楽器に生に体感することができてとても良かったです。無料だったので気軽に出入りできうれしかったです。子どもまでも初めて聞く音にききいていました。 ・馬頭琴の演奏が良かった。留学生の方のインタビューも気付けられることが多かった。 ・初めてきかせていただきました。古来の楽器でゆうがですね。 ・休み時間にキッチンカーの所にいける方法が良かったです。 ・これだけの催しがあるのにお客さんが少ない。もっと宣伝が必要。もっとみんなが盛り上げられるのに嬉しいです。 【第2回国際親善交流音楽会】 日 時：令和5年12月17日（日）14：00～15：30 場 所：滋賀文教短期大学 あすなろホール (〒526-0829 滋賀県長浜市田村町335) 出演者：松谷由美(ヴァイオリン・京都市交響楽団員) 相本朋子(ヴァイオリン・京都市交響楽団員) 金本洋子(ヴィオラ・京都市交響楽団員) 佐藤響(元京都フィルハーモニー室内合奏団員) 演奏曲：アイネ・クライネ・ナハトムジーク グリーンスリーブス タイスの瞑想曲 ほか アンケート結果（抜粋）： ・一流の演奏家の演奏をこんなに近くで聴けて感激。大きなホールでのオーケストラ演奏とは違いますね。小さなホー
--	--

	ルなのでうれしかったです。 ・好きな曲ばかりでとても嬉しいです。普段は遠方までコンサートを聴きに出かけています。 ・とりはだがたちました。プロの方の演奏はすばらしかったです。ぜいたくなひとときがとても幸せでした。 ・なかなかプロの演奏を聴く機会がなく、身近に聞かせていただいていた良かったです。 ・いやされました。がん治療で息抜きができました。 ・地域に広く公開して下さる催し、今後も大変期待しています。
活動指標（KPI）への貢献度	今般 2 回の音楽会を実施し、先ず 1 回目の音楽会については活動指標である産官学地域連携を生かした学生に関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施について、音楽交流会のみならず、留学生と言う立場で市民に向けて在日外国人市民の印象等を広く示すことが出来今後のまちづくりの一助に資する事となり KPI へ貢献していると考えます。但し、集客にまだまだ課題があると考えられる。初のイベントという事もあり中々有効な宣伝を打つことが出来なかったため、今後実施するにあたっては一定の集客が見込めるような施策を検討していきたい。 2 回目の音楽会については、普段なかなか大きなホールに出かけてオーケストラの音楽は行きづらいというような方々、具体的には小学校の子供連れの方、体の不自由な方、交通手段をお持ちでない方、普段はポップスを中心に音楽鑑賞をなさっている方、10 歳代から 20 歳代の若者、年配の方、忙しくて普段は固まった時間を取れない方等、一般的な本格クラシックコンサートには行きにくい方へ向けてという、コンセプトにかかげさせていただいたようなお客様の層にきていただいていた。 また、学生のじぎょうへの参加という視点からは、県南部のような本格的な音楽専用の大きなホールがない湖北に住んでいても、身近なところで、逆にアットホームな形で、本格的なクラシックコンサートを実施することができるということを経験してもらうことができた。 来場・鑑賞という形はもちろんのこと、自ら進んで、チラシ配りや口コミで PR を行ったり、会場の跡片付けにも積極的に参加する学生がいた。次回は、より広く呼びかけ、ホスト・ゲスト両面での新たな参加層を掘り起こしていきたい。

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (地域住民に向けた健康増進支援)
取組事業概要	地域住民の健康増進のために、自治体と連携し、健康への意識向上、取組継続、将来的には地域の担い手育成を目指す。
活動指標 (KPI)	活動指標 最終年度以降も継続可能な地域住民向けの健康イベントを 5 件以上定着させる。
対応 SDGs 番号	3, 11
取組事業 No.	B-3-4-③ ユニバーサルスポーツを通じた地域交流および多様性理解の推進とプロモーション動画の制作
具体的な活動 (実施報告)	下記 4 つの事業を実施した。 ①モルックを中心としたユニバーサルスポーツをびわ湖東北部地域の障害者施設や放課後等デイサービスなどに対して普及啓発する活動 (出張モルック体験) ②びわ湖東北部におけるユニバーサルスポーツ体験会・大会の開催 ③ユニバーサルスポーツなどを用いた福祉活動団体との合同研修の実施 ④③を撮影した素材を用いた多様性理解とびわ湖東北部の地域活性を推進するプロモーション動画の制作 活動は、聖泉大学人間学部の授業「プロジェクト演習」(多胡ゼミ・木村ゼミ)を履修している学生・教員 (のべ 14 人) が中心となっていた。
実績 (成果)	①<出張モルック体験会> ・放課後等デイサービス事業所「さくらは一と」への出張モルックイベント (2023 年 8 月 28 日(月)13:30-16:00@荒神山公園) ・モルック・電動車椅子サッカーイベント「サラダパンカップ」(NPO 法人 CIL だんないと共同開催 ; 2023 年 9 月 24 日(日)13:00-17:00@木ノ本小学校体育館) ・放課後児童クラブ出張モルック体験会 (2023 年 11 月 8 日(水)15:00-16:30@稲枝東放課後児童クラブ) ・「子ども学び座」(2024 年 1 月 20 日(土)10:00-11:30@下草野まちづくりセンター) ・公民館主張モルック体験会 (2024 年 3 月 9 日(土)10:00-12:00@旭森

	公民館), 参加者 36 名 ②<モルック体験会>体験会名「第 3 回モルックしてみいひん?」令和 5 年 11 月 4 日(土)10:00-12:00@聖泉大学グラウンド, 参加者 38 名 <モルック大会>大会名「第 4 回モルックしてみいひん?」令和 5 年 12 月 23 日(土)13:00-15:00@長浜バイオ大学ドーム テニスコート, 参加者 7 名 (天候による順延および当日雪のため) ③・④<慶応義塾大学湘南藤沢キャンパス福祉系サークル SFC-IFC との合同研修会>令和 6 年 2 月 21 日(水)13:00-17:00@近隣の貸会議室, 参加者 9 名 プロモーション動画: https://www.youtube.com/watch?v=lNwhsWHYol0
活動指標 (KPI) への貢献度	本事業は 2022 年度から継続してびわ湖東北部地域で実施おり, 今年度も上記の通り昨年度の引き続き出張モルック体験会 (5 回), 実施校でのモルック体験会開催, 参加校でのモルック大会開催を実施でき, 本事業の活動を知った施設から出張モルック体験会の依頼が増えてきたことにより活動指標 (KPI) も達成できた。今後も地域の NPO や福祉系施設などのすでに実績のある施設のニーズを柔軟取り入れながら実施を継続したい。

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	安心安全なまちづくりや地域活性化と交流を促進するために、プラットフォームが連携し、学生の地域活動の推進、多様な交流イベント等を実施する。
活動指標 (KPI)	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	10, 11
取組事業 No.	B-3 やさしい日本語普及活動
具体的な活動 (実施報告)	①商工会議所と連携し、「事業者向けやさしい日本語セミナー」を実施。福祉、教育、観光、製造、接客業などの企業・事業者に参加いただいた。(10/22) ②留学生や外国人市民に協力いただき、「やさしい日本語ハロウィンスタンプラリー」を実施。さざなみタウンで開催された「まちなかフェスタ」のイベントの一つとして主に子どもを対象に開催した。外国人市民にはハロウィンの仮装をしてもらい、子どもたちとやさしい日本語で交流してもらった。(10/29) ③自治体国際化協会主催多文化共生体験塾（視察研修）への参加。長浜市担当者が研修に参加し、全国から集まった多文化共生関係の参加者との意見交換や、富山県内の多文化共生について視察を行った。(11/9, 10) ④日本人と外国人の交流を目的に「やさしい日本語でまち歩き（竹生島編）」を実施。日本人参加者にははじめにやさしい日本語について学んでもらい、その後、外国人参加者と合流。フェリーで竹生島へ向かい、竹生島をやさしい日本語で外国人参加者に案内してもらった。(11/23) ⑤長浜市役所職員を対象にした「やさしい日本語職員研修」を実施。令和 5 年度採用職員と希望者を対象にやさしい日本語研修を実施し、行政文書のやさしい日本語への書き換えワークを行った。(1/19)
実績 (成果)	参加者数：①18 名 ②130 名以上 ④日本人 17 名、外国人 12 名 ⑤33 名 ①④の参加者へアンケートを行った結果、「やさしい日本語を今後使って

	いきたいと思った」との回答が 100%（日本人参加者）、長浜市多文化共生ボランティアへの登録にも繋がった。（長浜市多文化共生ボランティア登録者数：51 人）
活動指標（KPI）への貢献度	本事業は上記活動指標（KPI）に貢献し、地域におけるやさしい日本語の普及を目的に、2021 年度から継続してびわ湖東北部地域で実施しています。 2023 年度は実施事業中、2 事業にプラットフォーム大学の留学生が参加しています。特に、②スタンプラリーでは、運営側として留学生に関わってもらい、より効果の高い取組を行うことができました。 継続を重ねるごとに事業への参加者が増加の傾向にあり、参加者アンケートからもびわ湖東北部地域での多文化共生のまちづくりに寄与していることがわかります。また、やさしい日本語を活用した日本人と外国人の交流イベントも実施し、日本人と外国人の相互理解、孤立しがちな外国人の社会参加にも繋がりました。 今後も日本人住民に多文化の理解を促し、やさしい日本語を地域で使うことにより、外国人住民が自立した社会生活を送れることをめざし、活動を継続していきたいと考えています。

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 4 ネットワーク推進事業
取組事業概要	地域課題に取り組む人々への愛着が増すよう、団体間の交流促進や意見交換の場を設け、よりよい連携を推進する。
活動指標 (KPI)	地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年 2 回以上開催し、活動の満足度等を測定する。
対応 SDGs 番号	8, 11
取組事業 No.	B-3-4-⑤ 若者ならではの地域の魅力発信事業
具体的な活動 (実施報告)	滋賀文教短期大学と合同会社 LOCO が中心となり、虎姫高校、長浜北高校、彦根東高校、彦根総合高校、伊吹高校に通学する高校生と、地域の魅力や興味、普段の生活、進学や就職に向けた不安や知りたいことをテーマに座談会を行った。
実績 (成果)	びわ湖東北部に位置する高校の生徒が、地域にどういった魅力を感じ、進学や就職に対しどういった不安があり、どのような情報を欲しているかを気軽な対話を通して把握することができた。 将来的な滋賀県内での就労意向は低いものの暮らしやすさは感じており、また、地域内の企業の認知度の低さが就労意向の低さにつながっていることが改めて浮き彫りとなった。 座談会の中から単なる動画の作成・発信ではなく、instagram を活用した若者による若者を対象としたメディア運営の提案があったことから、「しがきた teens 編集部」を立ち上げた。継続的にびわ湖東北部の暮らしを発信することで、意外な魅力や地域への愛着を醸成していく土壌を作ることができている。 メディアについては今年度中に実施。次年度以降も合同会社 LOCO が中心となり、若者と協働し運営を継続していく。 また、進学校ほど高校卒業と同時に地域外へ転出する可能性が高いことから、地域内の大学生と高校生が交流し、継続的なつながりをつくる有効性が感じられた。
活動指標 (KPI) への貢献度	本事業は 2023 年度から、地域への愛着を増し、地域課題に取り組む若者の増加を目的に実施した。3 市の区域を超えて高校生巻き込む活動は過

	去にそれほど実績がなく、一方的な情報発信よりも双方の対話によるメディア運営は今後の大学や企業とのつながりづくりに寄与する期待がもてる。今後も学生や生徒に響く情報発信を継続したい。
--	--

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 4 ネットワーク推進事業
取組事業概要	地域課題に取り組む活動を行う住民・大学生・大学教職員・自治体職員・産業界の人的ネットワークを整備すると共に、各活動団体の定期的な交流会を開くことにより、地域への愛着を持った地域を担う人材を育成する。
活動指標 (KPI)	地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年 2 回以上開催し、活動の満足度等を測定する。
対応 SDGs 番号	17
取組事業 No.	B-4 ①キャンパス SDGs 大会
具体的な活動 (実施報告)	2023 年 11 月 18 日(土)から 23 日(木・祝)を「SDGs week」として様々なびわ湖東北部地域連携協議会に参画する大学の学生が企画・実施した。 ○海外での取組報告(11 月 18 日) 米国のコロンビアカレッジの教員による取組事例の報告会をオンラインで実施した。報告後の質疑応答の際は、留学中の大学生が通訳を行った。 ○SDGs Action 報告会(11 月 18 日) SDGs や CO2 削減をテーマに活動している団体による活動報告会を実施。びわ湖湖岸や湖底の清掃活動を行う団体や子ども食堂の運営を行う団体など県内外の 8 団体による報告のあと、フリートーク形式で意見交換を行った。 ○創造的な学びについて考えるワークショップ(11 月 18 日) 創造的な学びに関するパターン・ランゲージカードを用いて、「創造的な学びを進めるためには」をテーマに、学生のみならず社会人や地域の方も交えながら話し合いを行った。 ○GINZA CHAIRING CAFE(11 月 20 日) 彦根市の銀座商店街の空きスペースに椅子を置いて座る「チェアリング」を実施。商店街の方や地域の人と普段とは異なる視点でまちを見ながら、まちの将来や可能性を話し合うイベントを実施。 ○県大 TAKIBI TALK(11 月 22 日)

	焚き火を囲み、ゆったりした雰囲気の中で対話や交流を楽しんでもらう企画を実施。キャンパス SDGs のテーマである「持続可能な Well-being のための対話と交流」も意識しながら自由なテーマで交流を行った。燃料となる薪は、琵琶湖の湖岸で流木を拾い集めて、適当な長さに切りそろえた。 ○ジェンダーを考えるボードゲーム体験会（11 月 22 日） 学生が制作したジェンダーに関するボードゲームの体験会を実施。ゲームを楽しみながら参加者で会話し、ジェンダーについて理解を深めた。
実績（成果）	地域活動の活性化や人的ネットワークの交流促進につなげるため、対面を中心とするキャンパス SDGs を開催した。「SDGs week」として開催期間を約 1 週間にすることで、地域課題に取り組む活動を行う住民・大学生・大学教職員・自治体職員・産業界の参加者が会場に足を運ぶ機会を増やした。 「県大 TAKIBI TALK」では、県立大学・滋賀大学・バイオ大学の学生に加え海外からの留学生や地域の方、社会人も参加し・交流することができ、多様な人的ネットワークを構築することができた。 また、対面による意見交換やトークセッションを行うことで、参加者や参加団体が新たなネットワークを構築するとともに、SDGs の達成に向けた活動の活性化に貢献した。
活動指標（KPI）への貢献度	キャンパス SDGs の期間中（11 月 18 日～23 日）に 6 回の交流会を実施し、活動指標（KPI）の達成に貢献した。 来年度の開催については、びわ湖東北部地域連携協議会の参画機関や大学同士の交流を増やし、地域活性化につながる開催について検討しつつ実施していきたい。

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業																		
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実																		
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)																		
取組事業名	取組 4 ネットワーク推進事業																		
取組事業概要	地域課題に取り組む人々への愛着が増すよう、団体間の交流促進や意見交換の場を設け、よりよい連携を推進する。																		
活動指標 (KPI)	地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年 2 回以上開催し、活動の満足度等を測定する。																		
対応 SDGs 番号	17																		
取組事業 No.	B-4 市民活動団体交流プロジェクト																		
具体的な活動 (実施報告)	○活動を知ろう！ 米原市、彦根市、長浜市が連携し、市民活動団体等（52 事業）の活動内容を掲載したパネルの巡回展示「つくる未来展」を行うとともにオンラインサイト「note」で情報発信を行った。 ○活動の幅を広げよう！ 各会場で基調講演や事例発表等の独自のイベントを開催するとともに、その様子を YouTube で配信した。 ○交流を深めよう！ 各会場で意見交換会やワークショップ等を開催するとともに、各パネルに付箋でメッセージを残すことで、団体同士の交流を深めた。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>展示場所</th><th>展示日</th><th>交流イベント</th><th>来場者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>米原市役所コンベンションホール</td><td>令和 5 年 9 月 16 日（土）～ 18 日（祝月）</td><td>まちづくり人財 ノ森集会（9 月 18 日）</td><td>348 人 （3 日間合計）</td></tr> <tr> <td>アル・プラザ彦根 4 階「みんなの広場」</td><td>令和 6 年 2 月 2 日（金）～4 日 （日）</td><td>こども哲学対話 （2 月 4 日）</td><td>こども哲学対話 参加者 30 人</td></tr> <tr> <td>さざなみタウン （ながはま文化 福祉プラザ）</td><td>令和 6 年 2 月 23 日（祝金） ～25 日（日）</td><td>みんなでつなが る広場（2 月 25 日） 編みものワーク ショップ（12</td><td>つながる広場参 加者 55 人 編みものアート 参加者 100 人</td></tr> </tbody> </table>			展示場所	展示日	交流イベント	来場者数	米原市役所コンベンションホール	令和 5 年 9 月 16 日（土）～ 18 日（祝月）	まちづくり人財 ノ森集会（9 月 18 日）	348 人 （3 日間合計）	アル・プラザ彦根 4 階「みんなの広場」	令和 6 年 2 月 2 日（金）～4 日 （日）	こども哲学対話 （2 月 4 日）	こども哲学対話 参加者 30 人	さざなみタウン （ながはま文化 福祉プラザ）	令和 6 年 2 月 23 日（祝金） ～25 日（日）	みんなでつなが る広場（2 月 25 日） 編みものワーク ショップ（12	つながる広場参 加者 55 人 編みものアート 参加者 100 人
展示場所	展示日	交流イベント	来場者数																
米原市役所コンベンションホール	令和 5 年 9 月 16 日（土）～ 18 日（祝月）	まちづくり人財 ノ森集会（9 月 18 日）	348 人 （3 日間合計）																
アル・プラザ彦根 4 階「みんなの広場」	令和 6 年 2 月 2 日（金）～4 日 （日）	こども哲学対話 （2 月 4 日）	こども哲学対話 参加者 30 人																
さざなみタウン （ながはま文化 福祉プラザ）	令和 6 年 2 月 23 日（祝金） ～25 日（日）	みんなでつなが る広場（2 月 25 日） 編みものワーク ショップ（12	つながる広場参 加者 55 人 編みものアート 参加者 100 人																

			月 7 日、1 月 10 日) 編みものつなぎ ワークショップ (1 月 25 日、 2 月 1 日) 木に飾りつけワ ークショップ (2 月 3 日)	
実績 (成果)	○米原市、彦根市、長浜市が連携することで、市域を越えた交流を創出することができた。 ○パネル展示会やオンラインでの配信を行った結果、多数の来場や視聴があり、市民活動団体の活動を知っていただくきっかけづくりを行うことができた。 ○各会場で、独自の交流イベントを企画することで、市民活動団体の活動の幅を広げるとともに、団体同士の交流を深めるきっかけづくりを行うことができた。特に本年度は、会場ごとに当該自治体や関係団体を中心とした交流イベントの企画運営が顕著になり、プロジェクトへの主体的な参画の姿勢が感じられた。 ○昨年の「つくる未来展」の開催後も、各出展団体の主催イベントや別の交流イベントで、本事業で作成したパネルを活用して継続的に活動紹介を行っている様子も見かけられ、本事業が地域に定着し始めている。			
活動指標 (KPI) への貢献度	地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を 3 回開催することができた (予定)。 今後も市民活動団体が交流できる場の創出を継続したい。			

③ 総評

ワーキンググループ B の達成目標である「地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比で 140 %増加させる」について、本年度は、活動件数 48 件（2022 年度 59 件、2021 年度 55 件、2020 年度 31 件、2019 年度 33 件、2018 年度 20 件）となり、2018 年度比 140%増であった。活動参加者数 3,203 名（2022 年度 3,807 名、2021 年度 7,483 名、2020 年度 1,230 名、2019 年度 2,269 名、2018 年度 631 名）となり、2018 年度比 408%増となった。

「生涯学習拠点整備事業（市民教養講座）」を前年度の引き続き対面型開催を優先したことにより、オンデマンド配信を行った 2021 年度に比して大きく減少しているが、前年度に近い受講者数となった。『もっと多くの人に知ってもらえるような広報の工夫をするべき』の声は、他の事業実施後に行ったアンケートにも多く寄せられた意見であり、広報の見直し・強化が引き続き大きな課題となった。

地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数

年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023
件数	20	33	31	55	77	48
(2018 比)	-	65%増	55%増	175%増	285%増	140%増
参加者数	631	2,269	1,230	7,483	3,545	3,203
(2018 比)	-	260%増	95%増	1,086%増	462%増	408%増

もうひとつの達成目標である「地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する」については、例年「SDGs でつながる学生の地域連携プロジェクト」に取り組んだ学生に調査し測定していたが、本年度はアンケート依頼が遅くなったことが原因で測定できるまでの回答数が集まらなかった。次年度はアンケート依頼の早期実施と回答の徹底が課題となった。

地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度

年度	2018		2019		2020		2021		2022		2023	
出身地	県内	県外	県内	県外	県内	県外	県内	県外	県内	県外	県内	県外
回答者数	-		37		33		43		36		計測不可	
とても愛着を持った	-	-	68%	50%	19%	12%	32%	33%	55%	43%		
やや愛着をもった	-	-	32%	50%	63%	70%	58%	42%	45%	50%		
あまり愛着を持たなかった	-	-	0	0	12%	18%	10%	25%	0%	7%		
愛着を持たなかった	-	-	0	0	6%	0%	0%	0%	0%	0%		

本年度の「地域コミュニティの活性化事業」における活動指標（KPI）の達成状況および具体的な内容は次のとおりである。

【取組 1】生涯学習支援事業は、地域住民向けの公開講座を毎年 10 講座以上開講する。活

動指標(KPI)について、本年度は、教養コース1事業10講座と専門コース3事業12講座の合計22講座を開講し、参加者は対面662名(前年度対面695名・オンデマンド視聴79名)であった。本年度は、対面での開催を優先し、動画(オンデマンド)配信は行わず、全体の受講者数は微減となったが、活動指標としては達成することができた。

【取組2】地域住民に向けた健康増進支援事業は、最終年度以降も持続可能な地域住民向けの健康イベントを5件以上定着させる。活動指標(KPI)について、本年度は、2事業7件の取組み(中高年の健康増進ウォーキング4件・光と色でつながるびわ湖東北部地域の健康づくり3件)を実施し、目標を達成することができた。「中高年の健康増進ウォーキング」では、自治体等(長浜市・米原市・彦根市観光協会)と協働で行ったもの、また、大学の教育研究をベースとして実施したもの等、多様なウォーキングイベントを企画し、11月から12月にかけて4件全てを対面で実施し参加者は104名であった。「光と色でつながるびわ湖東北部地域の健康づくり」では、3つの取組みをとおして108名の参加があった。前年度に引き続き実施会場が一の大学においてのみとなったことから、域内3市への分散実施が課題となった。

【取組3】国際交流促進事業・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業は、産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年5件以上実施する。活動指標(KPI)について、本年度は、12事業27件(「災害に強いまちづくりプロジェクト」1事業4件、「自然と歴史とくらしを次代につなぐプロジェクト」3事業4件、「地域課題解決に取り組む学生プロジェクト」3事業8件、「まちの魅力発信プロジェクト」5事業11件)の活動を行い、目標を達成することができた。「災害に強いまちづくりプロジェクト」では、前年度に引き続き、防災士養成講座を開催し、4名の学生を含む協議会機関推薦者46名が受講した。「地域課題解決に取り組む学生プロジェクト」のうち、「SDGsでつながる学生の地域連携活動推進事業」については前年度比マイナス4件となっており、達成目標のひとつである「地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度65%以上を達成する。(2023年度評価)」をクリアするためにも主要な位置づけにある事業であり、学生の積極的な取組みが推進されるよう支援の在り方を検討したい。

【取組4】ネットワーク推進事業は、地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年2回以上開催し、活動の満足度等を測定する。活動指標(KPI)については、「キャンパスSDGsびわ湖大会」、「市民活動団体交流プロジェクト」を実施し、目標を達成することができた。「キャンパスSDGsびわ湖大会」には6件の取組み、「市民活動団体交流プロジェクト」3件の取組みを実施したところ、地域課題に取り組む活動を行う住民・大学生・教職員・自治体職員・産業界などから多くの参加者があり、意見、情報の交換が積極的に行われた。

WG-B事業は、私立大学等改革総合支援事業タイプ3(プラットフォーム型)として、文部科学省の事業としてスタートし、連携機関それぞれの得意分野を受け持ち、効果的な事業の推進や継続について検討と実践を重ねてきた。既にKGIやKPIは、概ね達成しているこ

ともあり、数値目標だけでなく、地域の実情や社会の変化に対応しながら事業内容の改善や質の向上に努めたい。さらに WG-C（地域を知る・学ぶ）、WG-B（地域で活動する）、WG-A（地域で暮らす・働く）が、らせん状に繋がるしくみづくりと、次年度は成果にこだわり取り組みが自立して継続されるよう、ブラッシュアップをしていきたい。

（３）ワーキンググループＣ

① 活動概要

ワーキンググループＣは「地域を担う次世代人材の育成」を担当しており、６つの取組事業「SDGs をテーマにした共同講義事業」、「単位互換事業」「幼、小、中、高校生への学習支援事業」、「地域内進学促進事業」、「地域人材活性化支援事業」、「共同 FD・SD 事業」を通してびわ湖東北部地域における魅力的な人材の育成の実現を目指している。そのために、評価年度である最終年度（2023 年度）の前年までに２つの最終目標を達成することを掲げた。

【ワーキンググループＣの達成目標（KGI）】

- ・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。（2023 年度評価）
- ・彦根・長浜連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加（2023 年度評価）

本年度は、上の 6 つの取組事業に対して以下の活動指標（KPI）をそれぞれ定め、事業に取り組んできた。

【ワーキンググループＣの年度の活動指標（KPI）】

【取組１】「SDGs をテーマにした共同講義事業」における活動指標（KPI）

SDGs をテーマにした共通科目を 1 科目以上開発する。

【取組２】単位互換事業（KPI）

単位互換科目受講生を最終年度までに 2018 年度比で 30 名以上増加させる。

【取組３】幼、小、中、高校生への学習支援事業（KPI）

幼小中高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。

【取組４】地域内進学促進事業（KPI）

プラットフォーム事業参加校合同で高生向けの大学説明会を年 1 回以上開催する。

【取組５】地域人材活性化支援事業（KPI）

社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。

【取組６】共同 FD・SD 事業（KPI）

共同 FD・SD 研修を年 1 回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。

ワーキンググループＣにおいては「地域を担う次世代人材の育成」を目標に様々な事業に取り組んだ。

【取組１】SDGs をテーマにした共同講義事業

本協議会における大テーマである「SDGs を活用した豊かに働き生活できるびわ湖東北部地域の創出」の「SDGs」の知識や意識づけをすることを念頭に、事業の運営・構成に努めた。特に、令和 2 年度に開発した SDGs の理解や本協議会の位置する湖北地域と SDGs を関連させた講義を毎年度実施し、年々履修登録者も増加している。グループワークでは積極的な意見交換がなされ、各回充実した授業となった。併せて SDGs の単位互換科目において

は、近江のくらしとなりわいの現場における様々な営みを事例として、SDGs 達成に取り組む県内企業や SDGs 推進に関わる外部講師を招いた講義を提供し、持続可能な共生社会の実現に必要な知見を導き出すことが出来た。

【取組 2】単位互換事業

単位互換事業においては、環びわ湖大学・地域コンソーシアムの枠組みを利用して、滋賀県が持つ独自の風土や歴史文化および地域の個性を生かした地域づくりに関する取り組みや実践についての科目の開講を支援した。受講者は 33 名となり、滋賀県や琵琶湖を題材にしたグループワークやフィールドワークを通じて学生同士の交流もあり、それぞれの立場から地域の歴史文化について学ぶ機会となった。

【取組 3】幼、小、中、高校生への学習支援事業

年々減少傾向にある中学生、高校生、大学生世代の読書量・図書館利用の増進のために、連携大学の学生と協働で、図書館を活用した読書を促す機会を創出する事業や、教員や教材、図書資料等の本学の教育資源を活用し、子育て世代及び、子どもの読書にかかわる人たちに向けた、子育て支援・子どもの読書支援事業、本を紹介する POP または本の帯を募集するコンクールを行った。

びわ湖東北部地域にある小学校で、小編成のオーケストラコンサートを実施し、普段なかなかコンサートホールに出向くことが難しい学校の子どもたちに質の高い音楽教育プログラムを提供した。

また、不登校や引きこもりの現状や背景を理解し、自分たちの今後の学びや進路について改めて考える事業、中学校運動部活動の外部・地域移行に向けた現状、諸課題の共有を行う事業、統計データやプログラミングに親しみながら SDGs や MLGs について学ぶこと中心としたワークショップの開催、参加者全員作品を執筆し、電子書籍の形にする事業、それぞれの実施の支援を行った。

【取組 4】地域内進学促進事業

地域活性化のために、若者世代の地域外流出の一つの方策として、地域内進学の促進を目指す事業として、びわ湖東北部地域合同大学説明会を 4 回実施した。びわ湖東北部地域連携協議会に参画する 5 大学の説明会ブースを「びわ湖東北部地域連携協議会」の枠組みで設け、各大学の担当者がそれぞれの大学の枠組みにとらわれることなく、それぞれの学部学科等の分野の説明を高校生等に行い、びわ湖東北部地域への進学を促した。

【取組 5】地域人材活性化支援事業

地域人材の活性化支援のために、びわ湖東北部地域の学生、教職員、小中学校や企業関係者、地域活動の実践者等を対象に本協議会の大テーマである「SDGs」の普及や実践促進の支援を行った。

小中学校の ICT 教育推進に向け、高度な技術と見識かつ中長期的なビジョンを持って推進できる教員の育成のための講座、地域の保育・教育者人材の育成のため、小児と乳児、および成人のための CPR（心肺蘇生法）、AED（自動体外式除細動）とその他の応急手当（ファ

ーストエイド))」を学ぶ事業をそれぞれ実施した。

びわ湖東北部地域保健医療福祉の人材育成事業支援、ジェンダー平等ユースリーダー育成事業、びわ湖東北部地域に関連する看護職者の看護の質の向上を目指す事業、それぞれの支援を行い地域人材の育成に努めた。

【取組6】共同FD・SD事業

大学設置基準において義務化されたSDや、また各大学で取り組んできたFDを、それぞれの大学の枠を超えて、プラットフォーム参画機関在籍の教職員を対象として実施し、プラットフォーム参加校の教育の質向上を図るための機会となった。併せて、地域を担う次世代人材の育成に向けた共同IR事業を引続き支援し、2020年度から蓄積してきた調査データをまとめ、大学教育と人材育成・就業の関係性に一定の解答を得ることを目指した。また、若者の地域定着に必要なことや、ベンチマークとなる要素の探索プロセスと同時に、本事業に関わるメンバーが大学IRに関する専門性を高め、質向上を図るための機会の側面を持ち合わせることで、教育改善・研究活動等を促進し、次世代を担う人材育成に寄与することも目指した。

各事業において、SDGsの開発目標を意識し各開発目標に紐づけし、豊かに働き生活できるびわ湖東北部地域の創出に寄与することが出来るように事業展開を図った。それぞれの事業においては地域を担う次世代人材の育成を念頭に、与えられた課題に真摯に取り組み、地域の活性化につながるような結果を得ることが出来ている。

② 具体的な取組状況・成果・課題

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成								
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保								
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加 (2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。(2023 年度評価)								
取組事業名	取組 1 (SDGs をテーマにした共同講義事業) (単位互換事業)								
取組事業概要	SDGs や地域課題をテーマにした共通科目の企画・実施及び環びわ湖大学・地域コンソーシアムの枠組みを利用した大学生向けの教育環境の充実を図る。								
活動指標 (KPI)	SDGs をテーマにした共通科目を 1 科目以上開発する。								
対応 SDGs 番号	1～17								
取組事業 No.	C-1-1 近江での SDGs の実践								
具体的な活動 (実施報告)	SDGs や地域課題をテーマとし、協議会加盟大学から講師を派遣し滋賀県内の大学生の教育環境の充実を図るための共同科目として「近江での SDGs の実践」を開講した。 【開 講】…後期 (秋学期) 集中 (10 月～12 月) 【単位数】…2 単位 【対 象】…びわ湖東北部地域連携協議会加盟の大学生および環びわ湖大学・大学地域コンソーシアム加盟の大学生 【受講登録者】…59 名 (1 年 35 名、2 年 15 名、3 年 6 名、4 年 3 名) 大学内訳：長浜バイオ大 57 名、滋賀大 1 名、聖泉大 1 名 【講義概要等】…全 4 回 ・第 1 回：10/15 (日) ○担 当…長浜バイオ大学 蔡先生、重岡先生、坂井先生 ゲストスピーカー： <table border="0"> <tr> <td>滋賀県企画調整課</td><td>上坂様</td></tr> <tr> <td>滋賀県琵琶湖環境部</td><td>三和様</td></tr> <tr> <td>長浜市農業振興課</td><td>橘 様</td></tr> <tr> <td>滋賀県自然環境保全課</td><td>清水様</td></tr> </table> ○会 場…長浜カイコー (駅まち)、竹生島、学習船 megumi ○受講者…54 名 ○内 容…SDGs とは何か、SDGs と滋賀県の施策、琵琶湖版 SDGs／	滋賀県企画調整課	上坂様	滋賀県琵琶湖環境部	三和様	長浜市農業振興課	橘 様	滋賀県自然環境保全課	清水様
滋賀県企画調整課	上坂様								
滋賀県琵琶湖環境部	三和様								
長浜市農業振興課	橘 様								
滋賀県自然環境保全課	清水様								

	MLGs について、竹生島のカワウについて、竹生島フィールドワーク、グループワーク ・第2回：11/18（土） ○担 当…滋賀大学 吉川先生 滋賀文教短期大学 三岳先生 ○会 場…長浜バイオ大学 ALR1・2・3 ○受講者…49 名 ○内 容…SDGs の 5 つの P（Prosperity）（滋賀大学） 実践事例の紹介、SDGs の背景について、グループワーク SDGs の 5 つの P（People）（滋賀文教短期大学） 平和と公正をすべての人に、パートナーシップで目標を達成しよう、グループワーク ・第3回：12/2（土） ○担 当…滋賀県立大学 上田先生・谷口先生 聖泉大学 富川先生、後藤先生 ○会 場…長浜バイオ大学 ALR1・2・3 ○受講者…46 名 ○内 容…SDGs の 5 つの P（Planet）（滋賀県立大学） 2030 年を自分たちの手でどんな社会にするのか、SDGs と地域社会、グループワーク:SDGs まわしよみ新聞 SDGs の 5 つの P（Peace・Partnership）（聖泉大学） 暴力・虐待の問題、差別・偏見の問題、グループワーク ・第4回：12/9（土） ○担 当…長浜バイオ大学 蔡先生、重岡先生、坂井先生 ○会 場…長浜バイオ大学 ALR1・2・3 ○受講者…51 名 ○内 容…まとめ（グループワーク）・発表、アンケート
実績（成果）	履修登録者はこれまでに最も多い 59 名（昨年 25 名、一昨年 19 名）となった。履修登録者の所属大学に偏りがあったが、グループワークでは積極的な意見交換がなされ、各回充実した授業となった。 受講者アンケートでは、 ・人の意見を聞いて自分の見解を広げることができたり、自分の意見を伝える練習になったりして自分の成長を感じることができるのでとても有意義だった。この授業で初めて知ったことがたくさんあり、多くのことを学べたのでよかった。 ・意見の交流が積極的にできてより良い学習に繋がると思う。 ・さまざまな大学の講師が授業に来てくれたため、バイオ以外の観点からも物事を見る力が備わったと思うので、次年度以降も他大学から講師を迎え入れることはぜひ継続して頂きたいです。

	等があげられ、本協議会に加盟する大学・短期大学が講師派遣等で協力し実施した共通科目として満足度の高い授業が提供できた。 一方、 ・一度の講義の時間が長いので最後まで集中することが難しい。また、SDGs には意見がまとまりにくく、難しい内容も多いので講義の最後の方はうまく整理ができない。なので、講義回数を増やして一度の講義の時間を短くする方が良いと思う。グループメンバーを講義ごとに換え、より多くの人と意見交換できるようにすれば良いと思う。 と言った意見もあり、改善に向けた方策を検討する必要がある。
活動指標（KPI）への貢献度	2021 年度に開講し 3 年目を迎えた本事業は、上記活動指標（KPI）を達成することができた。受講者アンケートからも、満足度が高い授業であることが伺え、大学生向けの教育環境の充実を図ることができたと考えている。 課題として、受講者の所属大学に偏りがあり、本協議会加盟大学の学生および環びわこ大学コンソーシアム加盟大学の学生が受講できるよう開講時期や告知方法等について検討して行く必要がある。

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加 (2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 1 (SDGs をテーマにした共同講義事業) (単位互換事業)
取組事業概要	SDGs や地域課題をテーマにした共通科目の企画・実施及び環びわ湖大学・地域コンソーシアムの枠組みを利用した大学生向けの教育環境の充実を図る。
活動指標 (KPI)	SDGs をテーマにした共通科目を 1 科目以上開発する。
対応 SDGs 番号	4, 11
取組事業 No.	C-1-2 SDGs 単位互換科目
具体的な活動 (実施報告)	・単位互換科目として、SDGs に係る県内の学生の理解を深め、行動を促進することを目的に「SDGs と滋賀のグローバル・イノベーション近江のくらしとなりわい」を開講した。 ・SDGs 達成に取り組む県内企業や SDGs 推進に関わる外部講師を招いた講義を提供し、びわ湖東北部地域の学生が参加しやすいように夏季集中講義として実施した。 1. 実施期間：令和 5 年 8 月 18 日（金）～20 日（日）（夏期集中科目） 2. 受講者：29 名（立命館大学、滋賀県立大学） 3. 担当教員：上田洋平（滋賀県立大学特任講師）
実績（成果）	・びわ湖東北部地域連携協議会と環びわ湖大学・地域コンソーシアムの単位互換科目として講義を提供し、立命館大学から 2 名の参加者があった。 ・近江のくらしとなりわいの現場における様々な営みを事例として、持続可能な共生社会の実現に必要な知見を導き出すとともに、ローカルな現場およびグローバルな現場の実践・課題が互いにどのようにかかわっているのか、また、その関わりによって、どんな未来が実現できるかについてゲストと共に議論を行った。
活動指標 (KPI) への貢献度	SDGs をテーマにした講義を開講し、2023 年度実績は受講者 29 名と活動指標 (KPI) の達成に貢献している。次年度もびわ湖東北部地域連携協議会の単位互換科目として開催することとしたい。

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加 (2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (単位互換事業)
取組事業概要	SDGs や地域課題をテーマにした共通科目の企画・実施及び環びわ湖大学・地域コンソーシアムの枠組みを利用した大学生向けの教育環境の充実を図る。
活動指標 (KPI)	・単位互換科目受講生を最終年度までに 2018 年度比で 30 名以上増加させる。
対応 SDGs 番号	4, 11
取組事業 No.	C-2-1 単位互換提供科目「滋賀論」の開講
具体的な活動 (実施報告)	・日程： 6 月 3 日 (土)、6 月 4 日 (日)、6 月 10 日 (土) ・場所： 聖泉大学・竹生島 ・担当教員： 森雄二郎 (聖泉大学人間学部) ・対象者： 聖泉大学および環びわ湖互換科目の履修学生 (34 名) ・内容： ※以下、シラバス抜粋 6/3①オリエンテーション、②滋賀県の概要、③④⑤滋賀県の歴史と文化 6/4①②③④⑤フィールドワーク (琵琶湖周遊) 6/10①②琵琶湖の環境と湖国文化、③④滋賀県の政策課題と取り組み、⑤まとめ
実績 (成果)	滋賀県や琵琶湖を題材にしたグループワークやフィールドワークを通じて学生同士の交流もあり、それぞれの立場から地域の歴史文化について学ぶ機会となった。 単位修得者・・・33 名【内訳】 聖泉大学 31 名、立命館大学 1 名、滋賀大学 1 名
活動指標 (KPI) への貢献度	本事業は大学生の教育環境の充実を目的に、2021 年度から継続してびわ湖東北部地域で実施しています。 単位修得者数は 2021 年度 41 名、2022 年度 36 名、2023 年度実績は 33 名と活動指標 (KPI) の達成に貢献している。受講者数は年々微減しているが、びわ湖東北部地域における SDGs や地域課題についての学生学びに寄与していることがわかる。今後は多様化する地域・学生のニーズを柔

	軟取り入れながら担当教員の確保に目途が立ちようであれば実施を継続したい。
--	---

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (幼・小・中・高校生への学習支援事業)
取組事業概要	・幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供(大学説明会)及び学習支援事業(大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等)を実施する。
活動指標 (KPI)	・幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。
対応 SDGs 番号	4 (質の高い教育をみんなに)
取組事業 No.	C-3-1 びわ湖東北部地域 文化・芸術推進プロジェクト ① 図書館を活用した地域の大学生世代の読書推進事業
具体的な活動 (実施報告)	年々減少傾向にある中学生、高校生、大学生世代の読書量・図書館利用の増進のために、連携大学の学生と協働で、図書館を活用した読書を促す機会を創出した。 展示「BOOK QUEST (ブック クエスト)」 2023 年 10 月 1 日～10 月 23 日 長浜市立長浜図書館 2023 年 10 月 30 日～11 月 30 日 米原市立近江図書館 展示「平成あのこと展」 2024 年 2 月 10 日～2 月 29 日 米原市立近江図書館 2024 年 3 月 1 日～3 月 31 日 長浜市立長浜図書館
実績(成果)	・参加型、巡回式の展示にするなど、長期にわたって本に親しむための工夫ができた。 ・長浜市と米原市内の中学校・高校・大学に、事業チラシと本のしおり、図書館の利用案内を配布し、図書館の認知度向上や来館につなげることができた。 ・地域の高校生が利用する様子を図書館ホームページなどで PR できた。

活動指標（KPI） への貢献度	本事業は、地域の若者世代への読書活動推進を目的に、2021 年度から連携大学の学生と協働で事業実施している。 継続して 3 年目となるが、学生が毎年新しい視点で内容の違う取組を提案し、図書館の資源を活かした PR の機会となっている。 今後は、長浜市・米原市の高校や大学と連携して、図書館に愛着を持ち利用につながる事業や広報の仕方を考えていきたい。
--------------------	---

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20 %増加。2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20 %以上の増加 2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (幼・小・中・高校生への学習支援事業
取組事業概要	・幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供 (大学説明会) 及び学習支援事業 (大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等) を実施する。
活動指標 (KPI)	・幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。
対応 SDGs 番号	11
取組事業 No.	C-3-1 びわ湖東北部地域 文化・芸術推進プロジェクト ② 子育て・子どもの読書支援
具体的な活動 (実施報告)	本学の学科構成を生かし、教員や教材、図書資料等の本学の教育資源を活用し、子育て世代及び、子どもの読書にかかわる人たちにに向けた、子育て支援・子どもの読書支援事業及び、発達心理についての理解を深める講演会を実施した。
実績 (成果)	連続講座「子どもをはぐくむ」の開催 ・講演会①「絵本を愉しむ-子どもの育ちとおとなのかかわり-」 講師：河野由子(湖南省子育てアドバイザー、湖南省生涯学習審議会委員) 開催日時：2024 年 3 月 3 日(日) 午後 2 時～4 時(質疑応答含む) 開催場所：滋賀文教短期大学 翠湖館 1 階 あすなろホール ・講演会②「幼児期・児童期の心理的特徴」 講師：西松秀樹(滋賀文教短期大学子ども学科准教授、公認心理師) 開催日時：2024 年 3 月 17 日(日) 午後 2 時～4 時(質疑応答含む) 開催場所：滋賀文教短期大学 松翠館 3 階 大講義室
活動指標 (KPI) への貢献度	講演会①については、本学が所蔵する絵本などの児童書、児童文学論などの資料を用いて、子どもの読書に関心はあるがどのようなかわり方をすればよいのか。また、そもそもとっかかりがわからないとい

	う方々に向けその手掛かりをもってもらうことができた。 また、これまでも子供の読書に関わりをもって活動をされてきた方々のスキルをアップすること、原点を見直すきっかけとしていただくことが、また、実演を豊富に入れることにより、それを実感として持っていたいただくことができた。 また、滋賀県の湖南地域を中心に実施されることが多い、子どもの読書関連の事業を湖北地域で開催することにより、時間や交通手段による制約等の理由でこれまで参加できなかった方々に参加してもらうことができた。 講演会②については、開催が年度末のあわただしい時期にはなかったが、本学の教員が講師となり、新年度の間近かということで、新年度に環境が変わる子どもを持った保護者や、その周辺の大人の方の関心を引くことができ、不安の解消に役立たせてもらうことができた。 ただ、受講について、小中高校生を拒むものではなかったが、結果的に、受講者は大人のみとなってしまう、直接小中高校生向けの学習支援とはならなかった。
--	--

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・ 地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加 （2023 年度評価） ・ びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。 （2023 年度評価）
取組事業名	取組 3（幼・小・中・高校生への学習支援事業）
取組事業概要	・ 幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供（大学説明会）及び学習支援事業（大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等）を実施する。
活動指標 （KPI）	・ 幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。
対応 SDGs 番号	4, 11
取組事業 No.	C-3-1 びわ湖東北部地域 文化・芸術推進プロジェクト ③ 本を紹介してみませんか 2023 ～POP・本の帯コンクール～
具体的な活動 （実施報告）	大学・専門学生、中学・高校生を中心とする若者世代の読書量は、減少傾向にあり、その読書活動を推進していくことが全国的にも課題とされている。この若者の読書活動推進は、地域の人材育成に大きく関わる課題であると考えられる。 その課題解決への方策の一つとして、自分が読んで面白いと思った本を紹介する POP または本の帯を募集するコンクールを実施する。コンクールに応募することで読書へのきっかけをつくり、さらに、コンクールに応募された作品を広く展示・周知することで、広く若者世代の読書への関心呼び起こすことを目的としている。 この取り組みは地域に定着してきており、応募数最多の年に近い多くの応募があった。全作品を展示することは困難であったため、本年度も応募全作品を掲載した冊子を作成して作品展示に替えるとともに、びわ湖東北部地域の中学校・高等学校・大学、また県内公共図書館にも配付した。さらに、長期間にわたり、広い範囲の地域での読書活動推進を目指すことを目的に、受賞作品を配したポスターカレンダーも作成して配付した。 【具体的な実施日程】 7 月中旬 ポスター、チラシ配付 （図書館、中学校、高等学校、大学 他） 7 月 18 日～9 月 18 日 作品募集

	10月11日 審査会 10月12日 結果発表 12月1日 全応募作品掲載冊子・ポスターカレンダー 配付 【作品展示日程】 滋賀文教短期大学 2023年10月16日～31日 米原市立山東図書館 2023年11月11日～26日 米原市立近江図書館 2023年12月2日～17日 長浜市立長浜図書館 2024年1月12日～2月10日 長浜市立浅井図書館 2024年1月12日～2月10日 彦根市立図書館 2024年2月24日～3月10日
実績（成果）	<u>応募総数 560点</u> 〔内訳〕 ●<u>POP 558点</u> 中学生 506点 高校生 31点 大学生 21点 ●<u>本の帯 2点</u> 中学生 1点 高校生 1点 本年度も長浜市、彦根市、米原市の図書館と連携して、作品募集・審査・展示を行うことができた。
活動指標（KPI）への貢献度	本事業は上記活動指標（KPI）を達成し、地域での読書活動推進を目的に、2017年度から長浜市とともに長浜地域で実施し、2019年度からはびわ湖東北部地域で実施している。 びわ湖東北部地域で実施をはじめた2019年度は、応募総数が71点（中学生16点・高校生15点・大学生32点・一般1点・本の帯7点）だったが、中学校26校・高校13校・特別支援学校3校・大学13大学に対して事業実施への参加を継続的に働きかけ、結果、2023年度実績は、中学校8校・高校5校・特別支援学校1校・大学2大学からの応募（参加）を得ることができ、応募総数560点（中学生506点・高校生31点・大学生21点・本の帯2点）で、活動指標の達成に貢献している。また、展示や全作品掲載冊子、受賞作品掲載カレンダーの反響についても声が寄せられている。なお、コンクールや冊子については、県外の機関からお問い合わせをいただいている。 応募については、中学校からの学校単位での応募が多いため、今後は不読率の高い高等学校・大学や一般の方の応募が増加するよう実施を継続したい。

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (幼・小・中・高校生への学習支援事業)
取組事業概要	・幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供(大学説明会)及び学習支援事業(大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等)を実施する。
活動指標 (KPI)	・幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	C-3-1 びわ湖東北部地域 文化・芸術推進プロジェクト ④ びわ湖東北部の学校へのオーケストラコンサート事業
具体的な活動 (実施報告)	びわ湖東北部地域にある小学校 2 校(彦根市立佐和山小学校、長浜市立長浜小学校)で、滋賀県初のプロのオーケストラ「近江シンフォニエッタ」による小編成のオーケストラコンサートを実施した。実施にあたっては、滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センター「おとさぼ」が、近江シンフォニエッタや滋賀県、彦根市、長浜市、それぞれの教育委員会と連携して、準備にあたった。 学校の選定方法であるが、滋賀県の文化芸術振興課と相談の上、びわ湖東北部地域で、滋賀県が小学 4 年生と特別支援学校の生徒を対象にびわ湖ホールで毎年実施される「ホールの子」事業にまだ一度も参加できていない学校に文書を送付し、その中から 2 校を選定した。2023 年 11 月 28 日に、上記 2 校の体育館でコンサートを実施した。クラシックの名曲から子どもたちに馴染みのある曲での楽器紹介など、演奏者によるお話し付きで、子どもたちや教職員からも好評であった。2 校で約 1,400 名にコンサートを届けた。普段なかなかコンサートホールに出向くことが難しい学校の子どもたちに質の高い音楽教育プログラムを提供することができた。
実績(成果)	びわ湖東北部地域の小学校 2 校に音楽教育的な内容を考慮したオーケストラコンサートを派遣し、1,400 名に音楽に触れる機会を届けた。

活動指標（KPI） への貢献度	小学生向けの学習支援活動（音楽）を2校で行い、約1,400名にオーケストラによる音楽教育プログラムを提供することができた。
--------------------	---

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加 (2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (幼・小・中・高校生への学習支援事業)
取組事業概要	・幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供 (大学説明会) 及び学習支援事業 (大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等) を実施する。
活動指標 (KPI)	・幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	C-3-2 びわ湖東北部地域 不登校児童・生徒プロジェクト ① 不登校・ひきこもりプロジェクト
具体的な活動 (実施報告)	不登校や引きこもりは、現代社会の深刻な課題であり、滋賀県でも、不登校の子どもたちを支援する取り組みや支援するフリースクールや団体が活動している。この事業では、哲学対話という手法を用いて、不登校の子どもたちや関係者の話を聞き、多様な教育や学びについて考えた。事業の目的は、不登校や引きこもりの現状や背景を理解し、自分たちの今後の学びや進路について改めて考えることであり、滋賀大学の学生 20 名が参加した。教育分野に関係のない学生にも、不登校について考える機会は必要だと考えたため、この事業を実施した。 事業の前半は、彦根市でフリースクール「てだのふあ」を運営している山下吉和さんをゲストスピーカーとして招き、話を聞く機会を設けた。その後、テーマから問いを考え、ゲストスピーカーと担当教員と学生で哲学対話という手法を使って対話を行った。哲学対話とは、自分の考えを自由に発言し、他者の考えを尊重しながら、対話を通して深めていく方法である。 事業の後半は、彦根市教育委員会から彦根市の不登校の現状を聞く機会を設けた。また、多様な教育について深めるために、子どもの学びの場を事業として実践している「andstep」の中井健太さんや、地域おこし協力隊として県内の高校でキャリア教育を実践している副島拓歩さん、和

	歌山でオルタナティブ教育を実践され、愛荘町で子どもと地域づくりを実践されている綿谷駒太郎さん、愛知県で「デモクラティックスクールまんじえ」を運営している今井恭子さんなどをゲストスピーカーとして招き、対話を行った。 また、教育委員会とも連携して滋賀大学内で不登校生徒のための居場所開設と不登校生徒の受け入れ要請に応える体制を整えた。なお、居場所情報サイト「ひこねの居場所」の運営による情報発信を行い、地域における不登校やひきこもりへの理解を深めた。
実績（成果）	参加者の中には、不登校経験のあるものや不登校について身近である学生は少なく、授業の最初の段階で、不登校やフリースクールについて学んだときに「不登校になるのは本来あるべきルールから外れているのではないか」や「フリースクールが充実していくと義務教育の学校が減ってしまうのではないか」、「自分が小学生のときにフリースクールの存在を知っていたらそっちを選んでいたかもしれない」などネガティブな意見や疑問が多く出た。 しかし、事業を進めるにつれて、不登校の子どもたちや関係者の話を聞いたり、対話をしたりすることで、不登校の理由や背景、多様な教育の価値や意義について理解を深める機会となった。対話のテーマとしては、教育や学び、自己実現や働き方、暮らし方などが多く、学生は、自分が今大学生になっていることへの満足感と、一方で諦めの感情などが入り混じった対話になることもあった。この事業を通して参加者は自分の考えを見直すきっかけとなった。また、不登校生徒の受け入れ体制の整備や居場所情報サイトによる情報発信により、不登校生徒の居場所提供を行うことができた。
活動指標（KPI）への貢献度	本事業は地域に住む参加者に不登校やひきこもりについて考えてもらうきっかけを与えると同時に、現在進行形で不登校状態となっている生徒の居場所をつくることに一役買っている。そのため、びわ湖東北部における学習支援活動を行うという上記活動指標(KPI)に貢献している。 不登校やひきこもりのテーマは、今後ますます、教育だけでなく、働き方や地域コミュニティの形にも及ぶ大きな社会的テーマになっていくことが予想される。引き続き不登校等に関心を寄せてもらう本事業のような活動が必要と考える。

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・ 地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加 (2023 年度評価) ・ びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (幼・小・中・高校生への学習支援事業)
取組事業概要	幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供 (大学説明会) 及び学習支援事業 (大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等) を実施する。
活動指標 (KPI)	幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	C-3-2 びわ湖東北部地域 不登校児童・生徒プロジェクト ② 中学校部活動地域移行支援人材育成講座 (実践編)
具体的な活動 (実施報告)	① 中学校部活動地域移行支援人材育成講座 (3 回シリーズ) i) 「生徒の発達段階に応じた科学的な指導」 大阪体育大学スポーツ科学部 小林博隆 准教授 令和 5 年 10 月 15 日 (日) 長浜まちづくりセンター会議室 ii) 「運動部活動時におけるスポーツ事故発生時の対応」 大阪体育大学スポーツ科学部 有吉晃平 准教授 令和 5 年 10 月 21 日 (土) 米原市役所会議室 iii) 「保護者への対応」 大阪体育大学スポーツ科学部 中尾豊喜 教授 令和 5 年 11 月 5 日 (日) 聖泉大学 ② 「運動部活動指導認定プログラム」受講サポート 概要) 大阪体育大学において開講される「運動部活動指導認定プログラム」を受講し、所定の講習を受講し修了した者に対し、10,000 円を上限に受講料支援を行う。
実績 (成果)	受講申込者数 ① 中学校部活動地域移行支援人材育成講座 (3 回シリーズ) i) 「生徒の発達段階に応じた科学的な指導」・・・4 名 ii) 「運動部活動時におけるスポーツ事故発生時の対応」・・・4 名 iii) 「保護者への対応」・・・6 名 ③ 「運動部活動指導認定プログラム」受講サポート・・・1 名 (受講中)

	アンケート結果より ・貴重な機会を与えてくださってありがとうございます。また、是非このような学びの場を設定してください。よろしくお願い致します。 ・継続して参加したいと思います。 ・受講者が少ないと思いますが、何か原因があるのでしょうか。既に民間移行が進んでいる中学・高校では、どれくらいの地域移行が進んでいるのか。 ・自分ができるかどうかはわからないが、大変興味深い話だった。もっと幅広い人にきいてほしい。 ・各市教育委員会など各市町への受講者参加の呼びかけの強化を図る必要があると思います。 ・今日のような安全性対策の研修は必要だと思いますので、指導者に義務付ける必要があると思います。
活動指標（KPI）への貢献度	本事業はニッチなテーマながら規模の大小を問わず多くの自治体（地域）で課題となっている「中学校部活動地域移行」について、地域住民にその理解と学習の機会を提供することを目的として2022年度から実施しており、受講者数は決して多くないものの参加者からは当該に類する講座の必要性を訴える声が届いている。 2022年度はオンライン配信により、県内外から61名の視聴を得た。2023年度14名の講座受講と1名のプログラム参加であった。 「部活動の地域移行」は、中学生の学習機会（部活動）を維持する重要な課題であり、行政と地域住民の協働は必須である。一人でも多くの地域住民が当該課題を正しく理解し必要な知見を修得することは、部活動の地域移行、強いては中学生の学習支援につながるものであるとの考えのもと、本講座を継続することにより引き続き地域貢献に努めていきたい。

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (幼・小・中・高校生への学習支援事業)
取組事業概要	・幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供(大学説明会)及び学習支援事業(大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等)を実施する。
活動指標 (KPI)	・幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	C-3-3 びわ湖東北部地域 ICT 教育推進プロジェクト ① 子ども統計プログラミング教室
具体的な活動 (実施報告)	令和 5 年 11 月 12 日に、長浜市の小学校 5～6 年生とその保護者 7 組を対象に「海の SDGs」をテーマに、統計データやプログラミングに親しみながら SDGs や MLGs について学ぶこと中心としたワークショップを長浜市のさざなみタウンで行った。 講師は、長年子ども向けプログラミング教室実施の実績を持つ事業者 に依頼し、講義内容の担保を図った。 また、長浜市と共催、長浜市教育委員会のご後援をいただいた。 【実施スケジュール】 9 月下旬 HP への記事掲載やチラシ配布等による広報及び受講者募集 10 月 24 日 受講者募集締切 11 月 12 日 子ども統計プログラミング教室開講
実績(成果)	当日は受講生 7 人、保護者 6 人が参加(すべて長浜市内小学校)。 <講師> 一般社団法人イエローピンプロジェクト 町田保 <共催> 長浜市 <後援> 長浜市教育委員会 【アンケート結果】 [受講生]

	今日の教室は楽しかったですか？ →とても楽しかった：4名　楽しかった：1名　普通だった：1名　無回答：1名 海のSDGsについて、学ぶことはできましたか？ →できた：5名　少しできた：2名 こういったプログラミングを教えてくれる教室がまたあれば、参加してみたいですか？ →また、参加してみたい：4名　参加するかもしれない：3名 [保護者] 今回の教室の内容は、いかがでしたか？ →大変満足：5名　満足：1名 参加者がプログラミングに興味を持つきっかけになったと思われますか？ →そう思う：5名　ややそう思う：1名 上記のとおり好評的な意見が多く、「また親子で学べる機会があれば嬉しいです。」などの声が寄せられた。
活動指標（KPI）への貢献度	本事業ではびわ湖東北部地域で子どもたちに学習支援活動を行うことを目的に、2020年度より継続して初心者向けプログラミング教室を実施している。 びわ湖東北部地域の会場を使用し、地域の小学生を対象に開講することで、上記活動指標（KPI）を達成することに貢献しており、参加アンケートからもびわ湖東北部地域の小学生への学習機会創出に寄与していることが分かる。

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加(2023 年度評価)
取組事業名	取組 3(幼・小・中・高校生への学習支援事業)
取組事業概要	・幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供(大学説明会)及び学習支援事業(大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等)を実施する。
活動指標 (KPI)	・幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	C-3-3 びわ湖東北部地域 ICT 教育推進プロジェクト ② お話を書いて電子書籍にしよう
具体的な活動 (実施報告)	【実施内容】全 3 回 場所：さざなみタウン会議室 (第 1 回：会議室 C 第 2・3 回：会議室 AB) ・第 1 回 8 月 19 日(土) 9 時 30 分～11 時 30 分 ショートショート作家の田丸雅智さんを講師に、まずは参加者の方にショートショート(短くて不思議なお話)を書いてもらった。この際の執筆活動はパソコンでも紙に手書きでも OK とした。パソコンは個人で持っていない場合は、大学のパソコンを貸し出しした。出来上がった作品はその場で一部紹介してもらうなどして共有をおこなった。会場となった長浜図書館では、図書館の方が関連本の展示を行ってくれた。 ・第 2 回 8 月 20 日(日) 10 時～12 時 前日の作品を、実際にパソコンを使って電子書籍に変換するという作業を行なった。午前中は初級編ということで、かんたんな変換方法を、(株) ボイジャーの方に来ていただき、レクチャーをしていただいた。電子書籍作成には同社の Romancer という無料のサービスを活用した。

	・第3回 8月20日（日）14時～16時 午後からは上級編ということで、第2回の応用編としてショートショート作成のコツや、電子書籍の表紙の作成などを行なった。表紙の作成にはWeb上の表紙作成サービスなどを活用した。また、2回目で完成しなかった方へのサポートも行なった。完成した作品は、クラウドに保管し、QRコードを使って共有した。 参加者：中高生、および大学生を含む16名だった。
実績（成果）	参加者全員が次作の作品を執筆し、電子書籍の形にすることができ、お互いの作品を共有することができた。 また、本講座に参加してくださっていた中学校の校長先生が、勤務校でショートショートの作成講座につなげてくださったことも一つの成果であった。
活動指標（KPI）への貢献度	教育現場に一人1台端末が導入されたことや、急速なICT社会の発展により子どもたちにとってICT活用はとても身近になっている。情報収集だけではなく、アウトプットの方法としてもさまざまな可能性を秘めている。本講座では、本を作る方法として、「電子書籍」を紹介できたことは意味があったのではないかと思う。実際に中学生への活動につながった。また、会場を図書館としたことで、今後継続した活動へとつながる可能性がある。

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・ 地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加 (2023 年度評価) ・ びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 4 (地域内進学促進事業)
取組事業概要	幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供 (大学説明会) 及び学習支援事業 (大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等) を実施する。
活動指標 (KPI)	プラットフォーム事業参加校合同で高校生向けの大学説明会を年 1 回以上開催する。
対応 SDGs 番号	8・11
取組事業 No.	C-4 びわ湖東北部地域合同大学説明会
具体的な活動 (実施報告)	コロナ禍の終息も見込まれることから、前年度まで実施していた動画での大学説明会から、対面での合同での大学説明会を実施する。 私立 3 大学が中心となり、参画 5 大学の広報担当者との協議を経て、年間 3 回程度、会場ガイダンスを「びわ湖東北部地域連携協議会」のブースを設け実施する。会場はびわ湖東北部地域、びわ湖東北部地域外でそれぞれ調整予定。 各々の会場ガイダンスにおいては説明担当者が自分の属する機関のみならず、参画大学すべての説明を参加者の求めに応じて行うこととする。参画大学すべての広報資料を持参することとする。
実績 (成果)	本年度後述の通り 4 回の合同大学説明会を実施した。特にびわ湖東北部地域への学生の流入を目指すために、近隣他府県へのガイダンスに参加した。各説明会においては、単体の大学での参加では無く、「びわ湖東北部地域連携協議会」と冠し、5 大学の説明を一つのブースで実施した。 【第 1 回合同大学説明会】 日 時：令和 5 年 6 月 14 日 (水) 16:00～18:00 場 所：多治見市産業文化センター (多治見市新町 1 丁目 23 番地) 担当者：滋賀文教短期大学、長浜バイオ大学、聖泉大学 【第 2 回合同大学説明会】 日 時：令和 5 年 9 月 21 日 (木) 16:00～18:00

	場 所：高月城公演芸術文化劇場 北館 (大阪府高槻市野見町 2-33) 担当者：長浜バイオ大学、聖泉大学 【第 3 回合同大学説明会】 日 時：令和 5 年 10 月 4 日（水）16：00～18：00 場 所：イオンモール KYOTO Sakura 館 (京都市南区西九条鳥居口町 1 番地) 担当者：滋賀文教短期大学、聖泉大学 【第 4 回合同大学説明会】 日 時：令和 5 年 10 月 25 日（水）16：00～18：00 場 所：市民プラザふくちやま (福知山市駅前町 400) 担当者：滋賀文教短期大学、長浜バイオ大学、聖泉大学
活動指標（KPI） への貢献度	各々の説明会では、3 大学の担当者がそれぞれの大学の枠に囚われず、協働して 5 大学の大学説明を参加者にする事が出来た。コロナ禍を経て協議会の当初の指標であった大学説明会を実施する事が出来て非常に有意義なものとなった。 特に「プラットフォーム事業参加校合同で高校生向けの大学説明会を年 1 回以上開催する。」の目標に対し、計 4 回の合同大学説明会を実施できた意義は大きいと考える。 改善点としては、やはり担当者レベルにおいて各々の大学の広報ポイント等をお互いに知り、また勉強していく必要があると感じられたため、より協働できるように、担当者の研修の場なども今後検討していきたいらと感じている。

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 5 (地域人材活性化支援事業)
取組事業概要	びわ湖東北部地域の子育て等でキャリアにブランクのある社会人、又はプラットフォーム参加校の卒業生を対象に、地域内での就職につながるリカレント教育プログラムを実施する。 プラットフォーム参加校による社会人向けの共同教育講座を実施し、その講座修了者が次の講座活動の補佐を担う等の継続活動によりリーダー的人材の育成を図る。
活動指標 (KPI)	社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	C-5-1 SDGs 地域人材養成事業
具体的な活動 (実施報告)	・びわ湖東北部地域の学生、教職員、小中学校や企業関係者、地域活動の実践者等を対象に SDGs の普及や実践促進に係る、以下の人材養成事業を実施する。 ① SDGs 連続講座 びわ湖東北部地域の方が住んでいる地域で参加しやすいように 3 か所 3 日間に分けて SDGs 連続講座を開催した。 1 回目：令和 5 年 11 月 23 日 (木・祝) 滋賀県立大学(彦根市) 参加者 8 名 2 回目：令和 5 年 12 月 9 日 (土) 米原市役所 (米原市) 参加者 6 名 3 回目：令和 6 年 1 月 13 日 (土) 長浜市役所 (長浜市) 参加者 14 名 有限会社ガイアコミュニティの風かおる氏を講師として、SDGs の本質を知るためのワークショップを実施。SDGs カードゲームを行うなど身近な行動が SDGs につながっていることを意識するワークショップとなった。 ② SDGs シネマ 令和 5 年 11 月 23 日に聖泉大学と連携して滋賀県立大学内で映画「ナ

	ディアの誓い」の上映会を実施した。(参加者 15 名) 令和 5 年 12 月 5 日に滋賀県立大学内で映画「ガザ 素顔の日常」の上映会を実施した。(参加者 85 名) 令和 6 年 3 月 8 日・9 日に長浜バイオ大学学祭実行委員と連携し、バイオ大学町家キャンパスで SDGs 映画の上映会を実施した。(参加者 18 名) ③SDGs 出前講座 県内外の行政機関、教育機関、企業等からの希望を受けて、SDGs に係る講師を派遣し講演やワークショップを実施した。
実績 (成果)	・SDGs 連続講座では、湖北地域の住民が住んでいる地域で参加しやすいように 3 市に渡って開催するとともに、身近な取組と SDGs のつながりが意識できるようなテーマを設定することで、SDGs を自分ごと化して、行動を考えるきっかけを提供した。びわ湖東北部地域連携協議会の参加機関にチラシを配布して、広く参加者を募り、SDGs の視点を持ち身近な地域で活躍できる人材を養成した。 ・SDGs のゴールに関連する映画を題材に上映会を開催し、上映後に参加者がお互いの意見を交換し、SDGs を自分ごと化して身近な行動を考えるきっかけとなるようなワークショップを実施した。 また、時事問題として関心の高いパレスチナ問題に関する映画を上映することで、世界で起こっていることを考えるきっかけを提供した。 ・SDGs 出前講座は、中学校、小学校、民生委員、公的機関等の依頼を受けて 6 回の講師派遣依頼があった。
活動指標 (KPI) への貢献度	・社会人向けの SDGs 連続講座を開催し、2023 年度実績は延べ 28 名と活動指標 (KPI) の達成に貢献している。 ・びわ湖東北部地域での SDGs による地域活性化にむけて、びわ湖東北部地域連携協議会の参加校との連携による実施を検討しつつ、次年度も継続実施したい。

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・ 地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。 ・ びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年度比で 20%以上の増加。
取組事業名	取組 3 (幼・小・中・高校生への学習支援事業)
取組事業概要	・ 幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供 (大学説明会) 及び学習支援事業 (大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等) を実施する。
活動指標 (KPI)	・ 幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	C-5-2 ICT 教育推進教員養成事業
具体的な活動 (実施報告)	長浜市、米原市、彦根市において、アドバイザー (株式会社わけわけ代表取締役) の支援を受け、3 市が任命した 30 名の教員が本講座を受講してきた。GIGA スクール構想のねらいや ICT を活用した先進地の授業例や ICT の効果的な活用について学ぶことができた。 〈開催日時〉 5/22 (月) 各市担当者打合せ 10:00～12:00 (浅井支所) 7/26 (水) 第 1 回講座 授業づくり① 13:30～16:30 (さざなみタウン) ・ GIGA スクール構想、先進地の事例、効果的な ICT 活用など 8/7 (月) 第 2 回講座 授業づくり② 13:30～16:30 (さざなみタウン) ・ ICT を効果的に活用した指導案、模擬授業 など 9/28 (木) 第 3 回講座 学習評価 15:00～16:40 (オンライン開催) ・ 学習評価 など 15:00～16:40 (オンライン開催) 10/26 (木) 第 4 回講座 オンライン授業 ・ 効果的なオンライン授業、不登校児・生徒への支援 など 1/16 (木) 第 5 回講座 人材育成と推進 15:00～16:40 (オンライン開催) ・ ICT 推進教師の育成、学校での ICT 教育の推進 など 1/25 (木) 第 6 回講座 プログラミング教育 15:00～16:40 (オンライン開催) 2/15 (木) 第 7 回講座 総括 15:00～16:40 (さざなみタウン)

実績（成果）	全国の先進校の先生方の考え方・取組について、オンラインで実践内容を紹介いただき、知見を得ることができた。 市内はもちろんのこと、他市町の先生方とのグループ活動を多く取り入れることで活発な協議が実現し、各市との実践交流を深められた。 アンケートの結果では平均 99%の充実度を維持している。研修後の質問に対する講師から回答や、受講生の声を紹介するなど積極的なフィードバックをすることが充実度につながっていると考ええる。 本年度は ICT 教育推進教師として授業を公開し、得た学びを広めることで地域内の ICT 教育の推進を目指してきた。アンケートの「研修の内容を活用ができるか」という質問に対しても、平均 96%が「活用できる」という回答を得られている。
活動指標（KPI）への貢献度	ICT を効果的に活用できる教員を増やすために、講座での実践を通信等で発行することに加えて、研修会や公開授業を各市でも進めた。 彦根市では、ICT 教育推進教師養成講座の受講生 12 名が、中学校区ブロック（4 つ）ごとに、オンラインや対面にて伝達研修を実施した。 米原市では、実践内容を自主研修講座（3 回）にて、当講座受講生が実践を発表した。さらに、2 月の教育研究発表大会でも今回の研修で得た学びを発表する予定である。 長浜市では、当講座受講生 10 名が研修で得た学びを活かし、10 回の公開授業を行った。さらに長浜市内全教職員に周知し、各校の ICT 推進教師をはじめ多くの方に発信することができた。 また、これらの実践を広報での発信に加えて、授業案をデータとして保管し、ライブラリ化することで ICT 教育の活用を増やすことができた。さらに、各市の運営担当者が互いの市の研究発表に参加するなど、情報交換を密に行うことができた。 これらにより、地域内の ICT 教育の推進を図ることにつながることができた。

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加(2023 年度評価)
取組事業名	取組 5 (地域人材活性化支援事業)
取組事業概要	びわ湖東北部地域の子育て等でキャリアにブランクのある社会人、又はプラットフォーム参加校の卒業生を対象に、地域内での就職につながるリカレント教育プログラムを実施する。 プラットフォーム参加校による社会人向けの共同教育講座を実施し、その講座修了者が次の講座活動の補佐を担う等の継続活動によりリーダー的人材の育成を図る。
活動指標 (KPI)	社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。
対応 SDGs 番号	4, 11, 13
取組事業 No.	C-5-3 保育・教育者人材養成「小児救急法」講習
具体的な活動 (実施報告)	びわ湖東北部地域の保育・教育者人材の育成のため、MEDIC First Aid の「チャイルドケアプラス™・コース（小児と乳児、および成人のための CPR（心肺蘇生法）、AED（自動体外式除細動）とその他の応急手当（ファーストエイド）」を開催した。 今年度は、全 2 回を計画しており、将来の保育人材である高校生が受講しやすい夏休みの 8 月と、春休みの 3 月に実施した。 1. 対象 次のいずれかに該当する方 ● 彦根市・長浜市・米原市に在住し、乳幼児の保育または教育業務に従事する方 ● 彦根市・長浜市・米原市に所在する保育所や教育機関等に勤務し、乳幼児の保育または教育業務に従事する方 ● 彦根市・長浜市・米原市に在学または在住の高校生で、将来、保育または教育に関する職業に関心のある方 ● 彦根市・長浜市・米原市に在学または在住の大学生・専門学校生で、現在保育士または教員養成課程で学んでいる方

	● 彦根市・長浜市・米原市に在住で、子育てや児童の安全教育について関心のある方（3月のみ） 2. 日 時 第一回 2023年8月20日（日）8:30～17:30 第二回 2024年3月2日（土）8:30～17:30 3. 場 所 滋賀文教短期大学 4. 参 加 者 第一回 6名（1名欠席） 高校生 3名 保育従事者 3名 第二回 18名 大学生 6名 保育従事者 9名 一般 3名 5. 講 師 松本秀章（滋賀文教短期大学） 林健児郎（はつかいちキャンプ協会） 6. 内 容 コースプログラムに順じ、訓練機器を用いた実践的な救急法講習を行った。参加者アンケートによる習得度や満足では、ほぼ全項目が4段階中3（良い）以上であった。修了者全員に国際認定カード及び修了証を発行した。 びわ湖東北部地域の将来的な保育人材及び現役の保育人材に対し、有用な知識・技能を教授することができた。
実績（成果）	第一回6名、第二回18名の参加者全員が、当プログラムを修了し、国際認定資格チャイルドケアプラスを取得することができた。地域の保育・教育の質向上の一助となったと評価する。 コースも各二回の受講者全員から、「良い」以上の満足度を得ることができた。
活動指標（KPI）への貢献度	本講習は、昨年度に引き続いた継続事業である。また今年度は、全2回開催した。合計3回実施できたことは、社会人向けの講座を5回目標とするKPIの一助になったと評価する。 保育・教育人材の育成という観点において、本地域だけでなく全国的な課題として、当分野を志望する高校生の激減傾向がある。保育・教育人材は、地域のコミュニティを維持するために不可欠な要素であるにも関わらず、人材は減少の一途という現状は、地域が喫緊の課題として捉え、地域で当分野の志望者向上の掘り起こし策を講じる必要があると考える。本事業が、8月と3月という高校生に受講しやすい時期に設定した理由もここにある。 地域への愛着を醸成し、地域の就職者を増やす対策を講じる一方で、今後は地域で必要な人材を、地域が早期のキャリア教育を行い、人材を創造していくという取り組みに期待し、本協議会としても取り組んでいきたい。

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加 (2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 5 (地域人材活性化支援事業)
取組事業概要	びわ湖東北部地域の子育て等でキャリアにブランクのある社会人、又はプラットフォーム参加校の卒業生を対象に、地域内での就職につながるリカレント教育プログラムを実施する。 プラットフォーム参加校による社会人向けの共同教育講座を実施し、その講座修了者が次の講座活動の補佐を担う等の継続活動によりリーダー的人材の育成を図る。
活動指標 (KPI)	社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。
対応 SDGs 番号	5
取組事業 No.	C-5-4 ジェンダー平等ユースリーダー育成プロジェクト
具体的な活動 (実施報告)	本事業では、下記の活動を実施した。 ①ジェンダー平等ミーティングへの参画 G-NET しが主催のジェンダー平等に係る課題をテーマとした意見交換会に参画し、参加者のジェンダー平等に対する理解を深め、当事者意識を持って身近なびわ湖東北部地域のジェンダー課題について考える機会を提供した。 ②ジェンダー平等に関する情報発信、ワークショップ・講演会の開催 ジェンダー平等ミーティングの参加者の中から有志を募り、ジェンダー平等に関する情報発信や、ワークショップ・講演会を協働で企画運営することを通して、ユースリーダーを育成した。 ③ジェンダー平等に関する若者の活動支援 上述の活動に参加した若者が継続的に活動を行えるよう、若者団体の設立支援、活動支援を行った。
実績 (成果)	①ジェンダー平等ミーティングへの参画 参加者：大学生 (聖泉大学、長浜バイオ大学、滋賀大学、滋賀医科大学、高校生 (立命館守山高校)、小学生、県内の若手社会人等 参加者数：70 名 (実人数)

	5月24日（水曜日）14：30～16：30 「ジェンダーって何？」講師 藤野敦子さん(京都産業大学教授) 6月24日（土曜日）13：30～15：30 「ジェンダー平等ってなんですか」講師 櫻井彩乃さん（「#男女共同参画ってなんですか」代表） 7月26日（水曜日）13：30～15：30 「学校とジェンダー」 8月26日（土曜日）13：30～15：30 「デートDVとジェンダー」講師 上野淳子さん(四天王寺大学准教授) 9月27日（水曜日）13：30～15：30 「健康とジェンダー」講師 県内医大生 10月11日（水曜日）13：30～15：30 「性の多様性について考える」講師 清水展人さん(一般社団法人日本LGBT協会代表理事) 11月22日（水曜日）13：30～15：30 「男性育休から考えるジェンダー」講師 東京海上ディーアール株式会社研修講師 12月16日（土曜日）13：30～15：30 「スポーツとジェンダー」講師 東近江バイオレットのみなさん ※独立行政法人国立女性教育会館主催「男女共同参画推進フォーラム（NVEC フォーラム 2023）」に出展（オンライン配信） 1月27日（土曜日）13：30～15：30 「企業の取り組みから考える多様性」講師 楽天グループ株式会社 2月10日（土曜日）13：30～15：30 開催予定 「古典文学をジェンダー史で読む」講師 京楽真帆子さん（滋賀県立大学人間文化学部教授） ②ジェンダー平等に関する情報発信、ワークショップ・講演会の開催 ・「男女共同参画情報誌 G-NET しが」に参加者の執筆原稿が掲載（2024年3月発行予定） ・啓発用リーフレットの作成 ・ワークショップの開催（株式会社ポーラとの協働。2023年12月に開催） ③ジェンダー平等に関する若者の活動支援 参加者の有志が市民団体「くれよん」を設立（2022年9月設立。ジェンダー平等社会の実現を目指し、啓発活動等を行う。メンバー13名）。小中学生（滋賀県の子ども議会参加者）や、びわ湖東北部地域の住民を対象とした出前講座を実施した。
--	---

活動指標（KPI）への貢献度	本事業は 2022 年度から継続してびわ湖東北部地域で実施おり，本年度も上記の通り、本協議会参加大学の学生参加を得て実施することができ、活動指標(KPI)に貢献することができた。 本事業がテーマとするジェンダー平等についても、まだまだ課題は残されており、次年度も、びわ湖東北部地域のその他の大学や、高校に取り組みを周知したい。 また、本年度の参加者が卒業後も継続して活動に参画できるよう、引き続き、ジェンダー平等ミーティングや市民団体「くれよん」の活動支援を行いたい。
----------------	---

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加 (2023 年度評価)
取組事業名	取組 5 (地域人材活性化支援事業)
取組事業概要	びわ湖東北部地域の子育て等でキャリアにブランクのある社会人、又はプラットフォーム参加校の卒業生を対象に、地域内での就職につながるリカレント教育プログラムを実施する。 プラットフォーム参加校による社会人向けの共同教育講座を実施し、その講座修了者が次の講座活動の補佐を担う等の継続活動によりリーダー的人材の育成を図る。
活動指標 (KPI)	社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。
対応 SDGs 番号	5
取組事業 No.	びわ湖東北部地域における質の高い看護の実践と人材の育成 ～ナイチンゲール看護思想に学ぶ～
具体的な活動 (実施報告)	【講演会の開催】 6 月 17 日土曜日 13:30～15:30 場所：対面(聖泉大学)・オンライン同時開催 テーマ：「ナイチンゲールとの出会いと学び得たもの」 講演者：城ヶ端初子氏 (聖泉大学大学院教授) 参加者 40 名程度 【例会の開催】 8 月 19 日土曜日 13:30～15:00 ハイブリット開催 テーマ「わが校におけるナイチンゲール看護思想の展開と課題」 講演者：川瀬さゆり氏(滋賀県立看護専門学校 専任教員) 参加者 10 名程度 9 月 23 日土曜日 13:30～15:00 オンライン開催 テーマ「ナイチンゲール方式の看護教育」 講演者：奥田のり美(京都看護大学 教員) 参加者 15 名程度 1 月 20 日土曜日 13:30～15:30 オンライン開催 テーマ「ナイチンゲール看護思想をどのように臨床に活用するか」

	講演者：永山夕水(彦根市立病院 看護師長) 参加者 10 名程度 【書籍の発行】 タイトル「城ヶ端初子先生とともに はぐくむ ナイチンゲールの看護思想」 ー「ナイチンゲール看護研究会・滋賀」の学びと歩みー 本年度行った講演会や例会での内容や学び・感想などを取りまとめた書籍(サンライズ出版)を発行
実績（成果）	主に滋賀県、近江八幡市・彦根市・長浜市に勤務する、臨床や地域の看護師や看護学教員を対象に、ナイチンゲール看護思想についての発表や討議を行った。当初計画では講座の開催を 5 回予定していたが、臨床の看護職者業務多忙等のため調整がつかず 4 回の開催となった。 とくに本年度は、びわ湖東北部地域の教育現場や臨床看護師を講師に招くことで、現場に則した意見が聞かれ活発な議論が展開された。さらに講座だけに留まらず、看護職者がいつでも看護の基本に立ち返ることができるよう、講演や議論の内容を書籍にまとめ、滋賀県内の病院等の施設へ配布を行う。 本活動により、滋賀県内の看護職者が、ナイチンゲール看護思想と現代の臨床や看護教育とを対比させ看護の本質を探究することで、びわ湖東北部地域の連携を深めると共に看護の質向上へと繋がることが期待できる。
活動指標（KPI）への貢献度	本事業は上記活動指標（KPI）をほぼ達成し、びわ湖東北部地域に関連する看護職者の看護の質の向上を目的に、2020 年度から継続して活動を実施している。 2023 年度実績は、4 講座を開催し、参加者 75 名、参加施設 20 施設程度と活動指標の達成に貢献している。また研究会での活動を重ねることで、参加者は講座で習得した看護の質向上のための取り組みを、看護学生や看護師等へ自ら発信しており、びわ湖東北部地域の看護職者の人材育成へと繋がっている。

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加 (2023 年度評価)
取組事業名	取組 6 (共同 FD・SD 事業)
取組事業概要	びわ湖東北部地域の共同教育事業の確立にあたり、プラットフォーム参加校の教育の質向上を図るために、大学教職員向けの教育機会 (共通 FD・SD) を設ける。
活動指標 (KPI)	共同 FD・SD 研修を年 1 回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。
対応 SDGs 番号	4, 11
取組事業 No.	C-6-1 地域を担う次世代人材の育成に向けた共同 IR 事業の開発
具体的な活動 (実施報告)	当事業では、人材育成の観点から、学生の学習履歴・成果を中心に、中・長期的な視野から教育機能と就業との関連性の調査を行い、分析結果を大学の教育改善や運営に還元しながら、若者の地域定着に必要なベンチマークとなる要素の検討を行っていく。 本年度は事業 4 年目となり、2020 年度から蓄積してきた調査データをまとめ、大学教育と人材育成・就業の関係性に一定の解答を得ることを目指した。本事業のゴールである若者の地域定着に必要なことや、ベンチマークとなる要素のヒントを幾つか挙げる。この探索プロセスと同時に、本事業に関わるメンバーが大学 IR に関する専門性を高め、教育改善・研究活動等を促進し、次世代を担う人材育成に寄与することも目指していく。 ① 共同 IR 運営会議の開催： 3 月終報告の内容調整等を実施。 ② 情報整理： 随時； これまでに収集してきた調査データを整理し、本事業の取り組み結果を公表出来るようにまとめた。 ③ 人材の高度化： 当事業に関係するメンバーが適切な調査企画・デザイン・解析スキルを持つよう、IR に資する技能開発や研修等に参加し、人材の高度化を図った (9 月に外部機関が実施している研修に参加)。 ③ 分析結果の共有と事業成果の公表 3 月大学教育の FD・SD に資するデータを最終報告書にまとめた。

実績（成果）	本年度は主に、これまでに蓄積してきたデータの整理を行い、大学の教育機能と就業との関連性について分析し、一定の解答を得ることに注力した。 社会人として活躍している卒業生のインタビューデータから、各大学の教育カリキュラムによって培われて来た力は、社会に出てからも必要となる力と深い関連性を持っていることが明らかになり、いわゆる“学習の転移”が起こっていることが示唆された。また同時に、それらの力は各大学独自の文脈によって培われていることも明らかとなった。 一方、地域への愛着や滋賀県内で働くことへの意識に関する多様なデータも得ることが出来ており、若者の地域定着に必要なベンチマーク要素のヒントが得られた。これらは最終報告としてまとめている。
活動指標（KPI）への貢献度	これまでに蓄積してきたデータを総合的に分析し、得た知見を教育現場あるいは当該地域で活用できる形にすること（利用価値を高めること）に注力し、最終報告書としてまとめた。 学生の学習動向や卒業生の実直なインタビューデータは、大学の教育カリキュラムの内容や質が就業後にも影響することや、地域で働きたいと思う意識にも作用していることを示唆していた。 若者の地域定着を促進するための明確なベンチマークは明らかにできなかったが、大学教育の内容と就業の間には一定の関連性が見出されたことから、これらの結果が、今後大学の教育の質の向上および教職員の質の向上に寄与できるものと考えている。

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加 (2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 6 (共同 FD・SD 事業)
取組事業概要	びわ湖東北部地域の共同教育事業の確立にあたり、プラットフォーム参加校の教育の質向上を図るために、大学教職員向けの教育機会 (共通 FD/SD) を設ける。
活動指標 (KPI)	共同 FD/SD 研修を年 1 回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる
対応 SDGs 番号	4, 8, 9
取組事業 No.	C-6-2 びわ湖東北部地域 共同 FD・SD 研修会 ① 共同 SD 研修会 「大学における資産運用とその役割」 ② 共同 FD 研究会 「学生エンゲージメント」
具体的な活動 (実施報告)	【C-6-2①】共同 SD 研修会 目 的：地方の中小規模の大学における、今後のすべき経営・資産運用等を学び、持続可能な経営に資するために実施する。 演 題：「大学における資産運用とその役割 ～令和の時代を生き抜くために～」 日 時：2023 年 9 月 27 日 (水) 13:00～14:30 方 法：対面及びビデオ会議システムを活用した配信 講師名：スキラージャパン株式会社 代表取締役 伊藤亮太先生 【C-6-2②】共同 FD 研究会 テーマ：学生エンゲージメントを高めるための教育・学習環境をどのように考え、実践するか 日 時：2024 年 2 月 21 日 (水) 14 時 00 分～16 時 00 分 14 時～14 時 5 分 学長挨拶 14 時 5 分～15 時 55 分 講演・質疑応答 15 時 55 分～16 時 学長講評 会 場：大講義室 (調整中) 対 象：本校専任教員 (全員)・職員 (任意)、びわ湖東北部地域連携協議会所属教職員

	講師名：関西大学 教授 山田剛史先生
実績（成果）	【C-6-2①】 参加者：滋賀大学 1名 滋賀文教短期大学 26名 聖泉大学 3名 長浜バイオ大学 3名 米原市 1名 岐阜第一高等学校 1名 岐阜女子高等学校 1名 実施状況：スキラージャパン株式会社 代表取締役、早稲田大学エクステンションセンター講師、千葉科学大学 危機管理学部講師、東洋大学経営学部会計ファイナンス学科 非常勤講師の伊藤亮太氏より ・大学はなぜ資産運用を行う必要があるのか？ ・大学の資産運用の現状について ・大学ファンドの運用について ・東大基金の運用について ・国際基督教大学の運用について それぞれ実例をもとに講演をいただいた。また特に国内の事例のみならず諸外国の大学の資産運用状況等の参考資料を交えながら講演が行われた。いかに日本の大学がいわゆる先進国ではあるが、そういった先進国の大学から差が生まれていってしまっているのかが、明確に示されていた。我が国においてもようやく東京大学等が取り組み始めているというが、我が国の最高峰の大学であっても、競争力が失われて言っているのかが、資産の部分で明白となった。 【C-6-2②】 PROG テストをはじめ、様々な調査を分析した教学 IR の結果に基づく課題や学科の課題を解消する学びを得るために FD 研修会を開催した。
活動指標（KPI）への貢献度	【C-6-2①】 本事業は上記活動指標（KPI）を達成し、プラットフォーム参加校の教育の質向上を図るために、大学教職員向けの教育機会（共通 FD・SD）を設け、各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる事が出来た。 今般、地方の大学を取り巻く非常に厳しい経営状況において、いかに生き残りをかけて様々な施策を行っていくかについて、経営側が出来ることとしてテーマを「大学における資産運用とその役割～令和の時代を生き抜くために～」として著名なファイナンシャルプランナーの伊藤亮太氏に講演を行っていただいた。事前に各大学等には、経営を担う方への声がけも

	お願いをしておいたが、実際にそういった方の参加者が少なかったのが残念であった。ただ、各自治体からの参加者もあり、一定の効果はあったのではないかと推察する。内容的にはやはり現場の教職員向けの話にはなっていなかったが、事前にそのような聴衆が中心になる可能性が高い事は伝えてあったため、個人の話にも通ずる内容を講演に織り交ぜていただけた事により、内容としては非常に分かりやすい研修であった。 持続可能な研究、教育活動においては営利団体である必要は無くとも、やはりある程度の資金等が必要であるが、やはり日本は諸外国と比較しても資産運用という面においてはかなりの遅れをとっている事が理解できた。しかし、やはり現場の者では無くて然るべき立場の者がそれを理解する必要があるのではないか、という事を改めて実感することが出来た。 課題としては、参加者にある。上述のとおり現場の教職員にも非常に分かりやすい話ではあったが、こちらも上述のとおり経営を担う方の参加が非常に少なかった。広報の方法に問題があったのかもしれないが、うがった見方かも知れないが、これがまさに諸外国の差をあげられた明白な理由では無いのかと感じざるを得ない。 【C-6-2②】 初年次からの教育の質を改善・向上させるための取り組みや、大学、教職員、学生それぞれの主体的な結びつきが教育に影響するという「学生エンゲージメント」の考え方について学んだ。 短大と大学における課題は異なるが、共通して抱える教育の質の向上及び教職員の向上に役立てることが出来た。
--	--

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加 (2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 6 (共同 FD・SD 事業)
取組事業概要	・彦根市・長浜地域の共同教育事業の確立にあたり、プラットフォーム参加校の教育の質向上を図るために、大学教職員向けの教育機会 (共通 FD/SD) を設ける。
活動指標 (KPI)	・共同 FD/SD 研修を年 1 回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。
対応 SDGs 番号	4, 8
取組事業 No.	C-6-2 共同 FD・SD 研修会 ③ 共同 FD・SD 研修会 「大学設置基準改正と大学運営のこれから」 ④ 共同 FD・SD 研修会 「コミュニケーション向上」
具体的な活動 (実施報告)	④ #教職員勉強会# 大学設置基準改正と大学運営のこれから 日時 令和 6 年 1 月 26 日 (金) 15 時～16 時 30 分 会場 米原市役所 3 階会議室 講師 荻野恵市 氏 (株式会社 Cantera 代表取締役) ⑤ コミュニケーション力を向上させる「5 分会議」 日時 令和 6 年 2 月 16 日 (金) 15 時～16 時 30 分 会場 米原市役所 3 階会議室 講師 沖本るり子 氏 (株式会社 CHEERFUL 代表取締役社長)
実績 (成果)	参加者数 ③ #教職員勉強会# 大学設置基準改正と大学運営のこれから ④ コミュニケーション力を向上させる「5 分会議」
活動指標 (KPI) への貢献度	本事業は 2019 年度から継続して実施しており、本協議会参画大学・短期大学を含め県下大学・短期大学の教育の質の向上及び教職員の資の向上に一定の役割を果たしてきた。 大学・短期大学とりわけ地方の大学・短期大学運営の厳しさが増す中、教職員に求められる役割は多様化しその責任も大きくなっていく。大学・短期大学や教職員のニーズを的確に捉えながら、多様な研修の場を設けることにより、引き続き、地方の大学・短期大学の教育の質の向上及び教職員の資の向上に貢献していきたい。

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 6 (共同 FD・SD 事業)
取組事業概要	びわ湖東北部地域の共同教育事業の確立にあたり、プラットフォーム参加校の教育の質向上を図るために、大学教職員向けの教育機会(共通 FD・SD)を設ける。
活動指標 (KPI)	共同 FD・SD 研修を年 1 回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。
対応 SDGs 番号	4, 9
取組事業 No.	C-6-3 びわ湖東北部地域 共同 FD・SD 研修会 ⑥ 共同 FD・SD 研修会 「キャンパスハラスメントを防止するために」
具体的な活動 (実施報告)	【演題】キャンパスハラスメントを防止するために 【日時】2023 年 9 月 6 日 (水) 13:30-15:00 【講師】西村 寿子 先生 NPO 法人アカデミックハラスメントをなくすネットワーク 【会場】長浜バイオ大学大講義室① (対面・オンライン併用のハイブリッド形式)
実績 (成果)	参加人数…77 名 (内訳：長浜バイオ大学 71 名、滋賀大学 3 名、滋賀県立大学 1 名、滋賀文教短期大学 1 名) 講義や実験・実習、個別指導さらには LINE でのやり取りの場面で、教職員の捉え方と受け手(学生等)の捉え方には場合によって大きな齟齬がある。どのような行動がハラスメントと捉えられるかを自覚し、自覚により行動の改善を行うことがハラスメントの環境が改善されることを強く認識させられた研修会であった。
活動指標 (KPI) への貢献度	本事業は上記活動指標 (KPI) を達成し、大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上貢献できた。今後も様々な観点から、大学や教職員の質の向上を図る研修会を企画してゆきたいと考えている。

③ 総評

本年度 WG-C においては、協議会設立当初に掲げた地域の課題解決のための達成目標(KGI)の達成に特に注力して活動指標(KPI)を意識しながら事業実施を図ってきた。KGI 及び KPI の達成のために、「開発した科目の運用」、「オンライン授業などを活用して受講者数を伸ばす可能性の検討」を中心に「実施状況は順調」の事業についての見直し、課題解決のテーマに基づいた実施事業の再編、配置転換をはかったうえで、年度事業計画を立てることが出来た。また、数年来続いてきたコロナ禍が明け、感染症対策のため、協議会立上げ当初に計画していたが実施が困難であり実施形態等を変更した事業等についても、概ね当初計画の形で実施することも出来、KGI 及び KPI の達成へ貢献することが出来たと考えている。

達成目標(KGI)における評価については下記のとおりである。

本協議会に参画する全ての大学・短期大学共同での科目開発を行い、単位互換科目として「近江での SDGs」の実践の開講を行った。特に、ただの単位互換科目という事ではなく、あくまで連携機関すべての教育の資源がその科目に落とし込めるよう、参画 5 大学の教員が各科目をオムニバス形式で実施することにより、協議会の科目として、特に本協議会が位置するびわ湖東北部地域及び SDGs を学ぶことが出来る科目となった。また、SDGs や当地域に関する単位互換科目を協議会の枠組みで実施することにより、地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年と比較して 20%以上増加を達成することが出来た。

また、びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関における共同教育事業について、幼・小・中・高校生向けの学習支援活動、プラットフォーム事業参加校合同で高校生向けの大学説明会、社会人等向けの共同教育講座を軸に、2019 年活動実績より事業数及びそれぞれにおける参加者数について倍増しており、びわ湖東北部連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加を達成した。引き続き安定的、経常的な事業実施を今後も目指していきたい。

各活動指標(KPI)における評価については下記のとおりである。

「SDGs をテーマとした共同講義事業」における活動指標(KPI)である「SDGs をテーマにした共通科目を 1 科目以上開発する。」については、2021 年度に開講する準備を整え、毎年度環びわ湖大学・地域コンソーシアムの単位互換科目として秋学期に、びわ湖東北部地域連携協議会を構成する 5 大学の教員が分担して各講義を実施している。年度を重ねるにつれて履修登録者も増え、グループワーク等授業内容も充実したものとなった。引続き、科目の内容のアップデートを年度ごとにはかり、現状の履修状況を鑑み、年度 2 回の開講もしくは新たな科目の開発も検討していきたい。また、「SDGs 単位互換科目」、「単位互換提供科目」については、本年度については前年度に引続き通常の形態で実施することが出来、協議会当初の計画を復活させることが出来、それぞれ充実した講義内容となった。

「幼・小・中・高校生への学習支援事業」においては、減少傾向にある大学・専門学生、中学・高校生を中心とする若者世代の読書量への課題に対して読書活動推進を目指す事業を前年度から 1 事業追加し、3 件実施した。また、不登校児童に対しての実情や生徒の様子、関わり方を学ぶ機会を提供した。また、昨今の教員の働き方改革の一環である運動部活動の外部・地域移行に向けた現状、諸課題について、学ぶ機会を提供し、今後の教員の業務負担

軽減、幼・小・中・高校生への学習支援につながる人材育成を行うことが出来た。更に昨今の DX の社会情勢を見据え、学校 5～6 年生とその保護者 10 組を対象に統計データやプログラミングに親しみながら SDGs や MLGs について学ぶこと中心としたワークショップの実施、また新たに電子書籍作成の事業を新規に実施した。

「地域内進学促進事業」においては、コロナ禍の中実験的に 5 大学が 24 時間 365 日開催している協議会加盟大学合同説明会として「学びのポータルサイト」を提供してきたが、本年度はコロナ禍前の計画であった 5 大学合同での大学説明会を実施することが出来た。各大学の枠組みに囚われず、「びわ湖東北部地域連携協議会」の枠組みでブースを設け、各大学の担当者それぞれが属する大学の枠組みを超え、協働して 5 大学の大学説明を行うことが出来た。

「地域人材活性化支援事業」においては、本協議会の根底である「SDGs」をテーマにした SDGs 地域人材育成事業、昨今の DX の流れに対応するための ICT 教育推進教員養成事業、救急法を軸にした保育・教育者人材養成事業、世界的な流れであるジェンダー平等を掲げたユースリーダー育成事業、質の高い看護の実践と人材の育成事業、とそれぞれ幅広い 5 つの分野での地域人材活性化支援事業を実施することが出来た。協議会設立当初より、分野の裾野を広げるにより、より多岐にわたってびわ湖東北部地域の当該人材の育成に努めることが出来た。

「共同 FD・SD 事業」においては、まず地域を担う次世代人材の育成に向けた共同 IR 事業で本年度は、人材育成の観点から、学生の学習履歴・成果を中心に、中・長期的な視野から教育機能と就業との関連性の調査を行い、分析結果を大学の教育改善や運営に還元しながら、若者の地域定着に必要なベンチマークとなる要素の検討を行った。特に事業も実施 4 年目となり、調査データも 2020 年度から蓄積してきたことから、より客観性のあるデータをもとに、大学教育と人材育成・就業の関係性に一定の解答を得ることを目指すことができた。また、共同 FD・SD については、本年度 5 回開催し、それぞれ「大学における資産運用とその役割」、「学生エンゲージメントを高めるための教育・学習環境の検討、実践」、「大学設置基準改正と大学運営」、「コミュニケーション力の向上」、「キャンパスハラスメントの防止」、をテーマに、プラットフォーム参加校の教育の質向上を図るための教育機会を提供することが出来た。また各年度実施を重ねてきたことで一定の定着を図ることも出来た。

(4) ワーキンググループ D

① 活動概要

ワーキンググループ D (WG-D) はびわ湖東北部地域連携協議会の広報活動及び協議会ホームページ (HP) の管理・運営を担っている。

各取組の具体的な内容は、次のとおりである。

1) 協議会の広報活動

1. ラジオを活用した協議会の広告宣伝

- ・例年はCMを打っていたが、より実施した成果をアピールするため「B-4 ①キャンパスSDGs 大会」の成果を担当した学生が出演する形で宣伝した。

2. 広報グッズの作成

2021 年度作成した PF ロゴ入り封筒とクリアファイルの在庫が少なくなった機関について、再度 PF ロゴ入り封筒を作成し、協議会連携機関に配布した。

3. 市民向け成果発表会の実施

2022 年度成果を一般市民向けに発表する場を設けた。

2) 協議会 HP の管理・運営

2023 年度の事業の案内をするとともに、2022 年度の成果（2022 年度の活動紹介、成果報告書等）の公開にあたってホームページを更新した。

② 具体的な取組状況・成果・課題

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	D. 広報活動・ホームページ管理
取組事業名	取組 1（広報活動）
取組事業概要	びわ湖東北部地域連携協議会の取組事業及びその成果、地域に向けたイベント情報を広く発信するために、成果報告書及び広報物（プラットフォーム紹介リーフレット等）の作成、配布を行う。また、本協議会を広く認知してもらうために、協議会ロゴを作成し、配布物（封筒やクリアファイル等）に利用する。
取組事業 No.	D-1-1（広報活動）
具体的な活動	びわ湖東北部地域連携プラットフォーム（PF）事業が開始して 5 年目となり、2022 年度まで実施していた本 PF の周知拡大のための広報ではなく地域での貢献実績を宣伝した。 協議会 HP へ 2022 年度成果の掲載（活動紹介、成果報告書等）， ① WG-B-4「キャンパス SDGs 大会」期間中に活動した学生が出演する形式でラジオ番組を放送した。 ② 広報グッズの作成 2021 年度作成した PF ロゴ入り封筒とクリアファイルを在庫が少なくなった連携機関へ再配布した。 ③ その他、各連携機関がびわ湖東北部の周知に努めた。
実績（成果）	各 WG の精力的な活動、具体的な活動①～③での広報の甲斐あってか、2023 年度は外部機関（金融機関や市民団体）から本 PF への活動概要の問い合わせが複数件寄せられた。
改善策 （次年度への取組）	計画していた地方雑誌での特集を組んでもらうまでの活動には至らなかったが、次年度は 5 年間の取り組み成果をしっかりと宣伝していきたい。

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	D. 広報活動・ホームページ管理
取組事業名	取組 1（広報活動）
取組事業概要	びわ湖東北部地域連携協議会の取組事業及びその成果、地域に向けたイベント情報を広く発信するために、成果報告書及び広報物（プラットフォーム紹介リーフレット等）の作成、配布を行う。また、本協議会を広く認知してもらうために、協議会ロゴを作成し、配布物（封筒やクリアファイル等）に利用する。
取組事業 No.	D-1-2 成果発表会
具体的な活動	びわ湖東北部地域連携協議会の取組事業及びその成果を広く知ってもらい、地域の活性化を促すため、地域一般住民向けの成果発表会を以下の通り開催した。 日 時：令和 5 年 11 月 25 日（土）10：00～12：00 会 場：プロシードアリーナ HIKONE 多目的会議室 内 容：挨拶・事業説明 （びわ湖東北部地域連携協議会 会長・蔡晃植） WG-A 活動報告 中村 卓 氏 （長浜バイオ大学バイオサイエンス学部） WG-B 活動報告 多胡 陽介 氏 （聖泉大学人間学部） WG-C 活動報告 井上 勝 氏 （滋賀文教短期大学国文学科） 記念講演「異常が異常でなくなる気象とその備え」 増田 雅昭 氏 （株式会社ウェザーマップ気象予報士） 閉会挨拶（聖泉大学・間 文彦 教授） 参加者：41 名（一般 24 名、発表者・講師・スタッフ 17 名）予約制 アンケート回答：23 名
実績（成果）	「2022 成果発表会」は、市民向けの成果発表会として、前年度の引き続き対面で実施することができた。 ■参加者：41 名 ■アンケート回答 23 名（一般参加者） ■アンケート結果 ・記念講演がよかった。 ・全体説明の簡単な資料、取組状況の資料、成果に対する質問を設けるなどあれば良いと思う。 ・ハザードマップやキキクルアプリの話を聞いてよかった。 ・増田予報士のお話が興味深かった。 ・今回のイベントで初めて協議会の事を知りました。活動報告につい

	て「一体どんなことなんだろう」と心配していましたが、まず、会長のお話がとてもおもしろかったです。すごい活動をされていて、誇れる団体ですね。拍手をしたかったです。3つの活動報告も面白く、興味深く聴かせてもらいました。ありがとうございました。 ・地域連携の課題を考えるうえで防災は外せません。増田氏の講演は大変意義がありました。ただ、特に産官学発のイベントはどうしても意識の高い参加者になりがちです。特に防災の周知はそれ以外のヒトゴト社会を感じる大半の人に向けて発信の努力をして頂きたいです。 ・多岐にわたる報告が短時間に詰められて非常に満足しました。 ・協議会活動報告を知る良い機会となりました。POP、本の帯コンクールは興味深く子どもにも伝えたいと考えました ・3市5大学での連携の取り組みに感動しました。活動がさらに広がり人々の交流が盛んになればと思います。 ・今回はもともと記念講演会のみで惹かれて来場しましたが、活動報告も興味深く伺いました。大学の門戸や研究成果が幅広く一般市民にも聞かれたり活かされたりする機会がもっと増えることを願っています。せっかくできたびわ湖東北部地域連携のプラットフォーム5年でそのスキームが終了するのは残念すぎます。是非、何か継続可能なSDGsの方向でいてほしいです。記念講演も期待を裏切らないも者で有意義でした。ありがとうございました。 ・私の知らない所での活動がとても興味深かったです。 ・増田氏の講演を聞いたこと。活動報告について、地域にある大学がどんな研究をしているのか知れた。市民にもっとPRしてもらえたら。
改善策 (次年度への取組)	一昨年の課題「内容の改善」「広報チャンネルの見直し」については参加者が増加したことからも多少は改善されたと考える。 しかしながら、アンケート結果では協議会の取り組み内容について周知できていないことがわかることから、引き続き地域への貢献度をアピールしていく必要があると感じた。

びわ湖東北部地域連携プラットフォーム事業 活動報告書

WG 名称	D. 広報活動・ホームページ管理
取組事業名	取組 1（広報活動）
取組事業概要	びわ湖東北部地域連携協議会の取組事業及びその成果、地域に向けたイベント情報を広く発信するために、成果報告書及び広報物（プラットフォーム紹介リーフレット等）の作成、配布を行う。また、本協議会を広く認知してもらうために、協議会ロゴを作成し、配布物（封筒やクリアファイル等）に利用する。
取組事業 No.	D-2-1 協議会ホームページ管理
具体的な活動	○ホームページ(HP) の管理・運営 協議会 HP へ 2022 年度成果の掲載（活動紹介、成果報告書等）， 2023 年度イベント案内を行った。
実績（成果）	協議会 HP へ 2022 年度成果の掲載（活動紹介、成果報告書等）， 2023 年度イベント案内を実施した。 また、サーバートラブルによる障害等の諸問題にも迅速に対応した。
改善策 （次年度への取組）	引き続き HP の随時更新、問い合わせに対応していく。

③ 総評

1) 協議会の広報活動

5 年間に及んで、各 WG の精力的な活動・地道な広報の結果、2023 年度は外部機関（金融機関や市民団体）から本 PF への活動概要の問い合わせが複数件寄せられた。このことから本協議会の周知についてはある程度効果が出ていると考える。

また、2021 年度に作成したポスターの作成・配布・掲示及び協議会ロゴマークを入れた封筒・クリアファイルの作成・連携機関への再配布を行った。次年度以降も協議会リーフレットと合せ本プラットフォーム事業を周知する目的で活用していきたい。

次年度以降は本協議会の事業計画も最終年度を迎えることから、本協議会の周知は継続しながらも、どれだけびわ湖東北部地域に貢献できたかという視点や本協議会の今後の在り方を検討する上でも我々の取組に興味を示してくれる団体への情報発信に努めていく必要がある。

2) 成果発表会の実施

2022 年度の PF 事業の成果を市民向け成果発表会という形で、協議会として前年度に引き続き対面で実施することができた。対面での実施により、近隣市民の方に参加いただくことができ、協議会の活動を知っていただくだけでなく、多くの感想を直接伺うことができた。

3) 協議会 HP の管理・運営

外部団体からの問い合わせが増加していることから、次年度はより本協議会の取組実績が見える化できるような更新を実施したい。

(5) 協議会

① 活動概要

協議会は、事業連携協力、基本方針の策定及び中長期計画の立案・実施、相互連携機関の交流等について協議を行うとともに、1) 連携協議会の開催、2) 会計監査等、3) 外部評価委員会を運営し、円滑なる連携事業の推進を図ることを目的としている。

1) 連携協議会の開催

連携協議会が取り組む事業計画のスムーズな運営を実施するため、連携機関を構成する協議会員が定期的に会議を開催し、審議・承認を行っている。本年度は Zoom を利用してオンラインで協議会を 7 回開催した。

2) 会計監査等

連携協議会監査規程に基づき、取組事業の適切な業務の執行及び予算執行が行われていたかを確認するため、監事による業務監査及び会計監査を行う。業務監査では、協議会の事業に係る日常業務の執行が、法令や協議会諸規定に準拠して合法的かつ合理的・効率的に行われているかを監査する。2022 年度の事業に関する業務監査及び会計監査を 2023 年 5 月に行い、協議会の事業が正当な証拠書類により事実に基づいて処理され、帳票が法令及び協議会会計処理規程及び会計処理規程実施規則等の諸規定に従い適正に記録されているか否かを検証するとともに、協議会財産の管理状況を監査した。2023 年 6 月 9 日（金）、第 2 回びわ湖東北部地域連携協議会において、監事より監査結果についての監査報告書が提出された。

3) 視察研修

本年度は、今後の地域連携活動の更なる発展の参考にするために、山形県鶴岡市にある「鶴岡サイエンスパーク」を視察研修に行き、産官学連携した事業に関する施設見学、事業活動のヒアリングや意見交換を行った。そして、研修後に研修報告会を開催し、今後の産官学連携についての情報共有・意見交換を実施した。

4) 成果報告会

2023 年度に実施した事業についてワーキングごとに事業活動状況の報告及び本年度の活動指標 (KPI) に対する自己評価の報告を本協議会の関係者を集め、事業活動報告を 2024 年 3 月 6 日（水）に行った。

5) 外部評価委員会

2023 年度に実施した事業に関する自己評価を含めた成果報告書を取りまとめたのち、地方自治体・産業界等の外部評価委員 4 名による外部評価委員会を、2024 年 3 月 6 日（水）

に開催し、事業成果に対する評価及び提言を外部評価委員から頂いた。

5. まとめ

(1) 2023 年度 全体総括

本年度の事業活動は、中長期計画に定めた達成目標 (KGI) 及び活動指標 (KPI) の達成を目指し、SDGs を活用した豊かに働き生活できるびわ湖東北部地域の創出を実現するために、各 WG において前年度の事業を継承・発展させ、80 件の活動を行うことができた。

ワーキンググループ A の最終的な達成目標 (KGI) の一つである「産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化」に向け、本年度の活動指標 (KPI) として「産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。」を掲げた。

KGI・KPI の達成に向け、本年度までに 8 件の共同研究を支援することが出来、地域の産業振興に貢献につながる 5 件の商品化を実現することができた。次年度は、これまで支援し事業化・商品化できた活動が事業として安定するように継続的な支援も視野に入れつつ、更なる事業化・商品化をすべく、これまで刊行してきたハンドブックにも事業化・商品化の成果を掲載するといった、大学との共同研究の促進につなげるため工夫をしていきたい。

もう 1 つの達成目標 (KGI) である「就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する」については、本年度が評価年度となっていた。

KGI に対する評価として、2019 年度の採用充足率 74.8%に対して、2020 年度は+11.3% (採用充足率 86.1%)、2021 年度は-2.3% (採用充足率 72.5%)、2022 年度は-4.3% (採用充足率 70.5%) となり、目標を達成することは出来なかった。

採用充足率に関しては、2020 年度 (2021 年 4 月入社) の調査では 10%以上の改善は見られたが、少子高齢化に伴う労働人口の減少や若年者が都市部に集中する傾向など、環境要因が重なり、2022 年度 (2023 年 4 月入社) の調査時点では 10%以上の改善に至っていない。

次年度での達成に向け、これまで取り組んできた企業と求職者との接点創出に加えて、地元出身者への優遇制度や地域社会との連携強化策を模索し、地域に残りやすい魅力をアピールすることや、若年者の志向に合わせた快適なオフィス環境や福利厚生の上昇、働きやすい環境の整備の推進をサポートすることなどの取組も必要である。

KGI の達成のために本年度の WG-A で設定した活動指標 (KPI) に対する評価としては以下の通りである。

取組 1「産官学連携事業」における活動指標 (KPI) の実績は、「産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。」を目指している。本年度の実施事業による成果として、新たに 2 組の産学間の共同研究・共同事業に取り組むグループを支援し、2019 年度より累計で 8 件の共同研究を実現することができた。10 件以上の実現に至らないものの、KGI である事業化・商品化に大きく貢献し、これまでに累計で 5 件の達成を果たすことができた。

取組 2「インターンシップ・採用活動支援事業」において、活動指標(KPI)の実績は、参加企業数延べ 111 社(2019 年度比+9.9%)、参加学生数延べ 276 人(2019 年度比+110.7%)となった。参加企業数については 0.1 ポイント届かなかったが、参加学生数は大きく上回る結果となった。

KPI として全体の参加学生数は大きく達成できているが、事業個々に見ると参加学生の募集に課題が見られる。募集広報において、オンラインチャネルの活用は推進されており一定の成果が見られるものの、事業個別にみると大幅な増加には至っていない。コロナ感染症の影響が第 5 類となった中、対面とオンラインのメリットを生かした学生に魅力ある事業内容への改善を図りつつ、各大学における学生個別への案内などのオフラインチャネルによる募集広報においても、各加盟機関の連携を強めていく必要がある。

取組 3「UIJ ターン推進事業」では、前年度から取り組んでいるびわ湖東北部地域内への UIJ ターンを促進するための起業家の育成事業で、目標としていた新規起業者 2 名を実現できた。UIJ ターン推進事業としての活動指標(KPI)では、「滋賀県外居住者」の「滋賀県内企業や事業所」への雇用を 42 名確認でき、そのうち新規学卒予定は 9 名、中途採用等は 33 名であった。同時に、「滋賀県外居住者」の「びわ湖東北部地域内の企業や事業所」への雇用も 35 件あり、地域内への流入に大きく寄与している。

今後、びわ湖東北部地域内への流入を増加し、地域外への流出を低下していくためにも、地域内での生活や雇用の魅力を上げることと加盟大学学生たちへ地域内への愛着を高めていくことが必要となる。そのため、WG-A、WG-B、WG-C の取組につながりを持たせていけるように検討を進めていきたい。

本年度のワーキンググループ B の全体としての活動状況は次の通りとなった。ワーキンググループ B の達成目標である「地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比で 40%増加させる」について、本年度は、活動数 77 件(2022 年度 77 件、2021 年度 55 件、2020 年度 31 件、2019 年度 33 件、2018 年度 20 件)となり、2018 年度比 285%増であった。

また、活動参加者数 3,545 名(2022 年度 3,545 名(未実施、未集計分除く。))、2021 年度 7,483 名、2020 年度 1,230 名、2019 年度 2,269 名、2018 年度 631 名)となり、2018 年度比 462%増を達成できた。

ワーキンググループ B における本年度の活動数は、「生涯学習拠点整備事業」を除き、他の 3 事業において増加、全体として前年度比大幅増となった。

「生涯学習拠点整備事業(市民教養講座)」を前年度の引き続き対面型開催を優先したことにより、オンデマンド配信を行った 2021 年度に比して大きく減少しているが、前年度に近い受講者数となった。『もっと多くの人に知ってもらえるような広報の工夫をするべき』の声は、他の事業実施後に行ったアンケートにも多く寄せられた意見であり、広報の見直し・強化が引き続き大きな課題となった。

もうひとつの達成目標である「地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する」については、例年「SDGs でつながる学生の地域連携プロジェクト」に取り組んだ学生に調査し測定していたが、本年度はアンケート依頼が遅くなったことが原因で測定できるまでの回答数が集まらなかった。次年度はアンケート依頼の早期実施と回答の徹底が課題となった。

本年度の「地域コミュニティの活性化事業」における活動指標（KPI）の達成状況および具体的な内容は次のとおりである。

【取組 1】生涯学習支援事業は、「地域住民向けの公開講座を毎年 10 講座以上開講する」を活動指標（KPI）にし、本年度は、教養コース 1 事業 10 講座と専門コース 3 事業 12 講座の合計 22 講座を開講し、参加者は対面 662 名（前年度対面 695 名・オンデマンド視聴 79 名）であった。本年度は、対面での開催を優先し、動画（オンデマンド）配信は行わず、全体の受講者数は微減となったが、活動指標としては達成することができた。

【取組 2】地域住民に向けた健康増進支援事業は、最終年度以降も「持続可能な地域住民向けの健康イベントを 5 件以上定着させる」を活動指標（KPI）にし、本年度は、2 事業 7 件の取組み（中高年の健康増進ウォーキング 4 件・光と色でつながるびわ湖東北部地域の健康づくり 3 件）を実施し、目標を達成することができた。「中高年の健康増進ウォーキング」では、自治体等（長浜市・米原市・彦根市観光協会）と協働で行ったもの、また、大学の教育研究をベースとして実施したもの等、多様なウォーキングイベントを企画し、11 月から 12 月にかけて 4 件全てを対面で実施し参加者は 104 名であった。「光と色でつながるびわ湖東北部地域の健康づくり」では、3 つの取組みをとおして 108 名の参加があった。前年度に引き続き実施会場が一の大学においてのみとなったことから、域内 3 市への分散実施が課題となった。

【取組 3】国際交流促進事業・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業は、「産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する」を活動指標（KPI）とし、本年度は、12 事業 27 件（「災害に強いまちづくりプロジェクト」1 事業 4 件、「自然と歴史とくらしを次代につなぐプロジェクト」3 事業 4 件、「地域課題解決に取り組む学生プロジェクト」3 事業 8 件、「まちの魅力発信プロジェクト」5 事業 11 件）の活動を行い、目標を達成することができた。「災害に強いまちづくりプロジェクト」では、前年度に引き続き、防災士養成講座を開催し、4 名の学生を含む協議会機関推薦者 46 名が受講した。「地域課題解決に取り組む学生プロジェクト」のうち、「SDGs でつながる学生の地域連携活動推進事業」については前年度比マイナス 4 件となっており、達成目標のひとつである「地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。（2023 年度評価）」をクリアするためにも主要な位置づけにある事業であり、学生の積極的な取組みが推進されるよう支援の在り方を検討したい。

【取組 4】ネットワーク推進事業は、地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年 2 回以上開催し、活動の満足度等を測定する活動指標（KPI）については、「キャンパス SDGs びわ湖大会」、「市民活動団体交流プロジェクト」を実施し、目標を達成することができた。「キャンパス SDGs びわ湖大会」には 6 件の取組み、「市民活動団体交流プロジェクト」3 件の取組みを実施した結果、地域課題に取り組む活動を行う住民・大学生・教職員・自治体職員・産業界などから多くの参加者があり、意見、情報の交換が積極的に行われた。

WG-B 事業は、私立大学等改革総合支援事業タイプ3（プラットフォーム型）として、文部科学省の事業としてスタートし、連携機関それぞれの得意分野を受け持ち、効果的な事業の推進や継続について検討と実践を重ねてきた。既に KGI や KPI は、概ね達成していることもあり、数値目標だけでなく、地域の実情や社会の変化に対応しながら事業内容の改善や質の向上に努めたい。さらに WG-C（地域を知る・学ぶ）、WG-B（地域で活動する）、WG-A（地域で暮らす・働く）が、らせん状に繋がるしくみづくりと、次年度は成果にこだわり取り組みが自立して継続されるよう、ブラッシュアップをしていきたい。

本年度 WG-C においては、協議会設立当初に掲げた地域の課題解決のための達成目標(KGI)の達成に特に注力して活動指標(KPI)を意識しながら事業実施を図ってきた。KGI 及び KPI の達成のために、「開発した科目の運用」、「オンライン授業などを活用して受講者数を伸ばす可能性の検討」を中心に「実施状況は順調」の事業についての見直し、課題解決のテーマに基づいた実施事業の再編、配置転換をはかったうえで、年度事業計画を立てることが出来た。また、数年来続いてきたコロナ禍が明け、感染症対策のため、協議会立上げ当初に計画していたが実施が困難であり実施形態等を変更した事業等についても、概ね当初計画の形で実施することも出来、KGI 及び KPI の達成へ貢献することが出来たと考えている。

達成目標(KGI)における評価については下記のとおりである。

本協議会に参画する全ての大学・短期大学共同での科目開発を行い、単位互換科目として「近江での SDGs」の実践の開講を行った。特に、ただの単位互換科目という事ではなく、あくまで連携機関すべての教育の資源がその科目に落とし込めるよう、参画 5 大学の教員が各科目をオムニバス形式で実施することにより、協議会の科目として、特に本協議会が位置するびわ湖東北部地域及び SDGs を学ぶことが出来る科目となった。また、SDGs や当地域に関する単位互換科目を協議会の枠組みで実施することにより、地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年と比較して 20%以上増加を達成することが出来た。

また、びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関における共同教育事業について、幼・小・中・高校生向けの学習支援活動、プラットフォーム事業参加校合同で高校生向けの大学説明会、社会人等向けの共同教育講座を軸に、2019 年活動実績より事業数及びそれぞれにおける参加者数について倍増しており、びわ湖東北部連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加を達成した。引き続き安定的、経常的な事業実施を今後も目指していきたい。

活動指標(KPI)における評価については下記のとおりである。

「SDGs をテーマとした共同講義事業」における活動指標(KPI)である「SDGs をテーマにした共通科目を 1 科目以上開発する。」については、2021 年度に開講する準備を整え、年度を重ねるにつれて履修登録者も増え、グループワーク等授業内容も充実したものとなった。引続き、科目の内容のアップデートを年度ごとにはかり、現状の履修状況を鑑み、年度 2 回の開講もしくは新たな科目の開発も検討していきたい。また、「SDGs 単位互換科目」、「単位互換提供科目」については、本年度については前年度に引続き通常の形態で実施することが出来、協議会当初の計画を復活させることが出来、それぞれ充実した講義内容となった。

「幼・小・中・高校生への学習支援事業」においては、減少傾向にある大学・専門学生、中学・高校生を中心とする若者世代の読書量への課題に対して読書活動推進を目指す事業を前年度から1事業追加し、3件実施した。また、不登校児童に対しての実情や生徒の様子、関わり方を学ぶ機会を提供した。また、昨今の教員の働き方改革の一環である運動部活動の外部・地域移行に向けた現状、諸課題について、学ぶ機会を提供し、今後の教員の業務負担軽減、幼・小・中・高校生への学習支援につながる人材育成を行うことが出来た。更に昨今のDXの社会情勢を見据え、学校5～6年生とその保護者10組を対象に統計データやプログラミングに親しみながらSDGsやMLGsについて学ぶこと中心としたワークショップの実施、また新たに電子書籍作成の事業を新規に実施した。

これらの活動を通じて、びわ湖東北部地域における生徒や保護者の教育ニーズに対応した多様な教育事業の支援が継続的に行うことが出来た。

「地域内進学促進事業」においては、本年度はコロナ禍前の計画であった5大学合同での大学説明会を実施することが出来た。各大学の枠組みに囚われず、「びわ湖東北部地域連携協議会」の枠組みでブースを設け、各大学の担当者それぞれが属する大学の枠組みを超え、協働して5大学の大学説明を行うことが出来た。

「地域人材活性化支援事業」においては、本協議会の根底である「SDGs」をテーマにしたSDGs地域人材育成事業、昨今のDXの流れに対応するためのICT教育推進教員養成事業、救急法を軸にした保育・教育者人材養成事業、世界的な流れであるジェンダー平等を掲げたユースリーダー育成事業、質の高い看護の実践と人材の育成事業、とそれぞれ幅広い5つの分野での地域人材活性化支援事業を実施することが出来た。協議会設立当初より、分野の裾野を広げることににより、より多岐にわたってびわ湖東北部地域の当該人材の育成に努めることが出来た。

「共同FD・SD事業」においては、まず地域を担う次世代人材の育成に向けた共同IR事業で本年度は、人材育成の観点から、学生の学習履歴・成果を中心に、中・長期的な視野から教育機能と就業との関連性の調査を行い、分析結果を大学の教育改善や運営に還元しながら、若者の地域定着に必要なベンチマークとなる要素の検討を行った。特に事業も実施4年目となり、調査データも2020年度から蓄積してきたことから、より客観性のあるデータをもとに、大学教育と人材育成・就業の関係性に一定の解答を得ることを目指すことができた。また、共同FD・SDについては、本年度5回開催し、それぞれ「大学における資産運用とその役割」、「学生エンゲージメントを高めるための教育・学習環境の検討、実践」、「大学設置基準改正と大学運営」、「コミュニケーション力の向上」、「キャンパスハラスメントの防止」、をテーマに、プラットフォーム参加校の教育の質向上を図るための教育機会を提供することが出来た。また各年度実施を重ねてきたことで一定の定着を図ることも出来た。

ワーキンググループDは本プラットフォーム事業を一層周知するためにFM滋賀でのラジオCMを制作、放送した。スポット放送期間中の本協議会ホームページへのアクセス数は前年度と比較すると伸びなかったが、2022年12月10日に発売したWG-Aの商品発売をラジオCMで知ったというSNSへの書き込みや事務局への問合せが一定数あり、効果があった。

2021年度に作成したポスターの作成・配布・掲示及び協議会ロゴマークを入れた封筒・クリアファイルの作成・連携機関への再配布を行った。次年度以降も協議会リーフレットと

合せ本プラットフォーム事業を周知する目的で活用していく。

2021 年度の PF 事業の成果を市民向け成果発表会という形で、協議会として前年度に引き続き対面で実施することができた。対面での実施により、近隣市民の方に参加いただくことができ、協議会の活動を知っていただくだけでなく、多くの感想、意見等を直接伺うことができた。また、本年度は外部団体からの問い合わせが一定数事務局に寄せられたことから、5 年間継続して事業活動を行うことで、少しずつではあるが活動が認知されるようになってきたと感じられ、次年度も本拠協議会の認知度を高められるようにしていきたい。

このように各ワーキンググループの取組から、本年度はコロナ禍を経て回復する地域社会において必要とされる事業活動を行うことで、SDGs を活用した豊かに働き生活できるびわ湖東北部地域の創出を実現することの実現に向け、達成目標(KGI)や活動指標(KPI)を達成することを意識した活動を行うことができた。特に、WG-A の「産官学連携事業」では、これまでに 5 件の商品化等に成功し、地域資源を活用した商品を地域住民や企業と協業することで地域経済の活性化に寄与し始めている。また、「ワーキング B の「まちの魅力発信プロジェクト」やワーキング C の「幼・小・中・高校生への学習支援事業」において、活動を前年度以上に幅広く展開できたことは、各連携機関が地域ニーズを捉え、創意工夫を加えた活動を計画・実践に結び付けられている証拠であると考えられる。

しかし、今後、事業活動を持続的に発展させていくための課題としては次のことが考えられる。

まず、達成目標(KGI)のうち達成できていない目標の達成に向けた事業計画の見直しである。具体的には、「就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する」という KGI は未達のため、大学・企業・行政それぞれがもつ採用に関する知見を持ち寄り、従来にはない事業活動が必要になる可能性がある。視察研修でいったヤマガタデザインでは「働くこと」と「生活すること」の双方の魅力を発信するリクルーティングメディアの活用で雇用の改善に成功している事などから、企業活動と地域の魅力をワンストップで情報発信する工夫なども検討していきたい。

また、WG-B 及び WG-C において地域ニーズを汲み取った、多種多様な分野の活動が展開される成果がでてきたが、本事業終了後も継続的に活動を継続していくためには、活動の自立化を視野に入れた事業活動の在り方の検討が必要な時期にきていると言える。数多くの事業活動が継続的に行われ、参加者などから次年度以降の開催を求められている活動が多いからこそ、本事業終了後も継続できる方法を考えていく責任があると思われる。

その他、WG-B 及び WG-C において指摘されたことであるが、本地域の課題解決のために実施している活動に、課題を抱える当事者が参加してもらえるように広報手段の工夫が必要である。

参加対象によって、広告媒体を使い分けることや加盟する連携機関と協力した広報物の配布を積極的に行うことも重要であるが、それと同時に余裕を持った日程の設定や個別アプローチを行うといった工夫も必要と感じられる。

そして、いよいよ本事業は次年度が最終年度となるため、達成目標(KGI)および活動指標(KPI)の達成だけではなく、事業終了後の継続した産官学連携事業を視野に入れた枠組みを模索する必要がある。検討するにあたっては、WG-C（地域を知る・学ぶ）、WG-B（地域で活

動する)、WG-A(地域で暮らす・働く)が、らせん状に繋がる流れが目に見える形になるよう仕組みを考えることで、本事業終了後も地域の活性化に寄与する活動の継続の実現につなげていくことが必要だと思われる。

以上のように次年度に向けた課題もあるものの、本年度の事業活動は概ね順調に実施することができた。このことはSDGsを活用した豊かに働き生活できるびわ湖東北部地域の創出を実現することを目標に掲げて事業を行う11の連携機関の相互支援の賜物である。次年度以降も引き続き連携機関からの支援を受けながら、目標達成に向け事業の発展に努めていきたい。

(2) コーディネーターによる事業の検証と次年度に向けて提言

コーディネーター：重岡 成

コーディネーター：荻野 恵市

2023 年度のびわ湖東北部地域連携協議会のプラットフォーム事業（以下、PF 事業）は、これまで 5 年間の活動で培った経験をもとにした継続的に行われている事業を中心に事業が展開され、80 件もの活動地域に根差した活動を実施することができました。前年度に引き続いて地域の方々の要望や意見を参考にして、地域課題の解決に結びつく公開講座や各種イベントが実施されています。本年度が本事業の評価年度となっていることもあり、地域社会の課題解決に向けて設定した KGI（達成目標）の達成を意識した多種多様な活動に対して、コーディネーターとしての評価と課題、次年度に向けた提言をいくつか以下に述べさせていただきます。

本協議会の事業活動に対して設定した KGI（達成目標）に対する評価として、以下のよう
に評価させていただきました。

【事業活動全般について】

PF 事業において各 WG で設定した 6 つの KGI（達成目標）のうち、5 つの目標が達成することが出来たことは評価できると考えます。これは過去 5 年間の事業活動において、事業計画の段階から各連携機関が、KGI・KPI を意識した事業提案を行い、活動を確実に実践した成果だと思われます。

【各 WG で設置した KGI（達成目標）について】

WG-A の KGI の 1 つである「産官学連携研究をきっかけとした 3 件以上の事業化または商品化」では、5 件もの産官学連携研究をきっかけとした事業化または商品化を達成できたことは、産官学連携のためのマッチングや相互コミュニケーションが充実してきたことの証でもあるため評価できるものです。次年度においてはこれまで以上に大学等が持つ研究成果を産業界の発展に役立つ取組を目指していただきたいと思います。

WG-B の KGI（達成目標）の 1 つである「地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年度比で 40%増加させる。」では、目標を達成できたことはもちろんのこと、地域住民に向けた生涯学習として幅広い分野を提供できたこと、子育て・防災・国際交流などの地域ニーズの高いテーマでの活動を充実することが出来たことは評価できると考えます。次年度も地域のニーズを取り入れた活動が一層充実することを目指していただきたいと思います。

WG-C の KGI（達成目標）である「びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加」では、目標が達成されるだけでなく、過去 5 年間に行った研修等を通じて各連携機関のスタッフ間の人的ネットワークを充実させることが出来たことは評価できます。次年度以降もこうした人的ネットワークを活用した地域に役立つ教育活動を充実させていただきたいです。

以上のことから評価年度である本年度の PF 活動については数値目標である KGI・KPI を

意識した上で、各連携機関の持つ有形無形の資産を最大限活用し、地域性の強い取組を多くの連携機関の協力の下で展開出来たと考えます。

次に PF 事業に対する課題として、以下 3 点を指摘させていただきます。

- ・ KGI・KPI で設定した数値目標は達成できているが、数値目標が達成されたことで、この地域の人々にどのような行動変容をもたらすことができたのか
- ・ 成果としての行動変容について各連携機関で共有できているのか
- ・ 行動変容を地域の魅力として明確にした対外発信をする準備は不十分ではないか

以上の課題は、これまでの 5 年間にわたって活動してきた成果が出ているからこそその課題です。しかし、今後、びわ湖東北部地域に域外のからも人を呼び込み、交流人口を増加させ地域活性化を持続的なものにするためには検討した方がよい課題だと思われます。

【改善提案】

指摘した課題に取り組むための改善提案として、①高等教育シンポジウムのような、びわ湖東北部地域における高等教育の課題及び地域課題を明確化するシンポジウム・検討会の実施、②事業活動の成果を共有し、活動の持続的発展のために定期的な協議会メンバーの交流機会の創出、③活動成果から明らかになったびわ湖東北部地域の魅力についての情報発信、の 3 点挙げておきたいと思います。

①については、過去 5 年間にわたって事業活動を行う中で気づいた本地域における、高等教育に対する課題や地域課題について改めて協議することで、本事業終了後も産官学連携事業として実施すべきことが見えてくると確信しております。また、連携機関が地域課題に対する情報共有する中で優先すべき課題が明確になるだけでなく、課題解決に利用できる地域資源等の発見もあるのではないかと感じております。そのためにも 2021 年度に 1 度実施された、高等教育シンポジウムの実施を次年度において検討していただくと、地域課題や活用できる地域資源の共有が深まり次年度の事業開発だけでなく、中長期的な活動につながれるのではないかと考えます。

②については、これまで実施した数多くの事業活動によって、地域課題の課題につながる成果があげられてきました。しかしながら個々の成果についての共有は十分でしょうか？また、成果の中から地域課題の解決の糸口となる地域の人々の行動変容等の気づきなどの共有は十分でしょうか？これらの成果に関することの共有が深まることで、本地域の魅力や活用できる地域資源が発見できるはずです。そのためには、協議会とは別に定期的に各連携機関のメンバーがコミュニケーションをとる機会があると、情報共有が進み、地域に役立つ事業の開発が加速すると思います。次年度においては協議会関係者の交流会を増やしていただければよいのではないかと考えます。

③について本地域の活性化という点では、連携機関の皆様や地域住民の事業活動への参

加だけでなく、地域外の人々にも参加していただけるようにすることも大切になると感じています。地域外の人々に参加してもらうためには、本地域の魅力を明確にしたメッセージ性のある広報が不可欠になってくると確信しています。これまで WG-D において広報の工夫をされてきたことと思いますが、次年度においては地域内の人々に向けた広報活動だけでなく、地域外の人々にも伝わる情報発信の仕方や産官学が協力した統一感のある情報発信の検討をしていただき、新たな事業の担い手の発掘など本地域と関係する交流人口の増加を目指していただくことで地域活性化を持続的なものにしていただけるのではないかと考えます。

以上のことから、是非、来年度はコミュニケーションを密にとっていただき、情報共有を深めていくことで、これまで本事業を通じて形成された連携機関のネットワークを生かした地域活動を本事業終了後も継続する方法を検討いただきたいと思います。このことこそ、びわ湖東北部地域の活性化に役立つことと思います。

最後に本 PF 事業の開始以来、これまで行っている活動が継続的に採択されている点は、5 大学(滋賀大学、滋賀県立大学、滋賀文教短期大学、聖泉大学、長浜バイオ大学)、各自治体(彦根市・米原市・長浜市)、産業界(彦根商工会議所・長浜商工会議所)が、一致協力して 4 つのワーキンググループの取り組みに対し、協議会などの会議を定期的にかつ高頻度で開催され、お互いの情報交換のもと、すべてにおいて真摯に取り組まれたことによるものであり、大いに評価できるものであります。

いよいよ次年度は本事業の最終年度を迎えます。これまでの活動の積み重ねとともに、『本地域らしさ』を具現化した取組を通じて、WG-A(地域で暮らす・働く)、WG-B(地域を創る・活動する)、WG-C(地域を知る・学ぶ)が、らせん状に繋がる仕組みを考え、本事業終了後も地域連携活動が恒久的・継続的に行われるように、各連携機関の皆様と引き続き活動していければと考えています。

以上

(3) 外部評価委員による評価と提言

外部評価委員（下記の4名）による外部評価を兼ねた成果報告会（2024年3月6日水曜日）を実施した。本年度の取組事業の総括及び協議会を構成するすべての連携機関による実施例報告を行い、外部評価委員より取組に対する評価と提言がなされた。

外部評価委員

梅本 哲男 氏（株式会社ヤマムログループ 取締役）

柳原 和範 氏（株式会社滋賀銀行 営業統轄部 地方創生担当部長）

内藤 正晴 氏（長浜市教育委員会事務局 教育部長）

橋本 光正 氏（株式会社平和堂 地域共創事業部 部長）

【 評 価 】

＜プラットフォーム事業全体について＞

- 5年間の活動で数値目標が概ね達成されたことは高く評価する。

＜個別の取り組みについて＞

- 「大学での養蜂活動を通しての地域活性化事業」および「新規に開発した尾上菜F1 ハイブリッド種「さいさい」を用いた6次産業化事業モデルの構築」2件の事業から商品化を実現したことを大いに評価する。
- 焚き火トークなど独自性の高いユニークな取組をされている点が評価できる。
- 大学生が主体となって数多くのまちづくり活動が実施されていることを評価する。
- クラブ活動指導人材の地域移行や救急法などの話題性の高い事業に取り組んでいる点が評価できる。
- 本の帯・POPコンクールをはじめとした文化芸術分野での取組を評価する。

【 提 言 】

＜プラットフォーム事業全体について＞

- 今後は本協議会の取組が実質的にどのように地域貢献に寄与しているのかと明らかにしてほしい。

＜個別の取り組みについて＞

- 商品化した事業について、今後は採算面などが事業継続の障壁になりうることもある。そのことも念頭において金融機関等に相談することも必要であると考え。
- 起業家育成の取り組みでは金融関係のセミナーも実施することで起業を目指す方が増えるのではないかと考える。
- UIJターンの取組について、若者がこの地域から出ていくことは避けられないことかもしれないが、帰ってこないということが非常に大きな問題だと考えている。是非ともその視点をもって事業を継続していただければと考える。

- 多くの健康促進を実施しているが、滋賀県が健康増進のために導入しているアプリ「BIWA-TEKU（ビワテク）」と連携している健康ウォーキングイベントなど、連携機関以外の機関や取組とも共同での実施も検討いただきたい。
- びわ湖東北部地域では空き家の数が増加しており問題となっている。他の地域（例えば愛媛県大洲市の「学生と行政が連携した空き家バンク」「大洲城キャッスルステイ」など）の空き家や歴史的建造物を有効活用するような取組を参考にし、新たな取組にも挑戦していただきたい。
- フリースクールなどの学校以外での教育や居場所の確保ということが昨今非常に必要とされてきている。地域の新たな課題にもフォーカスして活動の幅を広げていただきたい。
- 本の帯・POP コンクールはこれだけの応募作品数があり、地域の書店でも PR できるといいのではないかと考える。

2024 年 3 月

びわ湖東北部地域における学術文化教育基盤形成を目的とした
大学・短期大学・地域連携プラットフォーム事業連携協議会
(長浜バイオ大学・地域連携・産官学連携推進室内)

〒526-0829 滋賀県長浜市田村町 1266 番地

TEL : 0749-64-8133

FAX : 0749-64-8140

Mail : platform.jimu@nagahama-i-bio.ac.jp